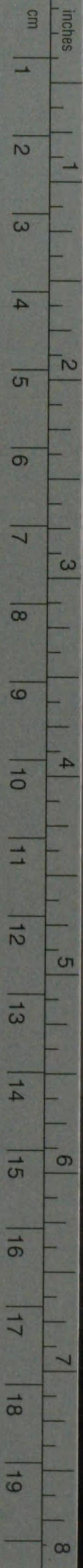


Kodak Gray Scale



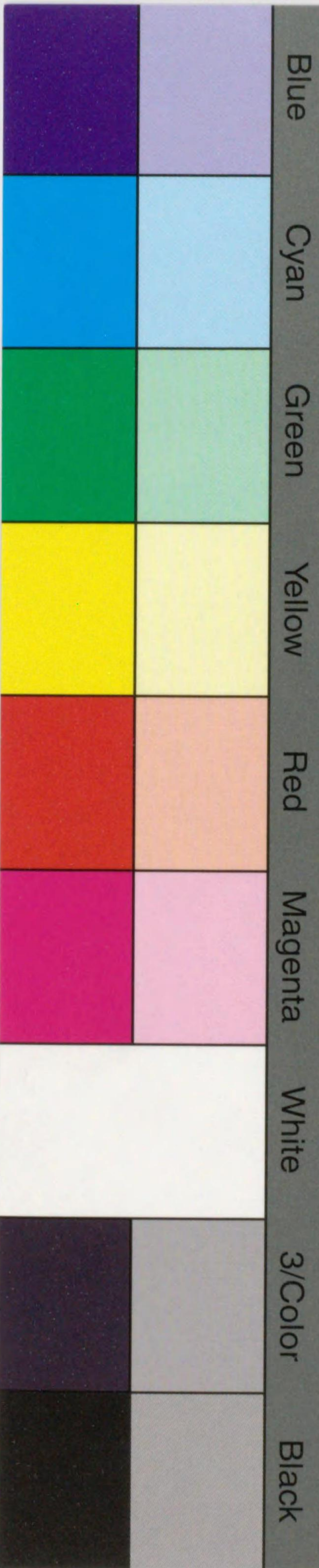
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



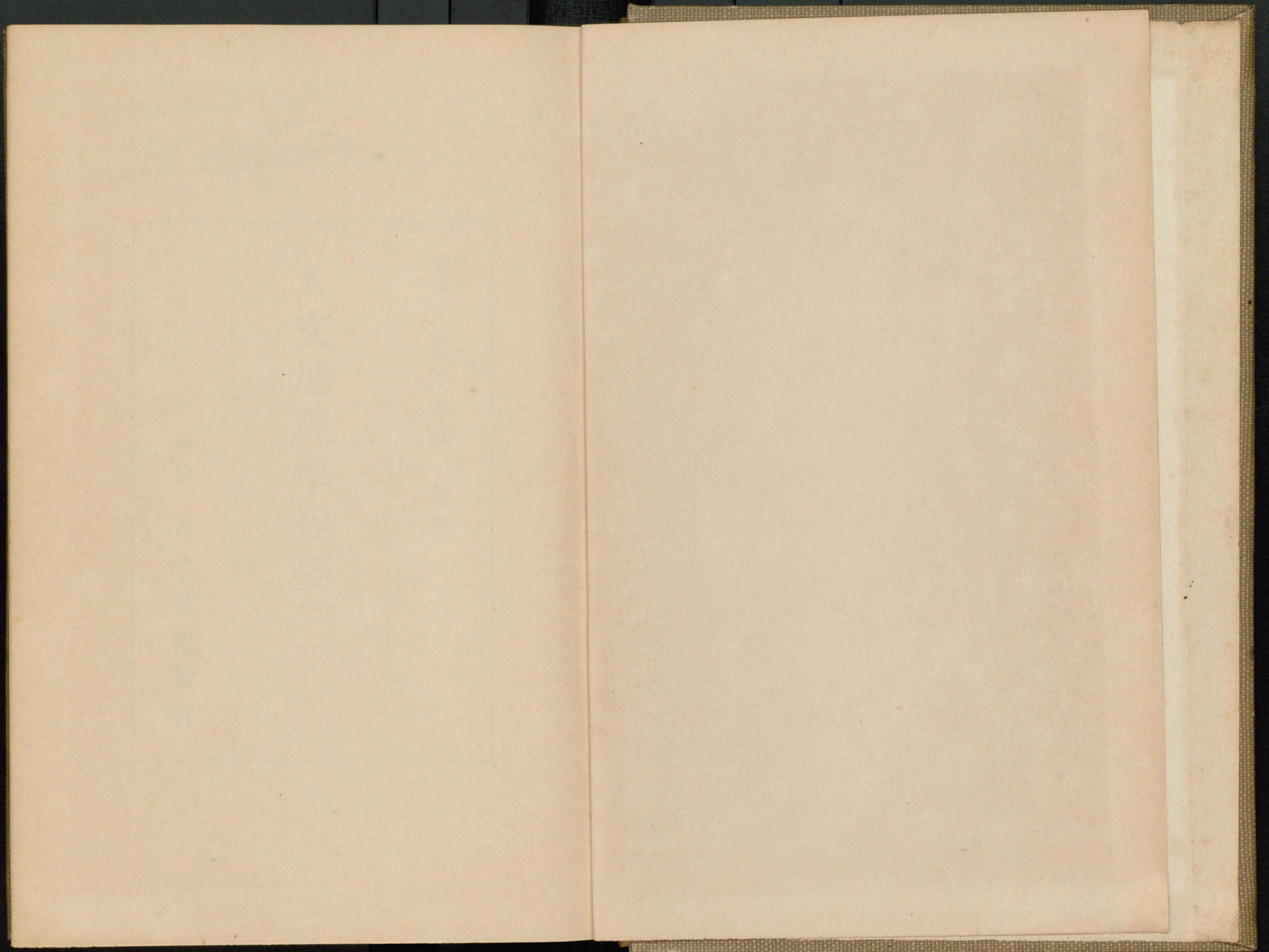
Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



594-181
1200700300253





15.5.130.
K. Kimimatsu.

理學士 佐々木彦一郎著

人文地理學提要



東京 古今書院發行

594

181



I種
W



序

本書は私が第一高等學校で講義したものを増補したものでありまして、もとより獨創の研究的著述と云ふべきものではありませんが、廣く諸家の論文や私の研究論文をも收めてあります。

參考にした内外の著書は多數であります。とりわけヴィダルドゥ・ラ・ブラーシユの人文地理學原論に負ふ所が多大でありました。

本書を出版することを勧めて下さつた辻村太郎先生、又種々の助言を賜つた佐藤弘先輩及び貴重なる藏書及び記録の閲覽を許されたる今井登志喜氏及び柳田國男氏に心からなる感謝の意を表します。

尙東京帝國大學地理學教室及び人類學教室と、第一高等學校の藏書より得たる恩惠の尠くなかつたのは言ふまでもないことであります。

この拙き書を私をして地理學研究の幸福を與へ給ひし叔父君に獻じたいと思ひます。

千九百三十年四月十三日

東京帝國大學地理學部地理學教室にて

佐々木彦一郎

目次

第一章 人文地理學の史的展望	一
地理學の發生	一
近代地理學の父	四
ラツヴェルとブラーシュ	八
現代の地理學	一一
人文地理學の目的	一七
人文地理學の分科	一九
第二章 人類の地理的分布	二二
第一 人類分布の不同及び變則	二二
總論	二二
居住地の限界	二七
人類の居住分布と人口の限度	三三
第二 人類分布の出發點	四七
目次	一

第三 人口密度の成長 五

第四 人類の移動 六

第五 大 聚 團 六

 エジプト 六

 カルデヤ 六

 中央アジア 六

 支 那 六

 インド 六

 東南アジア 六

第六 歐羅巴聚團 八

 境 界 八

 出發點及び擴大の諸條件 八

第七 地中海方面 八

 空虚なる地域 八

 樹木農業の役割 九

 リヴィエラ地方 九

第三章 地理的環境への適應

高地帯 九

山の役割 九

アラビヤ人の影響 九

第一 氣候と人文現象 七

第二 人類の努力 四

第三 適當なる環境への移動 六

第四 民族と風土順化 九

第五 民族の移動 二

 交通機關による移動一三三 戦争による移動一二六 通商による移動一三〇

 宗教上の巡禮隊一三三 亡滅せる民族一三三

第四章 聚落地理

第一 總 論 六

 聚落の位置一三七

 扇狀地上の聚落 一〇

丘陵上の聚落……………一三三

準平原上の聚落……………一三三

ハナワとアクタ……………一三三

聚落發生の人文的條件……………一三五

 交通路と聚落—一三九 新田聚落—一四〇 街路の屈曲—一四四 聚落の變化—一四七

 家屋と聚落—一四九 林障村—一五一

第二 聚村と散村……………一五五

聚村及び散村地方の實例……………一六〇

 (一)聚村の地方—一六〇 (二)散村の地方—一六一

聚落の起源と理由……………一六三

 自然狀態の影響—一六三 地形—一六三 土地の性質—一六三 水利—一六四 社會狀
 態の影響—一六五 原始の傾向—一六五 民族の傳統—一六六 安全な條件—一六六

 耕地に關する制度—一六六 農業經濟の影響—一六六 遊牧時代—一六六 定期に再
 分割を行ふ時代—一六六 所有地の固定した共同農業時代—一六六 耕作法の分化
 せる時代—一六九

聚村の形式……………一六九

 循環耕地の聚村—一七〇 接續せる耕地の聚村—一七一 分離せる耕地の聚村—一七二

散村の形式……………一七三

 古代の一次的分散—一七三 挿まれた分散—一七三 二次的の散村—一七三 近代の
 一次的の分散—一七五

第三 我國の聚落……………一七五

 越中國西部の散村—一七六 村の形式二種—一七六

第四 英國の聚落……………一八三

 散村—一八三 聚村—一八三

第五 獨逸の聚落……………一八七

 聚村—一八七

第六 都市……………一九七

 都市發生の原因—一九九

第七 港 市……………二〇七

 港の種類—二〇七 港の條件—二〇八

第八 近代的大都市の發達……………二一九

第九 ドイツの都市……………二二二

 都市の形態—二二三

 ロシアの都市……………二四三

アメリカの都市の起源 二四六
 都市の形態 二四六

第五章 交通地理上よりみたる各大陸

第一 世界交通の中心 二五〇
 交通の機關 二五四
 第二 ヨーロッパ大陸の交通 二五四
 鐵道密度 二六一

第三 米國の交通 二七〇
 カナダ 二七六
 メキシコ及び中央アメリカ 二七六

第四 その他の大陸の交通 二七九
 南米大陸の交通 二七九
 アジヤ大陸の交通 二八〇
 アフリカ大陸の交通 二八四
 濠洲の交通 二八五

第六章 民族の政治的活動の地理的觀察 二八七

第一 地理的位置の重要 二八七
 中央的位置 二八九
 周邊的位置 二九〇
 小地域 二九五
 大地域 二九五

第二 境界 二九七
 境界の觀念の發生 二九七
 境界の種類 二九七

荒廢地帯 二九九
 城壁 三〇〇
 自然的境界 三〇一
 境界線の長さ 三一一

海洋境界 三〇四
 植民地 三一九
 (一) 特許會社植民地 三二〇
 (二) 王領植民地 三二〇
 (三) 自治植民地 三二一
 (四) 半自治植民地 三二二
 (五) 保護國 三二三
 (六) 從屬植民地 三二三
 (七) 特別植民地 三二三
 (八) 委任統治 三二三

第七章 世界の經濟地理的觀察

第一 地理的環境と食糧 三三四
 地中海の形式 三三四
 アメリカの形式 三三六
 中部歐羅巴の形式 三三八

北歐の形式……………三二〇
 アジヤの形式……………三三三
 農業の形式の擴張……………三三三

第二 商品とその國際的關係……………三四

總論……………三四
 小麥……………三五
 棉花……………三四〇
 砂糖……………三五五
 ゴム……………三五六
 羊毛……………三六六
 木材……………三六七
 石油……………三七三
 石炭……………三六五
ロイヤル・ダッチの起源—三五五
スタンダード石油會社—三七七
モスコール油田—三六三
 鐵及鋼……………三八八
 水力……………三九〇
 索引……………三九三

人文地理學提要

佐々木彦一郎著

第一章 人文地理學の史的展望

地理學の發生

地理學は人類の自然の要求として起つた學問である。即ち地理學の原語たる *geographia* は「土地を記載する」意味であることから知られるが如く、人はまづ自己の住む環境の知識を欲したことからこの學問が出發したのであらう。又あらゆる學問がその源をギリシヤに發したやうに、地理學も亦その源をギリシヤに發した。そして又あらゆる學問が二元的系統をもつてゐるが如く、地理學も亦二元的系統を有してゐた。即ち一は地誌的系統であり、他は通論的系統で

ある。

人はまづ己れの住所を中心とした環境についての知識を欲する。だから地理學も發生的にみて各地方の状況を明かにした地誌的系統の方が古い起源を有してゐる。即ち、アレキサンドリヤ學派に屬する人達、例へばギリシヤのヘロドタスのエジプト、ヘレスポンド、バビロニヤへの旅行見聞録を以つて、最初の地誌的記録としてゐる。又人によつてはホーマーの古典オディッセイの中に遠隔の土地に於ける生活を描いたのを最初の地誌的記述とする人もある。次いで、ローマのポリビオス、又、ローマにゐたギリシヤ人のストラボがある。ストラボは十七卷に互る地方誌を大成した點で、眞に地誌學の開祖として永久に地理學史にその名を止める人である。通論的系統の方はイオニヤ學派を始祖としてゐる。即ち、タレース・ド・ミレトスはすでに紀元前六世紀に於て、土地の物理的な問題を取扱ひ、中世に於てさへ疑はれた地球の球形なることを主張してゐる。この方面の學問はアリストテレスによつて大いに發展されて、地理學は今日の地球物理學的の諸問題を論ずる學問にまで進んだのであつた。

ついでエラトステネス、プトレミーがあらはれた。プトレミーは幾何學と天文學との援けをかりて土地を測定した。彼の作つた世界地圖は當時としては驚くべき程の正確さをもつてゐるものであつた。

それ以後十九世紀まで地理學の發達に見るべきものがなかつた。アラビヤ人の活動や、十六世紀當初に於ける地理的大發見の時代も地圖の發達と物理諸科學の進歩を齎らしたけれども、地理學の發達には資するところが尠なかつた。それは中世風の宗教思想の影響が自然科學的研究を衰退させたためであつた。

尤も、十七世紀にベルンハルド・ヴレニウスがあらはれた。彼の「地理學通論」(一六五〇年の著述)は地誌的地理學に未曾有の革新を與へた。この書はフンボルト及びリッターの時代に至るまで最も價值ある書とされた。即ち通論的地理學を基準として地方地誌の内容を整え、地表現象を海洋誌、氣候學、山系誌の三つに分ちて述べた。この書こそ實に近代地理學の基礎となつたのであつた。それは二世紀も隔て、フンボルトがこの書に刺戟されて地理學の學問的建設の途に向つたことから知られる。然し彼の時代までヴレニウスの精神を繼いでこれを發展させた者は更になかつた。

人文地理學はその母胎を地誌的地理學に求めた。地方地誌の記述的傾向には特に人文的要素が多く、むしろその學問的興味は人文的方面たる各地の人種、民族の移動、風俗、制度などに

あつたのである。そしてどちらかと言えば歴史と近づいたのであつた。

これに反して通論的地理學の方はその取扱ふ問題が物理的方面にあるので、數學的精確さを求めて、天文學とかその他の理學的方面の學科に近づいたので、地理學の二元的要素は益々分離して來た。ことに一方歴史及び自然科學の發達がこの分離的傾向を強めたのであつた。

この地理學に於ける二元的要素を一元的基礎に置いて、眞に地理學の學問的建設がなされたのは十九世紀に於てであつた。

近代地理學の父

即ちこの偉大なる學問的事業は時を同じうしてドイツにあらはれた近代地理學の父ともいふべき、アレキサンダー・フォン・フンボルトとカール・リッターの二巨人によつてなされたのであつた。

この地理學の兩雄は別々の方向を求めた。フンボルトは無限の大なる世界、綜合された宇宙を觀じ、一方リッターは地表を限られた環境とし、その内部に於ける種々の機能の中から主として人類に及ぼす影響を考察したのであつた。今ここに兩氏の略歴を記しその偉業をしのびた



アレキサンダー・フォン・フンボルト

い。

フムボルトは一七六九年ベルリンに生れた。學をフランクフルト・アム・オーデル大學に受け轉じてゲツチンゲン大學に學んだ。一七九六年母を失つてから科學的旅行を志し、鑛山監督官たる職を辭し、イエナに至り、ゲーテ及びシルレルと交遊した。のち西班牙領植民地旅行の自由を保證されたので、一七九九年南米に渡りオリノコ河の上流を探り、アマゾン河の支流ネグロ河に出で、オリノコ河の分流地點を確め、ついでキューバ島、コロンビヤ、エクアドルを経てアンデス山脈を究め、ペルーよりメキシコ、北米を経て巴里に歸つた。この大旅行の記録は「新大陸熱帯地方旅行」といふ名で巴里に於て一八〇七年から一八二七年まで二十年間に著述され、出版は一八三四年に及び、二枚折及び四つ折三十數卷の大冊で、獨、佛、英の諸版十數種に及んでゐる。一八二七年の冬プロシヤ王ウイルヘルムの命に應じて伯林に歸つた。當時プロシヤに於てはフムボルトはその兄の學者であり且政治家たるウイルヘルムと共に列國に誇る學界の耆宿であつた爲、プロシヤ王の旅行毎に隨行した。一八二九年ロシヤのニコラス皇帝の招きによつてウラル、アルタイ兩鑛山地方を調査し、金剛石の發見及び中央アジヤ山脈の走向に關する學說に考へ及び、又磁氣觀測事業の必要を唱へた。彼の晩年の大作「コスモス」(宇宙)は

彼の自然科学的宇宙觀を集成したもので、土地と氣候と人類との關係を述べて人文地理學の發達に資するところ極めて大であつた。一八五九年五月六日九十歳で伯林に永眠するまで、伯林を今日の如き學藝の一大中心とする基礎を築きあげるために貢獻した。

彼の地理學に對する寄與は研究の主題を地上の自然現象におき、それを各地域に關聯せしめてその相互の因果狀態を究めた點に存する。

彼はその教養を自然科学にうけたが、その哲學的精神は更にこれを越えて進まざるを得なかつたのである。彼は如何なる現象を觀察する場合にも必ず環境を考慮においた。そして更にその適應を考へた。こゝで彼は環境適應の一般法則を求めた。即ち彼は類似の環境に於て現象の統一を計らんとしたのである。ここに於て今迄別々に發達した地誌的地理學と通論的地理學との障壁は撤せらるゝに至つた。地誌的地理學は通論的地理學によつて統一せられなければならないと共に、通論的地理學の統一の方針は地誌的地理學によつて授けられなければならないのである。かくて地理學は一元の基礎の上に建立せられ、近代地理學が生れたのであつた。

カール・リッターはフムボルトとほぼ時を同じうしてあらはれた。即ち一七七九年クエドリンプルグに生れ、ハレ大學に學び、のち家庭教師としてフランクフルト、ゲンフ、イタリヤを



カール・リッター



フリードリヒ・ラッツェル

經、一八二〇年フランクフルト大學のギムナジュームの教師となるまで靜かに地理學の研究に従事した。一八二〇年ベルリン大學の地理學の教授となり、在職中ヨーロッパ大陸のあらゆる地方を旅行した。彼は比較地理學の祖とも言ふべき人で、各地の類似現象を比較し、その著「一般比較地理學」は不朽の著と稱せられてゐる。一八五九年九月二十八日逝去した。

カール・リッターはフムボルトの如く大旅行の經驗はなかつたが非常な讀書家でその教養は歴史並に哲學に就いて深かつたのであつた。その哲學的教養と該博なる智識とによる思索的研究をもつて實地觀察の不足を補ひ、地理學の二元的分岐を一元の基礎の下に持ち來つた功績はフムボルトと同様であつた。彼の著書「一般比較地理學」(十九卷)には適應の原則と分布の原則とが明確な形式を以てあらはされてゐる。フムボルトの純正な科學的記述は地理學界に大した影響を及ぼさなかつたに反し、リッターは地理學界に甚大なる反響を及ぼした。リッターの敘述は極めて整頓してゐて原則を明瞭なる形式で表現し、その論述には矛盾のない體系が備つて居たからである。フムボルトは近代自然地理學の鼻祖であるに反し、リッターの教養はおのづから人文地理學の方面に赴かした。従つて人文地理學はリッターに始まると云はなければならぬ。リッターは人類を各地域に就てみてその相互關係を明かにしその分布と其文化的諸要

素とを探究して地理上各地域が歴史の變遷に及ぼすことの大なる事を明かにしたのであつた。

ラッツェルとフラーシユ

十九世紀の所謂啓蒙時代を経て、ドイツにフリードリッヒ・ラッツェル、フランスにヴィダル・ドゥ・ラブラーシユがあらはれた。尤もフランスにはブラーシユより前にエリゼ・レクリユがある。彼はゼラル・ゲオグラフィ(二冊)、ゲオグラフィ・ユニヴェルセル(十九卷)ラテル(二卷)の著者として記憶さるべき人である。

ラッツェルは一八四四年八月三十日ライン流域のカールスルーエに生れ、ハイデルベルヒ大學に學んだ。大學卒業後南フランス及びイタリヤに研究旅行をなし、その後ケルン新聞の自然科学學術通信員として普くヨーロッパとアメリカの兩大陸を旅行した。彼はこの旅行によつて得た數多の研究題目をかゝえて書齋裡の人となり、一八七〇年にミュンヘン王立理科學校の講師に、一八八〇年には地理學の正教授となつた。一八八六年オスカー・ベッセルが一八七五年まで擔當してゐたライプツヒ大學の地理學講座に招かれ、一九〇四年に死するまで十八年間地理學全般に互つて偉大な貢獻をなした。たゞに地理學ばかりでなく近接の他の學問の領域にま

で未だ嘗つて見ぬ影響を與へた。

彼の著作の主なるものは「人類地理學」二卷、「政治地理學」、「小論文集」二卷、「人類學」二卷、「北美合衆國」二卷で、この等身に達する著作のもつ影響こそ彼の名を永久に残すものである。

彼はその「人類地理學」に於て、地球を人類の住所として人類の上にはたらく地理的諸要素の相互作用を研究し、「政治地理學」に於ては國家の上にはたらく地理的諸要素の相互作用を研究したのである。即ちラッツェルは人間のあらゆる經濟的、政治的等の活動を地理的環境との關係に於て順序をたてて合理的に集成的に研究したのである。

彼は當時の哲學者及びカール・リッター並びにその學派の影響を受けた。これは彼の學問に哲學的教養の深い素因である。併しながら彼は決して哲學的の方向のみに向はず、アレキサンダー・フォン、フンボルトの自然地理學上の感化を充分に取り入れて、總ての研究の基礎を實證的觀察に置く自然科学者として大成したのである。ラッツェルの學問上の功績の大いさは、一九二九年五月に於ける彼の二十五年忌に際して、オットー・マウルの言つた感想によつて代えたい。

「死後二十五年にして尙ほ感謝の念を以つて追憶される學者は實に少ない。殊に人間性の法則

に關する學問に於ては多くの人々はその學問の體系の一部門に於て幾分の力を致して居るに過ぎない。その個々の人々の指導精神の源をなす人は、僅少の實に恵まれた天分を授けられた王者とも稱せらるべき人であつて、單に才能に秀れてゐるのみならず、數代の後繼者に涉つてその發展が劃される可き研究の對象の根底を礎いた大學者である。故人ラッツェルは實に斯る稀有の人格者の一人であつた。」

ラッツェルはある現象に對しその實例を蒐むるに熱心なる餘り、環境及びその時代的脊景に對する反省に於て缺くるところがあつたが、それは又一方文化科學に對して多くの實證的材料を提供し、それらの學問の理論的飛躍の危険を避けしめ、その理論の確さを裏書きし、學問の發展を刺戟するところが大であつた。オッペンハイマーの名著「國家」がいかにもラッツェルの政治地理學に負ふところ大なるかはその脚註を見ても直ちに肯かれるところである。しかし、彼は現象の結果のみを追跡してその發生的過程の吟味が不足であつた。これはリッターも陥つたところで、書齋學者 (Shriften Lehrer) の免れ難いところであるかもしれない。結果からみた現象は一見すれば形態的に同じ範疇に屬するが如く見えても、本質的には全く相反するものがある場合が非常に多い。ここに於て十把一束的に蒐集した例證はいかに數に於て多くともその

地理學的價値は乏しい。本質的にはむしろ學問的粗雑である。後年單純な相關論者となり易いラッツェル學派の陥り易き缺點はここにあつた。

ラッツェルの功績を充分に認めて、しかも同時にその缺點を知悉してゐたのが、ラッツェルと相並んで當時人文地理學の輝ける學者であつたフランスのヴィダル・ドゥ・ラ・ブラーシュであつた。

彼は一八四五年に生れ、一八八七年より九八年まで高等師範學校に、次にソルボンヌ大學に移り、一九一九年に死んだ。彼は自由討究を尊び注意深い研究調査をなし、同じ現象について各地域の特性の發見に努めた。即ち地理的要素の分析とその要素の相互間の關聯の研究によつて綜合的認識に至ることに重きをおいたのである。その著書「人文地理學原論」は實に不朽の名著で讀む毎に新しい魅力と多くの暗示とを與へる書である。フランスの地理學者はラッツェルをよく研究しよく消化して居り、ブラーシュも亦ラッツェルの業績については賞讃の言葉を惜しまなかつた。

現代の地理學

ドイツに於てはその後、ゲッチンゲン大學のヘルマン・ワグネル(一八四〇年—一九二九年)、ハイデルベルヒ大學のアルフレット・ヘットナー(一八五九年—)出で、又自然地理學の權威たる柏林大學のアルベレヒト・ペンク(一八五九年—)は又優れたる人文地理學の學者であつた。

世界大戰が地理學の趨勢に與へた影響は大きかつた。合衆國クラーク大學のジョーンズの見解によれば、世界大戰は地理學に對して地方的な見地から眼界を世界的に廣くし、政治的區分の代りに地理的單元に従つて事物を表さうとする傾向をつくり、又人類と環境との關係を表出する術語を制定し、地理學の原則の數を増加したのである。殊に政治地理學は、戦後一般社會に於て必要な智識としてこの學問を要求したため非常に進歩した。機運は人物を作り、この時にあたりラッツェルの政治地理學を近代的標準にまで高めた人に瑞典の學者ルドルフ・チェーレンがあらはれた。彼は一八六四年六月十三日瑞典ヴェステル・ゲエーランドのトルソエに生れた。彼は元來政治學者であつたが一九〇八年以來國家の觀察を法律の範圍だけの狭い見地からする法學的な立場を棄て、生態學の基礎にもち來らした。即ち彼は「生活形態としての國家」なる著書に於て *Geopolitik* 即ち地政學なる見解を提唱したのである。

彼は國家を、發生し、生長し、衰弱し、死滅する地理的有機體として觀察してゐる。國家も生物學的存在として生活力と好機運とによつて相互に間斷なく競争をつゞけて、生存競争と自然淘汰とをうけるものであり、従つて生命の危険もあれば、生活の向上の必要もあり、又生存の權利も伴ふわけである。かゝる國家の生活の様式は時と國とを異にするに従つて異つてゐる。彼は列國の經驗的事實を基として國家の本質を、國土、經濟、國民、公共經濟、統治の五つの要素から觀察してゐる。

彼の「政治學の一體系の基礎」は著しく地政學に理論的根據を與へてゐる。而して一九一六年以後uppサラ大學教授として専心研究に従ひ、殊に晩年は世界大戰を中心とした近世の國際政治關係について特殊の興味を抱き、ラッツェルの思想を國家學者と實際政治家との間に活氣づけたのであつた。彼は一九二二年十月十六日五十八歳で逝いたが、彼の新しい方向は政治學より政治地理學への一つの橋わたしをなすものであり、ドイツ、ズーパン、ジージャー、フォーゲルなどみな彼の影響をうけてゐる。そして彼の影響は將來長くつゞくであらう。されば彼の學問的傾向を同じくする地理學者たちは彼の死後二年にして一九二四年一月、「地政學雜誌」を發行し、ハウスホーファー、オプスト、ラウテンザッハ、テルメル、ヘッセなどが幾多の優れたる研究論文を出してゐる。そのためこの學問は實際の政治に裨益を與へるところが尠くなく

この學問は未だ嘗つて見ざる活氣を呈したのであつた。

チェーレンの思想はラッツェルの精神をうけ継いだもので、ラッツェルが「政治地理學」に於いて地理的精神の必要を説き、「この地理的精神は決して實際の政治家に於て見出されないものでなく、總ての國民が所有してゐるものである。この精神は或は發展力、或は植民力、或は征服力として現はれるのであつて、所謂健全なる政治的本能とは確實な地理的基礎に依つた政治上の力の意である。そしてこの地理的精神は教へられずとも發達するもので、之が歴史的或ひは政治的の關係や發展の理解の大いなる助けとなるのである。」といふラッツェルの言葉こそとりもなほさず今日の地政學者の意見そのものである。

アレキサンダー・ズーバン(一八四七年—一九二〇年)はポーランドの如く死滅した國家も更生することがあるから國家は生物の概念と同一出來ぬと言つて、チェーレンの國家有機體説には反對してゐる。その著書「地球人口増加論」「歐洲と植民地との領域的發展」「一般政治地理學提要」に於て、政治地理學的敘述の模範を示し、政治地理學をその内部の本質から遠ざけてしまふ一面的な形態學的傾向に對し政治地理學を新しい基礎の上に樹立せねばならぬといふ彼の主張をよくあらはしてゐる。又オットー・マウル(奧地利グラース大學)はチェーレンを祖述し、

尨大なる「政治地理學」の著書を出してゐる。

政治に關して地政學が成立し得る如く、經濟に對しても地經濟學が成り立ち得る。それにはドイツの Geökonomie がある。それは自然現象の經濟的な解釋及び地表上の經濟のみでなく、地下の富源や諸自然力をも要素として考へに入れてゐる。

ヘットナーの後をうけてハイデルベルヒ大學にあるゼルヒ Sölch が、ローレン Choren(個景の譯がある)なるものを地理的單元として説明することに新生命を拓いてゐる。Choren とは地表に於て同様な形態と函數とをもつ地域を指すのである。

伯林大學ではベンクの後を受けたクレプスは地誌を主とし、ワルター・フォーゲルは歴史地理、殊に都市地理を、アルフレッド・リュールの經濟地理、フリッツ・エーガーの植民地理、ライプツヒ大學はリヒトホーフエン、オスカール・ベッシェル、ラッツェルを出したところだが、今日でもウイルヘルム・フォルツ、ハンス・マイエルあり、ハルレにはシュルユーター、ボンにフィリップソン、ドレスデンにハッサート、ハンブルグにバッサルゲ、アーヘンにフリードリッヒ・エッケルトがゐて、各々人文地理學全般に互り研究してゐる。

イギリスは由來實用を尊ぶ國であり商業地理が發達してゐるが、ロンドンスクール・オブ・エ

コノミツクスのオルムスビー、マッキンダー、リヴァプールのロクスビー、ウェールズのフルール、エデンバラのチズラム、オーギルヴィ、ニュービギン、ロンドン大學のライドなどあり、この國の地理學界は將來非常に期待されてゐる。

フランスではブラーシユの高弟たるエマヌエル・ド・マルトンスを始め、アルベール・ドマンジェオン、リュシアン・ガロア、ジャン・ブリュンなどの著名なる人文地理學者がある。

北歐スウェーデンにはアールマン、ネルソン、ステン・ドゥ・イエールあり、新興ソヴィエトロシヤにはレニングラード地理博物館長たるセミヨノフ・テンシヤンスキーあり、オランダに經濟地理學者ファン・ファルケンブルグあり、イタリヤにはアルマージャ(ローマ)ダイネッリ(フィレンツェ)あり、オーストリアにマハチェック、オーベルハンマー(ウイーン)の諸氏が聞えてゐる。

北米では理論よりも實用が尙ばれ經濟地理學の研究が盛んで、コロンビヤ大學のジョン・ラッセル・スミスが樹木農業論で有名である。又シカゴ大學のホイトルセイ、ジョーンズ、コルビー及びクラーク大學では總長アットウッドを始め土地利用學で當代一人者を以て目されるオリヴァー・ベーカーあり、又、ラッツェルの祖述者たるエレン・チャーチル・センブル女史あり、ジョーンズ、ヨナッソン、ウイスコンシン大學のフィンチ、エール大學のハンチントンは人文現象を氣候及び自然淘汰で説明してゐるので著名である。その外カリフォルニア大學のサウアーはバツサルゲの文化景觀態論の如く、文化景觀態を地理學の中心に置かうとしてゐる。これは今日の合衆國地理學界の輿論を代表したものとみることが出来る。彼は自然景觀から文化景觀の進化してゆく順序を明かにするために文化地理的歴史地理學の必要を高唱してゐる。

以上に於て人文地理學發達の經路を辿つてみたのであるが、今こゝに人文地理學の目的なるものについて諸家の意見を尋ねてみよう。

人文地理學の目的

カール・リッターは地理學は地球表面に於ける物の地方的分布の學問であると共に、各地方によつて相同じからざる諸事情が、人に對し人の生活に對して如何なる影響を與へるかを明かにする學問であると言ひ、ラッツェルは地理學を以つて現象の擴がりや決定する學問であるとなし、又ヘットナーは地理學は地表の場所的性格を認識し、諸現象の地表に於ける空間的擴がりを考察する學問であると言ひ、グイダル・ドゥ・ラ・ブラーシユは地理學は地域に就て現象の綜合を認識する學問であり、その綜合的認識に到達するために、その要素の分析とその要素間に

於ける相互の關聯を研究するのであると言ひ、ジョーンズは地理學は物理的並に生物的なる自然環境と人類との間の相互關係を研究する學問であると言つてゐる。かく色々な言葉をもつて言はれてゐるが結局、地球上の諸現象の分布を觀察し、その相互間の關係を究めるのが地理學の目的であらう。そして自然地理學は地球を一個の自然物として觀察するものであり、人文地理學は地球を人類の住所として觀察するのである。ブリュンヌは人文地理學は地表の人間の研究をする學問であると言ひ、マウルが自然景が文化景に變じてゆく經過の關係を論ずるのが人文地理であると言つてゐる。地球を住所とする人類の活動たるや多岐多様を極めてゐるのであるけれども、これ皆直接間接に自然環境の影響を享くること甚大なるものがある。さればこそ、ひとしく人類の活動經營ながら地を異にすると共に、その人文的景觀を異にするのである。人類の活動が如何に自然の環境の支配を受けてゐるか又人類がいかに巧みに自然環境を利用して自己の活動を發達展開してゐるかを究めるのが人文地理學の目的とする所であらう。

尙、フェンネマンは地理學の進歩過程を次の三時期に分類してゐる。一、記載時代 (descriptive stage) 二、説明時代 (explanatory stage) 三、豫知時代 (predictive stage) である。フェンネマンは合衆國の地理學界は第二の時期を去つて第三期の時期に入らうとしてゐる。そし

て將來に於ては或る地方の開發に際して「地理學技師」の必要になる時があると言つた。ペンクも言つてゐるやうに、土地は人類の住所として限られた大きさのものである。ここに於て、人類の地球上に於ける増加の問題は精密な地理學的考察を求める。それは必然に利用されずに存してゐる生産地を明かにする問題に到るのである。かく地理學は吾々を人類の將來についての大きな問題に導いてゆくので、なさるべき事柄が山積してゐるのである。

人文地理學の分科

人類の活動は實に各方面に互つてゐるので、その自然環境との關係も亦おのづから各方面に分ちて觀察しなければならない。人文地理學は大別して三つに分ち、人類地理學、經濟地理學、政治地理學とする。人類地理學は各人種の分布及びその動靜の状態を、經濟地理學は村落、都市等人類居住の状態及び交通産業貿易等の經濟的方面を、政治地理學は國家領土等の政治的方面を究めるのである。

これらの學問は更に専門的に分科し、聚落地理學、先史地理學、歴史地理學、人口地理學、交通地理學、産業地理學、商業地理學、又最近には前述の如き地政學、地經濟學などの如き新

しき分野が開拓さるるなど、カール・リッターによつて種子を蒔かれ、ラッセル及びブラーシュによつて培はれた人文地理學は今や燦爛たる百花咲き亂れ、各國の學風おのづから獨特の匂ひを漂はし、學問の進運まことに旺んなるを思はしむるのである。これは一面この學問の若さを物語るのであると共に一方この學問の將來の洋々たるを覺えしめるのである。

第二章 人類の地理的分布

第一 人類分布の不同及び變則

總論

地球と人類との關係を理解するに當つて、先づ第一に解決を要するのは次の問題である。即ち地球の表面に人類は如何様に分布されてゐるかと言ふ事である。又、更に正確に言ふならば、種々の地方に於ける人口の密度如何と言ふ事である。各地方による種々な相違、變則などを明かにする事が必要である。それは常に「全體性」の上に於て、即ち地球全般の上から觀察しなければならぬ。全體性の上に於てこそはじめて現象の意義、重要性が確められるのである。

今日世界の總人口は十八億で既に十九億に垂んとしてゐる。

註 世界の總人口は、一七〇〇年頃には約五億、一八〇〇年に六億その後百年間にして九億の増加をみて十五億を算へ今日に於ては十九億に近い。即ち一八〇〇年以來世界の人口は三倍の増加となり、二十世紀の最初の二十五年間にはその間世界大戰のあつたにも係らずその増加の数は實に全十八世紀間に於ける増加の数に比して尙三倍するの多きを示してゐる。世界の人口は實に一年二千萬人近くの割合を以て増加してゐる。

其の結果得られる世界の人口の平均密度は一平方基米に付き十五人にあたる。しかしそれは單なる推測に過ぎない。

そして人口の分布の仕方は如何であらうかとみるに、人口の三分の二は、世界陸地の七分の一に集中されてゐる。即ち、歐羅巴、印度、支那本部、そして日本列島のみで十三億以上の人口を有してゐる。これらの國は互ひに相隔たり、而して相互間に交通のなかつた時からすでに大きな人口を有してゐた。又最近世紀に於て巨人の歩みを以て發展進出して來た國もある。即ちアメリカ合衆國の如きは一九一〇年にすでに一億一百万以上の人口を有してゐた。然し乍ら之は面積は殆んど等しくはあるが歐羅巴の人口の四分の一にも及んでゐない。

若し赤道の南北にある諸國を比較する時には、其の相違は更に驚くべきものがある。溫帯に屬する土地の面積は、南半球に於ては、我々の北半球に於けるより遙かに隘少である事は確かだが、今南部ブラジル、ラブラタ諸國、智利、南阿植民地、オーストラリヤ、ニュージーランド等の人口を、北半球に於いてこれらの諸國に相當する地方の人口と比較したとすれば、絶えず漸次的に人口増加があるにも拘はらず、著るしく不釣合である。南部溫帯の土地の面積は、約千五百万平方杼弱、即ち歐羅巴の面積の約一倍半であり、其の現在の人口の見積りは二千六

百萬乃至二千七百萬を超えない。

上述の數字は益々均一的になる傾向を持つてゐる。然したとひ均一に迄到達する事が出来るとしても、其れは尙遠い先の事である。第十九世紀に於ける歐洲人の未曾有の移民——それは人類の土地占有の進化における轉換點をなした現象であつた——以前は、世界の人口の分布は今日例へばマダガスカル島に於けるが如く人口の三分の一以上が島の全面積の二十分の一に集つてゐる様なものであつた。

このやうな差異は自然的條件に依つて判斷さるべきであらうか。人口の増加が常に甚だしい障害をうけてゐる赤道附近の沼澤地に於いては、熱帯の動植物が常に人類の活動を阻害して居り、或は生活資料と最も密接な關係のある湿度或は溫度の不適當などがある。さうかと思へば氣候の溫和と、豊富なる天然の食物供給といふ都合良き條件の場合もある。例へば、四ヶ月或は五ヶ月の溫暖な雨の多い季節について、適度の降雨と溫度とを有する冬が來て、一年の中に二週期の植物の成長を可能ならしめ、従つて人間に對して二回の收穫期を與へる様な風土もある。季節風の吹く東南亞細亞地方に特有な斯かる風土は、地球上に於ける最も大なる生活資料の生産地である。この季節風地方に次ぐよい風土は、冬の中入りの後攝氏十度以上の溫度と充

分な降雨とを少くとも六ヶ月の期間を有する風土である。この期間は風土順化の爲に可なりの餘地を許すに足るに充分に長い期間である。かかる地域に適應しない穀物は殆んど無く、又多くの果樹と植物についても同様である。

かゝる風土は人類社會の發展に最も恵まれた順調なる環境であつた。然し、かゝる條件だけでは充分ではない。人口増加に都合のよい環境と隣して人口増加の少ない、或は取るに足らぬ所の環境がある。人口過剰のベンガルの側には、その反對に人口稀薄なビルマがある。トンキンの傍にはラオスがある。又同じく春から初夏にかけて豊富な降雨を持つてゐる地域たるミシシッピイ河の流域は、今日ではアメリカ合衆國繁榮の根源であるが、前世紀までは如何であつたか。只狩獵者の領域に過ぎなかつたのである。現在は農業地であるとは云へ、尙一平方糎に付わづかに二十人足らずの住民を有してゐるのみであつて、歐羅巴と著しい對照をなしてゐる。

このやうな人口分布の不同性は、隣接した地域の住民の壓迫に堪えかねて追ひやられたと思はれる地球上の邊境地方にも現はれてゐる。高山の上に、砂漠の中に、又北極の寂寥たる中に、即ち寒い、乾燥せる稀薄な大氣にも拘らず、人類は進出してゐる。然しその進出は何時も同一の速度をもつてゐるとは限らない。又、異つた地方に於ては異つた方法で進出してゐるのである。

五千米の上空では、空氣層の壓力は既に半減して居り、そして生命の必須の熱の根元は稀薄にされた大氣の中で盡きてしまつてゐる。其れにも拘はらず、此の高度より四百或は五百米位下に於ては、西藏に於て、はやくも小さな見すばらしい石小屋と原始的農業が出現し始めてゐる。ペルーやボリビアの高原の上では此と殆んど同じ高さに於て鑛山事業の設備があり、小さな耕作された土地がある。アビシニヤ、エーメン及びメキシコの不毛地は熱帶地方の高原の上、二千米と三千米の間の高さにあるがそこにも永久の住所が榮える。此の點に關しては、新舊兩世界の間は何の相違も無い。高原地は、アメリカの文化發祥地として選ばれさへもした。然し温帶の山地に於ては人類の進出は異つた道を取つて進んだ。即ちバミール山脈、アルタイ山脈、天山山系の中の森林帶の一段上の牧場地帯は、四千米以上もの高さに住むキルギスの牧羊者達に依つて屢訪られる。もつと低い處で、と言つても三千米以上の處もあるが、クルド族やトルコ人の牧歌的生活が行はれてゐる地域がある。元來「アルプス」なる言葉は古代人に依つて、高い地方及び牧地と同義語として用ひられた。しかしこれらの土地に於ては永久的の住所でなく間歇的の住所となつてあらはれて居る。

前述の如く、人口の分布はたゞ單にその土地の地理的環境に依つてのみ説明さるべきものではない事が明かである。人口分布上の多くの變則的事實は、我々に次の事を警告する。即ち現在の人類の分布は唯暫時的の物であつて、不斷の流轉の中にある複雑極まり無き諸原因の結果に過ぎぬと言ふ事である。

地球の表面上に非常に不均等に分布されてゐる人類は現在の人口分布状態は唯段階的たるのみに止まり、安定した段階でさへもあり得ない。我々が決して一時に認識し了解し得る事のできぬ進化の發展中に於ける一段階にすぎぬ。其の作用の幾何かは持續的であり、ある物は最早作用せず、又他の物は今特に活動し始めてゐる。現在の結果は本質的に只臨時的の物であり變動すべき性質の物である。然し、以上の事實にも拘はらず、現在の人口分布の事實は過去の事件の進行の展望を可能ならしめ有利なる點を提供し、そして又恐らく未來に關する幾何かの豫見をも敢てせしめる所の有利點を提供するものである。

然し此の點に關しては、極端に注意を拂ふ必要がある。十八世紀に於て、地球は三十億の人口を荷ひ得るとの説が發表された。此の説が正しいとすれば、其の總數が超過されるためには嘗て十九世紀に於て歐羅巴の人口が二倍にされた如く、現在の人口を只一倍半すれば充分であらう。數個の新興國家の活動的な植民事業から判斷すれば、我々は、遙かに夥しい人口總數に上る道程を歩んでゐる事を現在においては信ぜざるを得ない。五六十年以前、世界に於て最も不毛の土地の一つであつた合衆國中部の大草原が、一躍千六百萬乃至千七百萬の人口を獲得したのだから。しかし我々の先輩が人口増加の可能性を過去に評價したが如く、我々が將來の人口の大きさを過大視するならば其は必らず誤謬を來す事になるだらう。

居住地の限界

地球上に於ける人類の居住分布の状態をみるに實に汎く分布してゐる。いま、一時的の住所でなく、永久の住所としての限界をみるに、水平分布では最北はグリーンランド北端のエスキモーの村落又はスピッツベルゲン群島の炭鑛地たる北緯八〇度以上の地で、最南は南米大陸の最南端南緯五十五度にあるテラ・デル・フェゴ島にある村である。垂直分布としての最高は南米チリ國の鑛山チュピキイナで實に五六〇〇米の高地にあり、富士山の頂上三七七八米を越ゆること實に一八二二米である。南米の背梁アンデス山脈は種々の鑛脈に富み従つて鑛石採掘のため高峻の地に居を定めてゐるので、ペルー國にもキユイスピスヤ鑛山の五二七〇米、チャチャ

ニ鑛山の五〇七二米がある。我國では嘗つて白馬山附近の二六〇〇米の地に鑛山が開かれたと云ふ。南米の横斷鐵道の如きは、いづれも四〇〇〇米の地點を通過してゐる。ボリビヤ國のコロコロ驛の如きは四八八〇米で、我國の中央線富士見驛の九五〇米、輕井澤の九四一米、又我國の最高停車場たる臺灣阿里山森林鐵道の塔山驛の二三三一米などこれに比すべくもないのである。

尙ボリビヤ國の首府ラバスの如きは三六九四米、即ちほゞ富士山ほどの高さにあり乍ら、十二萬の人口は平氣で生活してゐるのである。勿論普通の旅人ならば直ちに高山病に苦しむのであるが、この地の住民は馴れて何等苦痛を感じない。アンデス山脈は太西洋岸に直ちに迫つてゐるので、横斷鐵道をもつて直ちにこれを越ゆるときは旅人はいづれも苦しむので、わざ／＼迂回して漸次に馴れて苦痛を輕減するやうにしてゐるとの事である。又チベットの首府ラサは三六三〇米の地にありそこに一萬八千の僧侶と一萬五千の市民とが住んでゐる。アビシニヤには三九〇〇米の高地に耕作地が存在するといふ。我國では千曲川の上流南佐久郡川上村に一四五〇米の地に水田があるが、これは吾國水田最高の地であつて、多くは五〇〇米以下である。

註 長野縣小縣郡長村菅平の耕地の上方の限界が約千三百米である。これはこの地の産業が専ら寒地産業を

基調としてゐる結果である。(三澤勝衛氏、菅平の地理)

人類の分布は生活條件と相伴ひ、その條件の失つたところに、限界線が存在してゐる。しかし、生活條件は季節及び氣候の轉移とともに進退するものである。故に、限界線も又同じく進退する。

グリーンランドの西海岸にあるエターのエスキモー村落は北緯約七十八度の邊に位するのであるが、それは彼らの恒常的植民地の冬期植民地の北端極限を劃する。しかし夏期に於てはエスキモーはその輕舟(カヤックと呼ばれ、木骨に海豹の皮を張つたもの)に乗り、麝香牛又は海豹を追ひつゝ、更に北方に進み、彼等の残した遺物によつて彼等が北極へ向けて更に高緯度に移動したことが知られる。

多數のエスキモー遺物及び彼等の夏季幕營は北部グリーンランド(北緯八十一度五十分)なるレデー・フランクリン灣に沿うて發見されるのであるが、猶内部地方なるヘーゼン湖の外出河流域に於て探險者等が發見した人類居住の遺跡は、明かにそれが前世に於て恒常的に棲はれてゐたものであることを示してゐる。コラ半島に於けるムルマン海岸は夏季に於てロシア漁民よりなる多大の人口を有し、又四十以上の漁場を有するのであるが、しかし八月の末に至つて魚

獲期が終了し、極地の冬が近づいて来ると漁場は閉鎖され、三千に垂んとする漁民は白海の岸にある恒常的住家へ歸還する。ロシアの極北縁なるこの地より更に東に進めばジュゴル海峡に位するカルバロフの小村は夏季に於て多數のサモエード人の居住を見、彼等はその馴鹿をグイガツ島に放牧する。又ロシア人及びフィンランド人のあるものも白海諸邑より此地に來つてサモエード人と交易しそれに隨伴して狩獵漁撈に従事する。しかし秋の來ると共に海峡を通じて氷の橋が生じ、馴鹿をしてその區劃された島上の牧場を逃走することを得しむるために、サモエード人は南方へ退き、商人達も又その商品を携へてアルハンデルスクその他の地點へ歸還する。このことは數世紀以來行はれつゝあるのである。又、エニセイ河口に位するブリオコフ島に於て、ノルデンシヨルドが見出した家屋の小群は夏期に於ける漁場であつて八月末には遺棄さるゝ季節的人口移動である。

註一 日本領土内に於て最も急速な國內人口移動の増加を示しつゝある地域は樺太である、大正九年の國勢調査に據れば一〇五、八九九人であつたが、同十四年には二〇三、七五四人となり、滿五年間に九二%の増加率を示してゐる。樺太は標式的入移住地で住民の八〇は樺太以外の出生である。而もその人口移動には季節的要素が大きい。(武見芳二氏、樺太入移民の經濟地理學的考察、地理學評論第四卷十號)

註二 裏日本一帯の季節的人口移動の原因が大部分雪にある。最も深雪地帯である白山地方に於ても出稼は亦最も盛んで、この地方の青年男女は殆んど残らず出稼する。出稼には二種ある。一は長年月の出稼で他は短期出稼である。出稼者の年齢は男女共十五六歳より二十三歳に至り、出稼地は主として大阪京都東京名古屋金澤の諸市及び滋賀縣福井縣などである。一時的出稼は冬の十二月から四月までの冬籠り中に行はれ、各地に於て主として勞働に従ふ。長期の出稼の人数は短期のものに比して約半数にも充たない。(田中啓爾、幸田清喜兩氏、白山山麓に於るけ出作地帯、地理學評論 第三卷四、五號)

註三 吾國に於ける國內人口移動の状態を兩度の國勢調査の結果についてみるに、五年間に内地人口は六・七%の増加したのに對して植民地は何れも一層の高率を示し、臺灣九・三%朝鮮一三・一%關東州一六・〇%樺太は九二・二%の増加率を示してゐる。誘引の原因は距離と面積、氣候と經濟とに分ちて考へることができ(武見芳二氏、我が植民地に於ける内地人入移民、地理學評論 第五卷二號 昭和四年)

註四 西南日本に於ける季節的人口移動をみるに、ある地域から他の地域に季節的に人口が移動するのは、地元の經濟的事情が季節的に勞力の過剰を來たす爲であつて、その地理的原因は地元たる地域が山地が多くて耕地が少ない地勢であるか、冬季荒勝ちな氣候であるか、人口が地積に比して殊に稠密であるかに起因してゐる。

かゝる環境にあつては徳川時代から盛んに季節的人口移動をなした。鐵道開通後益々進展し、且つその需給地域を擴大した。(小田内通敏氏、人文地理)

無人の沙漠も時に人々をそこに滞留せしめる。アビシニヤ諸山脈に於ける春季の降雨が、ヌビヤ沙漠の端邊に温暖の流れを送りこむ時は、直ちに次に次でアラビヤ人の潮流が押し寄せて来るのであつて、彼等はその駱駝及家畜の群とともに、新たに生じたる草地の上に広い地帯を爲して一時的な占據をする。しかし夏季に於ける乾燥した暑熱の來る數週間前に彼等は撤退するのである。

海拔五千呎の邊はアルプスに於ける村落生活の極限であると言はれてゐる。しかし一年中に於ける温い三ヶ月間は八千呎以上の高度の牧場は家畜とその番人によつて賑はされる。かやうに人類生活の境界線は、春の來るとともに山嶽を登攀し、その後冬の進み來ると共に降下に急ぐのである。ヒマラヤ山脈及びカラコルム山脈等には全村落が一時的に住居されるに過ぎないものがある。例へば、レーハよりラッサ(チベットの首府)に至る隊商道路に當り、海拔一萬五千呎に位するガートクの町或はレーハよりヤルカンドに至る間に在るシャヒドラ湖(海拔三千三百八十米)がある。然し恒常的居住の境界線はこれより數千呎下方に位するのである。之と比較すべきものにはアルプス山脈又はロッキーマウンテン等に於ける夏季に於ける乗合馬車のために使用せらるゝホテルで、初雪が山路を閉ざるとともに遺棄されるものがある。これ等の土地に於

ては、極地に於て緯度が居住區域の境界を劃するやうに、高さがそれをなすのである。

氣候の點から見ても、人類居住地として、最著の地は紅海入口、伊領エルトリヤ海岸の都邑マッサワであつて、年平均攝氏三〇度七、七月に於ては三四度八である。最寒地はとみるに、シベリヤのヴェルホヤンスクであつて、年平均零下六・四度、一月に於ては零下五〇・五度の寒さである。かやうに極寒の地にも人類は定住生活を営み得るのである。

人類の居住分布と人口の限度

現今人類の居住分布はいかになつて居るだらうか。各地は決して平等に分布されてゐないのみならず、非常の懸隔があるのである。

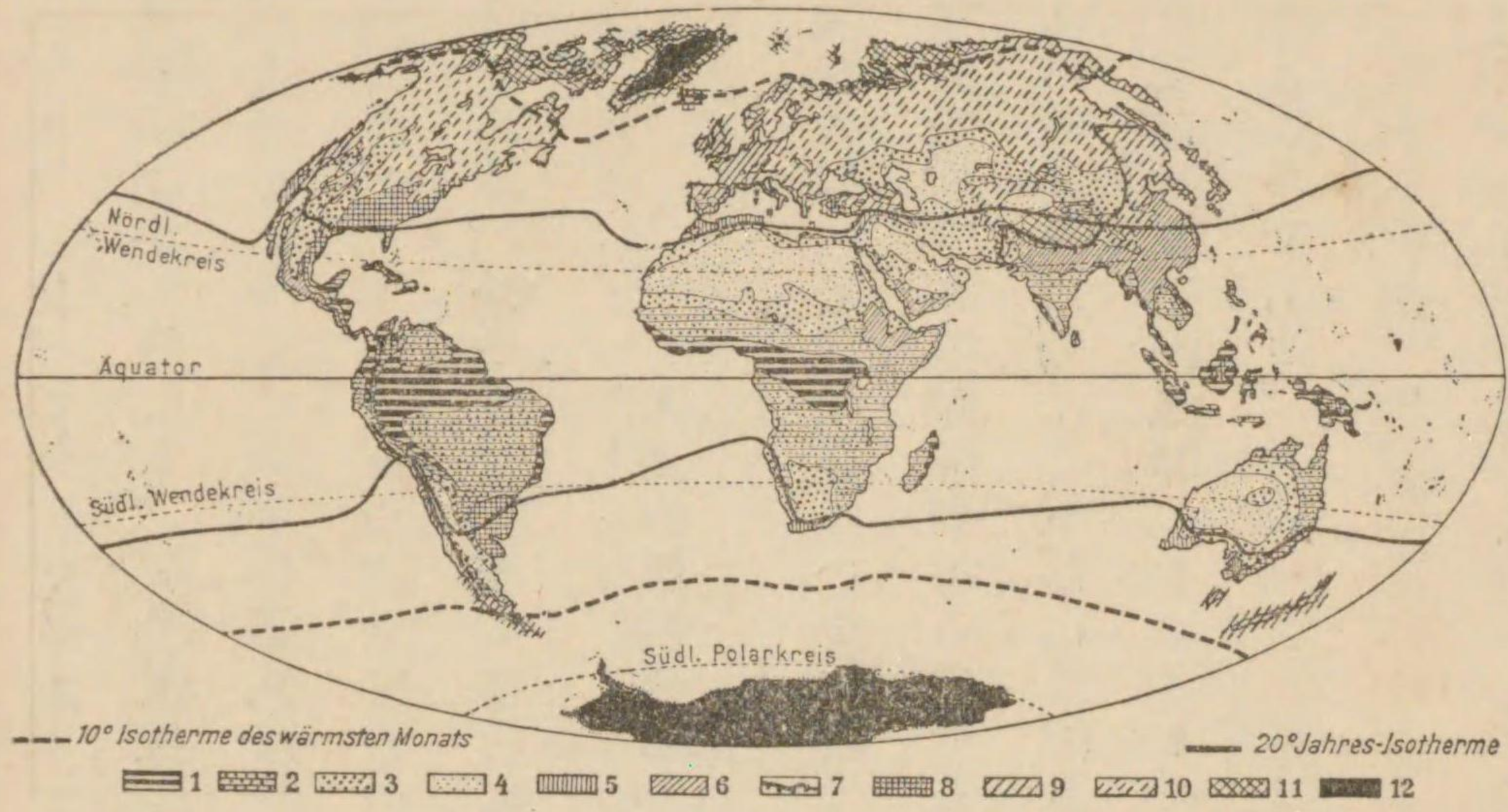
人口の分布は殆んど氣候に支配されると言つて差支へない。例をアジャ大陸にとつてみるに、ここでは全く季節風即ちモンスーンの影響にあることは次の人口密度の數字が有力に物語つてゐるところである。

モンスーン地方

(一平方キロ米に於いての人口密度)

日本 内地

一四七

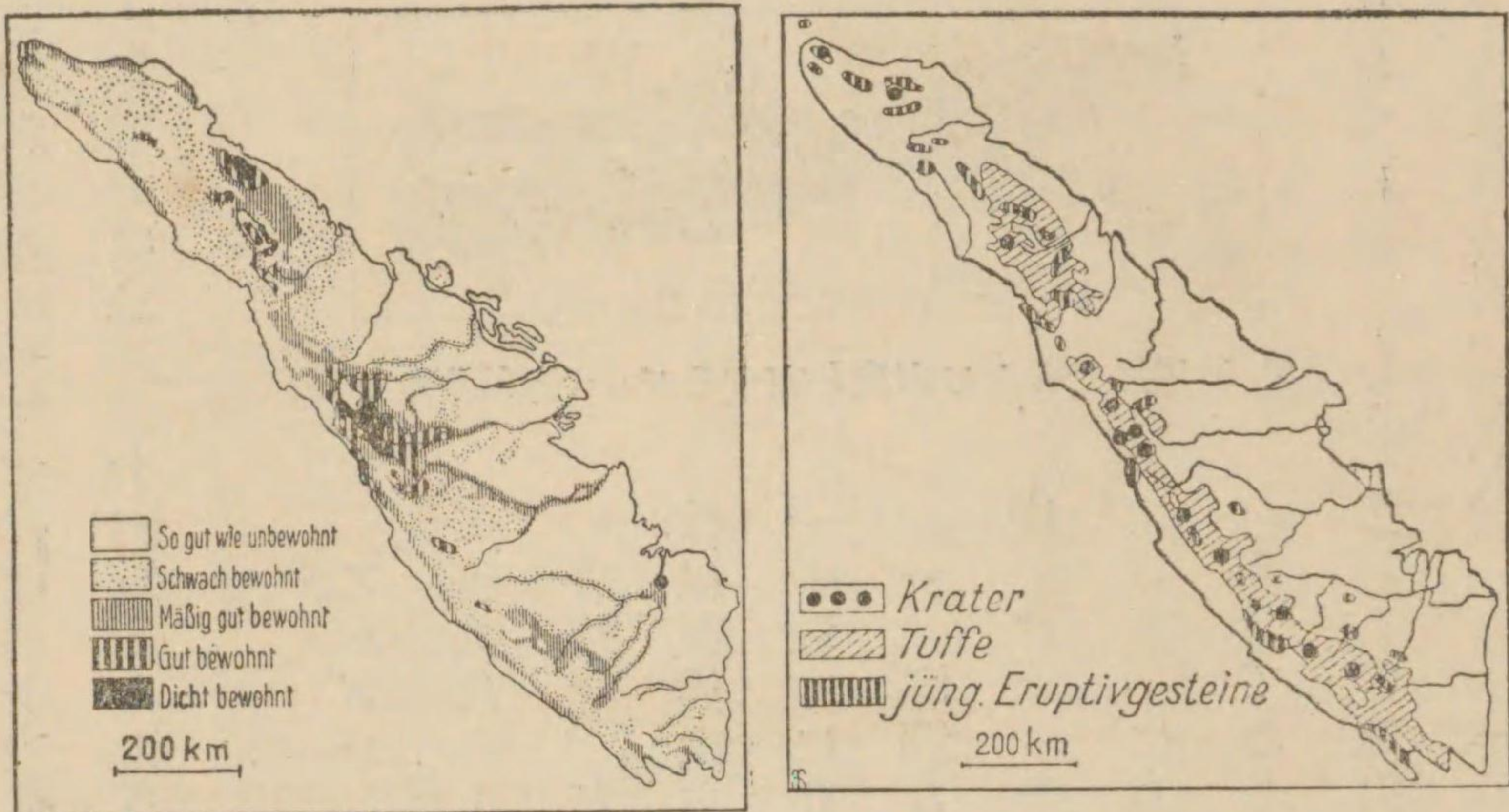


1. 世界の氣候區 (W. Köppen)

支那 三四
揚子江及黃河下流地方 一四六
インド 六八
ジャバ 二六六
西部ジャバ 三五〇
シベリヤ 〇・七
アラビヤ 〇・八
ベルシヤ 六・〇

である。これによつてみても、いかに季節風圏内は生活に適してゐるか知られる。

然らば地球はいかほどの人類を收容し得るであらうか。これについては、ラヴェンスタイン (H. G. Ravenstein) が一八九〇年に計算してゐる。彼は地表を豊饒地、草地、沙漠地と分類し、その最大平均人口



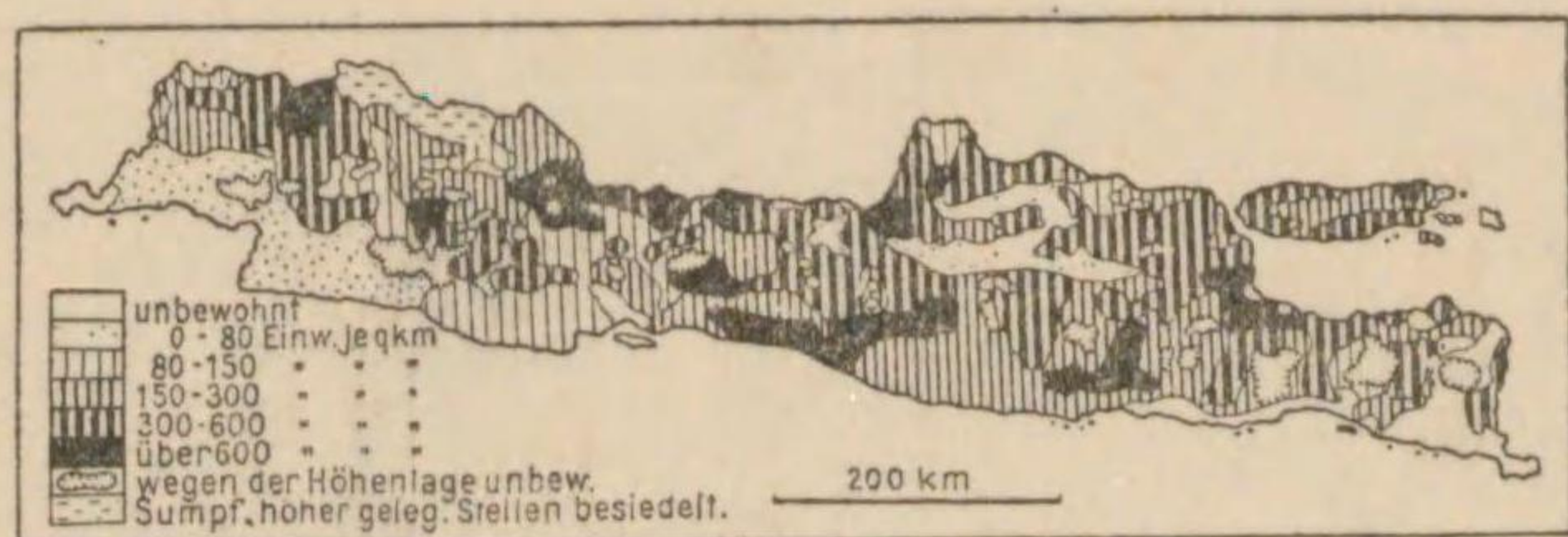
2. スマトラの人口分布 (W. Volz) 3. スマトラの火山分布 (Lütgens)
土地の開拓は火山の斜面を利用してゐる

密度を一平方糎八三、四、〇・四と見積り、その各地域の面積により、地表の最大可能人口を五十九億九千四百萬人と計算した。

フライヘル・フォン・ヒルクス (Freiherr von Fritcks) はラヴェンスタインの採用した人口密度があまりに僅少だといつて、彼は豊饒地方の最大平均人口密度を一〇〇、草地を五〇、沙漠を五として九十億人とした。ヘルマン・ワグネル (Herrmann Wagner) は、ラヴェンスタインの計算に誤りがあるとして、ヒルクスの假定によれば七十九億人に過ぎないと言つてゐる。

パロットは地表の開拓し得る面積を五千五百六十萬平方糎と計算し、その中二千八百萬平方糎を農作地となし得るとした。アメリカ合衆國に於け

る生活標準をもつてすれば二十三億三千三百萬人棲み得るし、ドイツの標準では五十六億、日本の標準では二百二十四億住み得ることになる。中間のドイツをとれば五十六億となるわけである。



4. 世界最大の人口密度を有するジャバ島(Lütgens)

アルブレヒト・ペンク (Albrecht Penck) は、氣候が食糧生産上に、従つて又人口の上に決定的な力をもつものであるとしてゐる。それで地球上の各地を、氣候上より分類して各氣候地方の最大人口を求めんとした。彼は氣候地方をほぼ氣象學者ケッペン (Köppen) の氣候區を基として十の地方に分けてゐる。

一 濕潤な暖い原始林の氣候 この地方には一平方糎二六六の人口密度のジャバの如く、よく開拓されたところがある。西ジャバの如きは實に三五〇に及んでゐる。彼はこの氣候に於ける最大可能人口密度を四〇〇としてゐる。ジャバは非常な天恵の地で、火山灰が降つて土地を肥し土地を常に新らしくしてそして地力が衰へるのを防いでゐるからである。一般に原始林地方のすぐ近隣地方は一年の耕作に二年の休耕が要るにか、はらず一平方糎二〇〇と見ることができ

きる。もし相當施肥をして休耕せずにやることができるとすれば、原始林の周圍の草地で一平方糎六〇〇人を養ふことは易々たるものである。

二 週期的熱帶草原氣候 こゝでは生産力は甚だしく小で、乾季には植物の生長が妨害されるが後の一年の半の雨季には植物の成長は濕潤熱帶地と同様に大である。平均して濕潤地方に於けるが如き高い人口密度をみないマドラスでは米を輸出するにか、はらず、一一五をこえてゐるから、自然的人口密度は一二〇以上となるであらう。よつて全地域平均して九〇とする。

三 草原氣候 これは熱帶に四分の一、溫帯に四分の三である。ここでは生産力が小さく冬乾燥する寒冷な氣候に近いドン地方の人口密度は二一で、これをこの氣候地方の最高人口密度とする。

草地開拓 十九世紀以前に於ては世界に於ける草地地帯は水と樹木との缺乏によつて農業的發展は妨げられ、游牧民族の天地であつた。歐洲に於けるハンガリア人、タタル人、北米に於ける昔のインディアン、今のロツキー山麓の牧畜者、東亞に於ける蒙古人の如き實にその主要なものである。即ちマルサスが百五十年前かの有名な人口論を著はし東西兩洋の民族は忽ち食糧缺乏し飢饉の悲境に陥るべきを言つた頃は、ロシアの南部東南部に於ける大草原の僅かに一小部分が漸く小麦畑として開かれてあつたに過ぎなかつた

ので、ハンガリヤ平野はその大部分が牧場であつて若干の貴族と大牧場主とに分割されてあつた北米の中部西部に於ける廣大なプレイリイ地方は毛皮賣買の商人の外は未だ白人の足跡を止めず、アルヘンチナのパンパスは尙地圖にも知られざる荒漠の地であつて、濠洲が纔かにその海岸に沿うて幅狭き地帯が漸く探險されてゐたに過ぎなかつた。滿洲の如きは單に土豪の游牧狩獵の地であつたに止まり、蒙古に於ては一頃の田園すらまだ見ることが出来なかつたのである。

これらの草地は幾何もなく著るしく農業的に發展し尋で多大の人口と富とはこれに伴つて増殖せられて來たのである。その發展の原因は、第一に穿井工事の應用、第二に收穫機脱穀機の進歩、第三に汽罐と鐵道との發達とが擧げられてゐる。

即ち、雨量寡少であつて泉水流水に乏しい地方にあつて、堀抜き井戸の噴水によつて美田を得たことは濠洲の草地がこれを説明して餘りあるものである。機械力の利用は能く一人の農夫をして五人前の能率を擧ぐることが出来るから、餘分の四人はこれを都市に送つて更に工業に従事せしむることが出来る。鐵道の普及は植民のために容易に薪炭を供給し得ると共に渠等の生活する穀物その他を迅速に且つ廉價に市場に送る便あることは言ふまでもないのである。かくて世界に於ける草地が耕地となつたことは人口増加のために屈竟の餘地を作り、歐洲に於てはマルサス以後百二十五年間に人口二億より五億に、合衆國及びカナダに於ては六百萬より一億二千五百萬に上つたのである。アジャに於ても印度が一八八一年より一九一一年に至る内に六千萬増加し、即ち一年平均三百萬の増加であつて同年内に於ける米國人口の増加を遙かに凌駕し、ジャバは蘭領初期に於ける一八〇〇年の三四百萬より増加して今日の三千五百萬に達し、支那は一八〇〇年より七〇年内に一億を増した。(山崎直方氏 第二回太平洋問題調査會に臨みて 地理學評論 第三卷一〇〇七一—一〇〇九)

四 沙漠氣候 ここでは理論上は生産不能である。それ故に、人は棲むことは出来ない。けれども灌溉が可能であれば、大人口を養ふべき産物が得られる。これに對してエヂプトは最もいゝ例である。その一千三百萬の人口と、インダス流域の沙漠地とはすでに地上のすべての沙漠の上に人口密度一を與へてゐる。この氣候地方でも中央アジャと北アメリカ西部の沃地は數百萬の人口を養つてゐる。しかしこの最高密度にエヂプトの人口値は利用できない。彼は三とみてゐる。

五 冬季乾燥氣候 ここはモンスーンの利益を受くる最も人口稠密なベンガル地方(人口密度二二八)や南支那(一六〇)である。平均人口密度を一一〇とする。

六 溫暖な夏季乾燥氣候 地中海海岸諸國ことにイタリヤにその特性を示してゐる。最高人口密度は一二五だが可能的人口は九〇である。

七 濕潤氣候 この例は日本に於てみることが出来る。その人口密度は甚だ多く二二〇より

も少くない。ヨーロッパでも、ドイツの一二五フランスの七一で、かなり密に棲はれてゐる。

この氣候の最大可能人口を一〇〇とする。

八 冬季濕潤氣候(北半球)

九 冬季乾燥氣候(南半球)

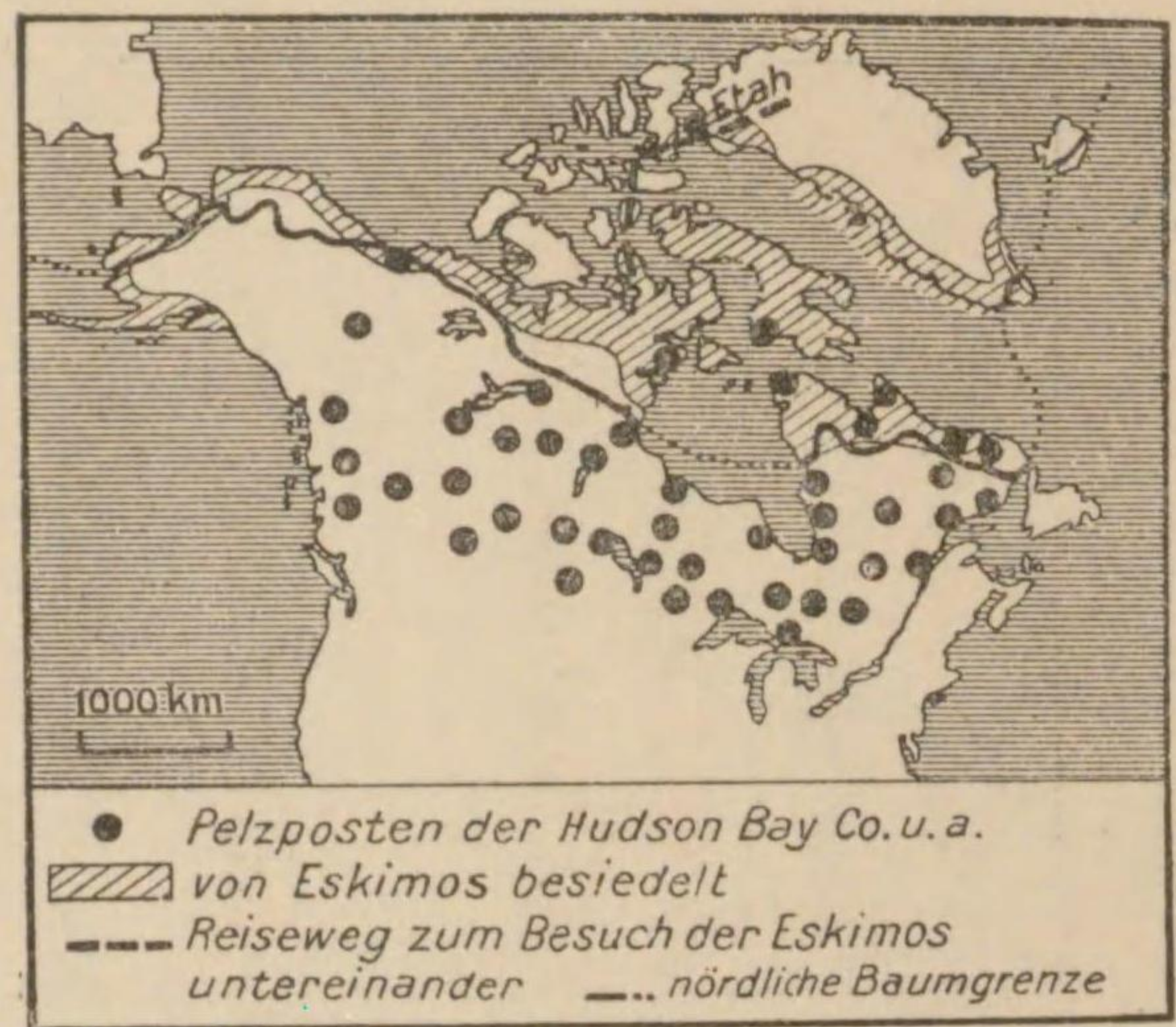
この氣候地方の人口密度はポーランド一〇六、河北省(北平を除く)九六、フィンランド一〇、
兩氣候地方とも人口密度が三〇である。

十 ツンドラ氣候 この氣候地方は馴鹿や海岸の動物性食料の仲介で、人類が生活し得るに
すぎない。

農業地の限界 今日高緯度の地に於ては、穀物の生産地帯の外にまだ可なりの廣い面積の土地が横はつて
ゐる。穀物中で最高緯度に産する大麥の最北限を見るに、歐亞大陸ではスカンデナヴィヤの北部北緯七十度の
海岸からラブランドを避け、北緯六一度に於てウラル山脈を過ぎり、六一度乃至六二度に於てシベリヤの中
央を横ぎり、ヤクトックに及んで急に南下し黒龍江の河口に至る一線がそれである。北米大陸ではアラスカ
の南部北緯五六度のシツカよりマツケンジー川流域に入り北緯六五度を最北端として更に下つて北緯五〇度
セントローレンス川の河口に至る一線より以北の廣い土地が農業地帯の外に置かれてゐる。

寒帯地の利用 寒地には又それ相應の特殊の産業がある。狩獵がそれである。陸では貂、狐、水では獺、

臘納獸その他の貴重な毛皮獸がゐる。これらの産業が野生獸の狩獵から牧畜へと變じてゐる。即ち養狐業な



5. カナダの毛皮貿易地點とエスキモ-居住
地域(斜線) (Lütgens)

ど一つの牧畜と見ることが出来る。又は海獸を保護し濫獵を
禁じその蕃殖を圖つてゐる。更に進んで野獸の捕獲から家畜
の養殖に到つてゐる。即ち寒帯には寒帯相應の家畜がある。
それは馴鹿と麝牛とである。馴鹿はその勞力は勿論乳も肉も
毛皮も利用できる。アメリカ政府はアラスカにこれを輸入し
既に五十萬頭を有し二十年後には三百萬頭の羊の肉と同量を
求め得ると言ふ。麝牛はその毛が羊毛と匹敵して毛織物の好
材料となる。北極方面の凍地地方だけでも一億頭の馴鹿と五
億頭の麝牛とを牧することができる。かくの如く温帯の遊牧
地を農業地としたと同様寒帯では狩獵場を牧場としてゐる。

フィンランドの最北の村落で一平方軒にやつと〇・一の住民があるに過ぎず、グリーンラン
ドの結氷しない土地七萬平方軒にたゞ一萬三千人住むばかりである。この地方の可能人口密度
を〇・〇一としても少な過ぎない。

十一 永久に寒冷な氣候 即ち南北高緯度の人の棲まぬ内陸氷地塊區域である。

以上を表にすれば次の如くである。

V 人口 (Millionen)	IV 平均(見込)人口 密度 (1.0/km ²) の人口	III 最高(と考へ得 べき)人口 (Millionen)	II 最も人口稠密な 地方とその人口 密度ならびに その最大人口 密度 (1.0/km ²) の人口	I 面積 (Millionen qkm)	氣候	
					1 濕潤な 原始林 氣候	2 週期的 乾燥草 原氣候
2800	200	5600	(400) 350	14.0	3 ステップ 氣候	4 沙漠 氣候
1413	50	1808	115	15.7	5 溫暖な 冬季乾 燥氣候	6 溫暖な 夏季乾 燥氣候
106	5	212	(10) 21	21.2	7 濕潤な 溫帶氣 候	8 冬季濕 潤な氣 候
18	1	54	(3) 14	17.9	9 冬季乾 燥氣候	10 ツンド ラ氣候
1243	110	2576	228	11.3	11 永久に 氷雪に 覆はれ る氣候	全面積
225	90	312	125	2.5		
930	100	2046	220	9.3		
735	30	2597	106	24.5		
219	30	701	96	7.3		
0	0.01	0	0.02	10.3		
0	0	0	0	15.0		
7639	51	15904	(107)	149.0		

即ち、全面積一億四千九百萬平方呎に於ける最大人口密度は一〇七人である故、地球に棲み得べき人類は百五十九億となるわけであるが、これは最大極限量を示したのだから、實際はその半分の七十六億八千九百萬人位と思はれる。だからヒルクスの計算とそんなにちがはないことになる。しかし、各氣候地方の最大可能人口密度をあまりに少くみつもつてゐるから、地球上の可能人口は八〇億乃至九〇億とみなすことができる。

然るに、現在事實上世界の人口は約十八億しかないのだから、人類の生活地域はたゞ約五分の一みだされたゞけである。

地球上の可能人口八十億の中、八分の五は熱帯に八分の三は温帯に住んでゐる。温帯の最大可能人口密度は三四で、熱帯は一〇七である。實際に於て熱帯は温帯よりも三倍以上棲み得ることは、氣候による土地の生産力の大きなるためである。然るに今日世界の人口十八億の中十三億即ち七二％は温帯に、熱帯にはたゞ五億即ち二八％が棲んでゐるのみである。かく世界人口の大部分を收容してゐるのは現在では温帯になつてゐるが將來は熱帯である。

註 今日には實に温帯地方に於ては土地利用の點からみても人口集中の點からみても飽和點に達してゐるのである。

曾つて十九世紀の農業が森林地帯より草地を征服してその活路を見出した如く、温帯から熱帯或ひは寒地に活路を求めんとするのである。

それは食糧問題からで、熱帯の原始林の開墾には多くの勞力を要するのであるが、その開墾は世界の人口増加を大いに緩和してくれることは、現在ジャバ島の例についても知ることができ。豊富なる太陽光線と雨量とは植物の急激な成長を助けるのである。

かく見る時は世界の國家のうちでブラジルが最も多くの人口を收容する國といはれてゐる。

殆んど十二億を容れ得る。支那は六億、英帝國はその自治領を合して六億となる。即ち英本國の三千萬、カナダの六千萬、南阿聯邦の六千萬、濠洲聯邦の四億五千萬である。

かくて各大陸の人口の割合が今日に比していかに變化するかといふに次の表の如くである。

時代	陸地	
	全世界	ユーラシヤ
一九二〇年の人口	18億	80%
將來可能の人口	80	26%
		29%
		6%
		14%
		25%
		3.5
		9%
		0.5%
		7%
		80%

くを養ふことができないのに、現在は五分の四を棲はしてゐる。北アメリカは百年以前から急

即ち、ユーラシヤは人類の住所の指導的な役割においてアフリカに劣る。ユーラシヤは將來人類の四分の一より多

激に人口が増加し、今日人類の大部分に食料を供給してゐるが、この最大能力をあげても尙南アメリカの半分より少し多いだけしか生産することができない。

交通の發達はある地方の生産物で他の地方の人間が生活できることを可能にする。熱帯が人類食糧の主要生産地方である場合に、熱帯が最も大なる人口の收容地であるか、又はフリードリッヒ・リストが考へたやうに、熱帯はただ温帯地方の穀倉たるにとゞまるかゞ大きな問題である。温帯はハンチントンによれば、最も仕事をなし得る場所で、又それに相應する文明をもつてゐるところであると言はれてゐる。この重要な將來の問題の決定についてはなほ觀察を要する。交通の發達は今日の世界を「依存經濟の世界」と化したため、食糧生産地のみが人口を收容することがなくなつた。そのためこの問題は益々複雑である。

註 地表の可能人口密度の問題について、ペンクの計算に對してハウスホーフの研究(ゲオポリティーク一九二六年三號石田龍次郎氏紹介地理學評論第三卷第二號)がある。彼は文化の高さによつて可能人口密度を定めやうと言ふのである。

主なる國について記すに、

國名	現今ノ密度	自然的可能平均密度	兩者の比
ドイッ	一三五	一〇〇	一、三五
イギリス	二五一	一二〇	二、〇九
フランス	七二	一〇〇	〇、七二
イタリ	一二四	一〇〇	一、二五
ロシア	七	三〇	〇、二三
支那	九〇	九〇	〇、〇〇
日本	一四五	一〇〇	一、四五
南阿聯邦	四	三〇	〇、一三
オーストラリヤ	一	三〇	〇、〇三
カナダ	一	一〇	〇、〇一
合衆國	一三	六〇	〇、一二
アルゼンチン	三	五〇	〇、〇六
ブラジル	四	一二〇	〇、〇三

第二 人類分布の出發點

或人は現在の不均一な人口分布は初期の發展段階に歸すべき物であり、人間が比較的近世にやつて來た土地に於ては其の資源が保證する人口に迄未だ到達してゐない所があるだらうと考へるかもしれない。然し乍らこのやうな見解は事實の證明を持つてゐない。

遠く相隔たり而も何等相似る所なき土地に於て、人類學最近の研究は骨格の形に於て又は製造器の形に於て、人類の初期の分布の殆んど世界的なるを物語る證據を與へてゐる。北アメリカに於て第四紀時代に可なり一般的に人口が大陸に分布されてゐた。南アメリカ、ケープ植民地、オーストラリヤの如き未發達だと考へてよい様な世界の各地に於ても、人類の初期の住居の證據は決して乏しくない。所謂舊石器時代即ち世界各地を侵害した氷河が未だ其の最後の退却を終らぬ時代に於ても、人類は、既にかんりの地理的分布を成して居つたと言ふ事は明らかに認められた事實である。人類の地域占有の面積は殆んど、あらゆる場所に人類の存在が見出されると言ふ程度に迄擴大してゐた。

ダーウィンの表現法を用ひれば、斯かる「初期の廣き傳播」には優れた精神的特質を前提とす

る。即ち人類が久しい以前から智的及び社會的能力を附與されてゐたと言ふ事を證明してゐる。このことは生存競争に於て人類に成功を確保させた能力であつた。

それまでは全く人類の手の加はらなかつた自然のまゝの荒野に於ける初期の分布の道筋は、今日我々が容易に辿り探ることは出来ないけれども、非常に制限せられてゐたものと思はれる。

海洋は人類の分布に對して、近世迄はむしろ障害であつた。海岸に住む種族、殊に群島に住む種族すらも、アジャの南海岸に散在してゐるネグリのトの様には海上生活を知らずに来たと言ふ事は注目し得る事である。海洋は近代の如く人類の分布を促進する役割を果してゐなかつた。今日尙ほ帆の使用を知らぬ多くの種族、陶器を作らぬ種族、金屬を知らぬ尚多くの種族が發見されてゐる。然し火の使用は共通的に昔より傳はつて來た所のものであつた。火の面影を示してゐる諸種の品々は、最も古代の人類の遺物にも含まれてゐる。發火法の種々夥しい方法、例へば摩擦、打つ事、或は他の特殊なる方法等は、此の發見が世界各地に於て互ひに獨立的に起つたと言ふ事を示してゐる。その發見が最初、乾燥期を持つた熱帶地に於て完成されたと言

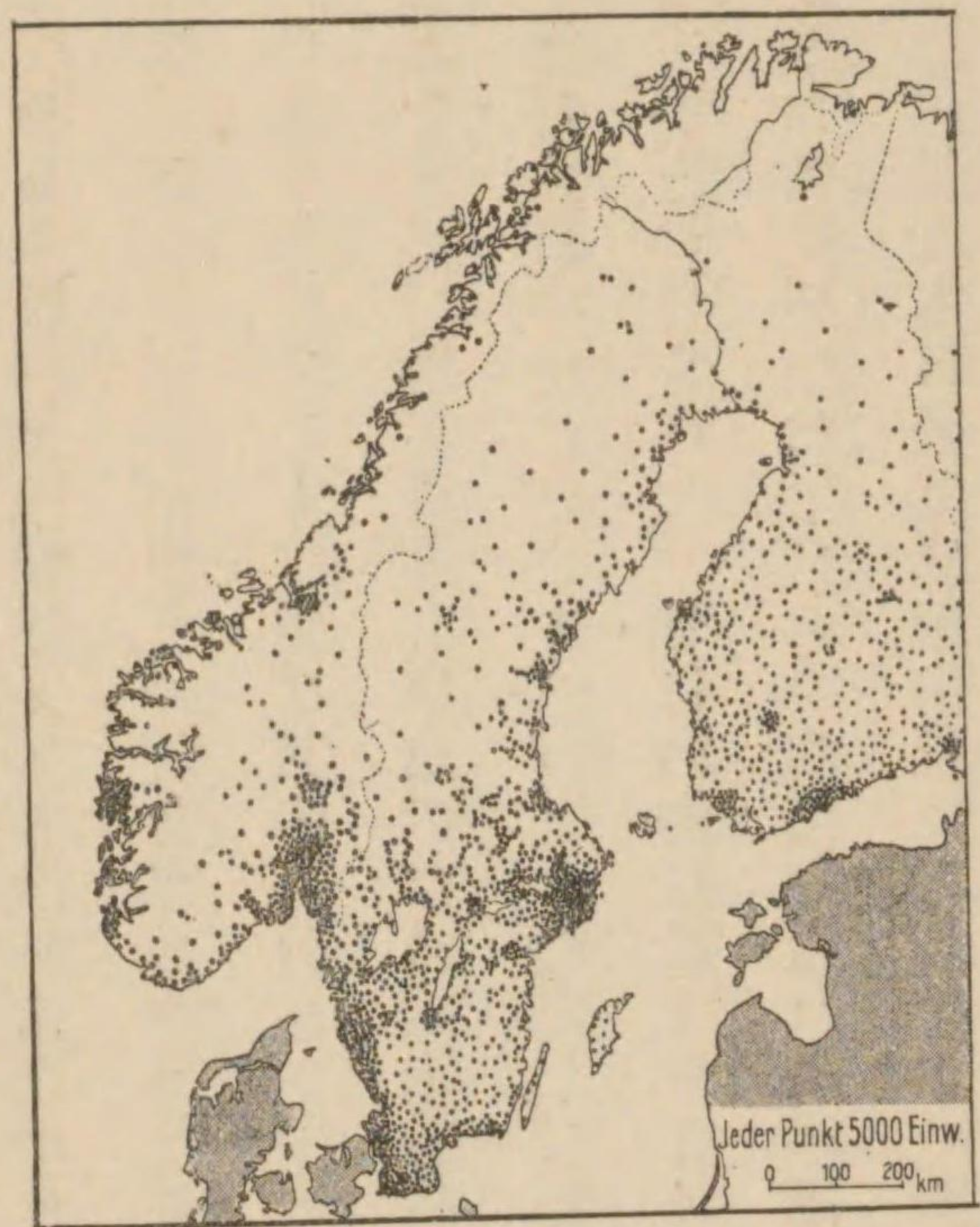
ふ事は不可能ではない。如何にして、乾いた燃えない木の葉の堆積の上に、アフリカの土着民が、先のとがった棒を以て一片の軟かい木片を摩擦して白熱の火の迸りを集めるか其の仕方を聞く時、我々は火の貯藏と運搬とに導いたきはどい實驗の一つを觀てゐるが如き感じがする。叢林と堅木——即ち薪とマツチ——が同時に發見される土地は、此の發明に對して最も都合よき環境であると考へられるだらう。

原始人が廣く分布したと言ふ事は此の道具の所有に歸せられる。火は唯に人類の生存をおびやすく動物に對する攻撃、防禦の武器であつたのみならず、又人類に光と熱を與へた。それに依つて人類は殆んど如何なる風土にも適應し得、従つて又多くの種類の食物を得る事ができたのである。

斯かる住民は非常に微弱な點在した集團を形成したと言ふ事は事實である。原始人の生活様式と似てゐる生活様式を持つた現代の種族と比較する事に依つて、我々は其等古代の住民の平均密度に關する若干の觀念を得る事ができる。北極圏の彼方及び亞熱帶の沙漠地に於ける人口の數は、殆んど無視してよい程少數である。北緯七十度近には比較的着實な文明を持つた一系列の人間があつて、其の生活支持の主要なる手段は、狩獵漁撈から來るのである。しかし又或極

少數の住民が農耕を行つて小規模の家畜を養つてゐる。チュクチ、ツングス、ヤクート、サモエード、ラップ、其他の民族は、北アジアの森林、ステツプ、ツンドラ等の荒地の邊を放浪してゐる。其等の土地の風景は、舊石器時代に歐洲人の先祖が中部ヨーロッパに馴鹿を狩つた時の風景と相似たる荒涼たる物である。彼等の放浪は動物の移住に依つて、又集團をなして動くの必要に依つて決定せられるのである。これら現存せる状態は遠い昔の状態と類似してゐる。それらはエスキモー族の分布が證明して居るが如く稀薄なる住居に對して好都合である。斯くして前史時代についての考古學に依つて發見された諸種の事實を確めることが出来る。このやうな社會状態は、古代生活に於ての一つの教訓である。相隔つてゐる土地を遠距離に互つて、大陸の北部の地帯に沿ふ人口を、全體的に計らうとする企てが段々試みられて來た。最も信用に値する計算に依つてさへも、五十萬と言ふ總數に達してゐない。これは一平方軒に付き一人當てにさへもなつてゐないのである。皆合せた所で彼等の總數は現代第二流所の都市の人口にさへも及ばぬだらう。

人類の初期の時代に於てさへも、如何なる人類の定住地も無かつたと言ふのではない。漁獲は狩獵より彼等の發展を助ける機會であつた。デンマーク海岸に沿ふ貝塚には鳥や猛獸の碎片が魚の骨、軟體動物の骨の堆積と混合されてゐるが、其の或物は往々にして殆んど四百呎の長さ二百二十呎の廣さと、八呎の高さを有してゐる物がある。其等は、人間が骨と燧石の細片の外何の道具をも有せず、犬の外何の馴養動物をも有しなかつた往時より現今に到つて居る。堆積の大きさと同様食物の豊富と言ふ事は、比較的大きな人間の集團が其處に生存してゐた事を示す。生活に好適なる海岸が砂濱に接觸してゐる湯合には海岸も亦大なる供給者である。南部智利の海岸一帯の退潮の時の光景を目撃者が敘述してゐるが、人間に限らず犬や豚や金切聲をあげて叫びゆく海鳥迄



6. スカンディナヴィヤ半島の人口分布(Söderlunde)
 一點五千人
 海岸は北極圏近くに至るも人口密度大である

もが退潮に依つて残された食物の方へ、即ち自然が其の顧客の爲めに展開し供へつけた食卓の方へと走つてゆくのである。

海岸の漁獵には比較的安定した住居を前提條件となし、従つてかなりの人口密度を前提とす

るのであつて、それは現在わが日本に於ける總人口の二十分の一を構成してゐる。此の職業が亦南支那に於ける稠密なる人口密度の原因であつたに違ひない。アメリカの人類學者の注意した所によると、英領コロンビアの海濱に沿うて漁業に従事してゐる種族は、狩獵に依つて生活してゐる大陸内部の種族よりも遙かに大なる密度を有してゐる。

又、アイスランドにその例を求めやう。この島は北大西洋の中に海と陸との生物の避難の支柱の如く位してゐる。魚は其のフィヨルドに隠れた住所を見つけ、海鳥は其の突兀たる岩に避難所を求め、即ち産卵と造巢のための退隱所となつてゐる。又半世紀前には此の動物の湧き立つ様な大群の中に、ウミスズメも棲息してゐた。人間の住居も同様に、此の動物の集合所に向つて引きつけられた。殊に西海岸はよりよく暖流に依つて洗はれてゐるので其の方に向つて集まつたのであつた。たとひ内部の人口は稀薄でも、海岸の住居は榮えてゐた。然し此の狭い沿海地の最大人口密度は如何程であるかといふに、一平方軒に付き約九人の割合である。恐らくこれはその當時に於ける最も稠密な人口密度であつたらうと思ふ。

少數の人間が放浪して歩いた廣大な地方に於ては、或る恵まれた地點が他の地點よりもより多くの人間を引きつけ集めたと言ふ事は自ら明らかな事である。然し其の往時の最大人口密度

と雖も現在の狀勢下に於ては最小となつてゐるだらう。人間の助力なくして、只自然的利益思惠のみでは、決して人口密度を大にする事は出来なかつたのである。然らばこの人類の力は自然の諸條件に對してどんな影響を與へたであらうか。

火は多くの方法に用ひられる。木を伐り倒すに足る充分な大きな道具が無かつた爲に、火は宿營の附近の土地を拂ひ清め、又敵の伏兵と奇襲とを防ぐ爲の方法となつた。又森林の焼き拂はれた後の土地の上に於ける耕作は、原始農業の殆んど世界中到處に見る現象である。赤道地帯の南北兩面に於ける森林帯が次第に人間によつて縮小されて行く事は、自然界に對する人類の努力の最も顯著な事實である。現今草原となつてゐる廣大なる地域の一部がもとは森林であつたのである。赤道より二三度離れた所に於て、高原や丘陵の中心から離れた低地や峽谷にもの森林がその避難所を見出して残つて居る。

第三 人口密度の成長

人類がはじめて大陸に擴大した時代と今日と地理的分布においては、殆んど變化がないと云つてよい。たゞ僅かに大西洋の極少數の島及び印度洋と南太平洋の二三の島々に擴大した位の

ものである。然し人口は信じ得べからざる程度にまで増加した。廣さに於て缺けてゐたものを、云はゞ地方的に深さに於いて補つたわけである。人類は集團生活の中に於いて、地球の表面を變改してゆく。集團は明日の居住地方の自然的條件に依據してゐる。植物が熱と湿度の缺乏に依つてその成長を妨げられると同様に、人類の社會集團も亦同様の條件の下に於ては衰滅してゆくのである。

エスキモー族の間に於ては、十二軒の小屋があれば可なり大きな部落を構成するのであり、北緯七十五度以上の土地に於ては、最も大きい部落でさへ唯二軒或は三軒を有するに過ぎぬ。サハラ或はカラハリ沙漠、或はオーストラリヤに於ける乾燥不毛性は極寒と同様の結果を有する。即ち部落は三或は四つのテントに限られてゐる場合が多い。ホツテントットの墻を廻らした村落は時には百以上もの住家を含んでゐるとは言へ、ブツシユマンやオーストラリヤ人の宿營は殆んど十二軒の家をすら持つてゐない有様である。

他の場處に於ては例へば赤道地帯のアフリカの沼澤地或はモンタナ即ち熱帯地のアンデスの東側の斜面の森林等に於ては、人間の住居の必要は植物の繁茂と正比例してゐる。コンゴに於ては、赤道の南と北の六度の間に於ては、村落は概ね三十軒位の小屋より成り立つてゐる。

然るに唯八軒或は十軒に過ぎぬ小屋を持つた部落は乏しくはない。ボルネオやスマトラの内部に於ても同様であらう。

又、放浪群團と雖も、その生活様式の如何にか、はらず一定の空間を必要とする住民がその生活活動を営むべき土地、即ち生存を保證し供給する地域無くして生存し得るだらうと云ふ事は、理論上並びに經驗上不可能の事である。

社會の發展段階の最低段階にある集團ですらも、否彼等ほど、彼等の生活環境たる土地に對して激しい要求を持つてゐる。最も文化の低いオーストラリヤの種族すらも、狩獵と生活資料の必要を滿して呉れる土地或ひは又必要な材木と水とを供給する土地の境界は明確に判るやうにしてゐる。最も微弱な集團は最も廣い空間を要すると言ふ結論を生む。然し乍ら人口密度の低いと言ふ事は必ずしも貧窮と弱少とを意味するものではない。アジャとサハラに於ける遊牧民族は、彼等は週期的移住の際定まつた牧場を有してゐる。斯かる牧草地は、廣い際限ない範圍を有してゐる。長い間寂寥として居り孤獨であり持主がないとしても、彼等の地方は矢張り集團の依據地であり領域である。實際或る程度の地域は牧畜民族の移住にあつては必要である。即ち移住的財産、驢馬や馬や駱駝を始めとして羊や野牛の何十萬と數へられる大群の移

動には適當の準備を前提とする。水の供給、停留地及び廣大なる牧場地が必要である。此等の荒れ廻る獸群には其の自由になる廣い範圍を要するのである。彼等は生きんがためには廣く散在してゐねばならぬ。それ故に牧畜者の生活に當つては稠密なる土地の占有と云ふことは不可能である。

又、種々の相異つた生活様式が相互に接觸してゐる線に沿うては人口密度が増加する傾向がある。アフリカでは沼澤とサヴァナとの間の接觸地帯では人口の増加が著しい。同じ現象は、舊世界の牧場地域及び農業地域の間にも認められ、又テルとスーダンとの見捨てられたる荒れた境界地に於ても、西アジアのステップの境に沿うても觀られる現象である。これらの境界線には市場、又は都市が発生する。即ち斯かる地帯は相異つた集團の結合帯であるからである。如何にして牧畜民族がサハラからよく蒙古迄移りゆくことが出来るかを考へてみるに相互に生産物を交換することが出来た農業市場に依存して居たが故であると思はれる。一方に於ける分散、他方における集中は相互關聯せる事柄である。

現今オーストラリヤとアメリカ全部に互つて廣く行はれる牧畜は斯かる接觸作用が圓滑に行はれてゐる所に發展してゐるのである。北米の大盆地や、アルヘンチナのバンバや、ニューサ

ウスウェールズの西部地方の如く牧場活動に提供されてゐる地方に於ては、貧弱な労働の支持と豊富なる牧畜業の資本との對比は最も著しいものである。家畜の總數と人間の數の間に於ける不釣合は舊世界に於けるよりも遙かに大きい。一人の人間に對して五頭或は六頭の羊は牧畜民族の所有する普通の數である。然るにオーストラリヤに於ては、五萬乃至八萬頭の羊群が、ほんの十五人或は二十人の注意を要するにすぎない。アルヘンチナの牧場は、十六萬頭もの羊群を持つてゐる。更に、一九〇〇年に合衆國ワイオミング州には五百萬頭以上の羊に對して十五萬人足らずの人間があるだけであつた。定住せる生活は其自身として、直接或は間接に土地の占有に對して確實性を與へる。始めは、農業は、人間を或る與へられたる場所に一緒にして生活の必需品を畜積させ得た唯一の生存方法であつた。草を焼き拂つて種を散布して出發するのは決して農夫ではない。然し穀物を收穫して其れを貯へ置く者こそ農夫である。尙草地に於ては、羊飼ひは自然力の爲すに任せて進んで糧秣を得んとせず、出来るだけ多數の動物を養はうと試みる。北アメリカの狩獵民族と雖も農業に關して無智な譯ではなかつた。しかしその非常な浪費によつて彼等を農業民族にまでひきあげなかつた。農夫は斯かる浪費をしない。彼の最初の取るべき段階は、植物と野獸とを馴化する事であつた。貯藏は第二の段階であつた。

アフリカに於てはスーダンの耕作された土地は大なる面積を占めてゐる。然し此の地方の農業組織につきまといつてゐる弱點は其れが鋤も肥料も使用しないと云ふ點である。而も此の農業方法に於て尙かなりの数の人口を支へ得る。しかし斯かる地方の人口密度の中心地はまばらに散在してゐる。而して占有せられたる廣い原野に依つて隔てられてゐる。

土地の消盡から來る損害を補ひ得ずして、各集團は直ちに狹苦しい空間の中に集つてゐる。休閒地は廣大なる豫備地として存在してゐる。然し斯かる注意にも拘はらず、過剰人口のある土地が遂に幾らかの其の住民を處分せねばならぬ時期が來る。超過した人口はすぐ近隣の地方に轉住する事はできない。かなりの距離の處へ、其の地方の自然的境界の遙か彼方へと行かねばならない。

農業の不適當なる方法がこの責を負はねばならないのである。古代に於ける人口の原始的中心は最も容易に耕作し得る土地、即ち主として石灰岩質の高原であつた。そして此等の土地が最初にヨーロッパ人の住居を引き寄せた最も魅力ある位置であつた。

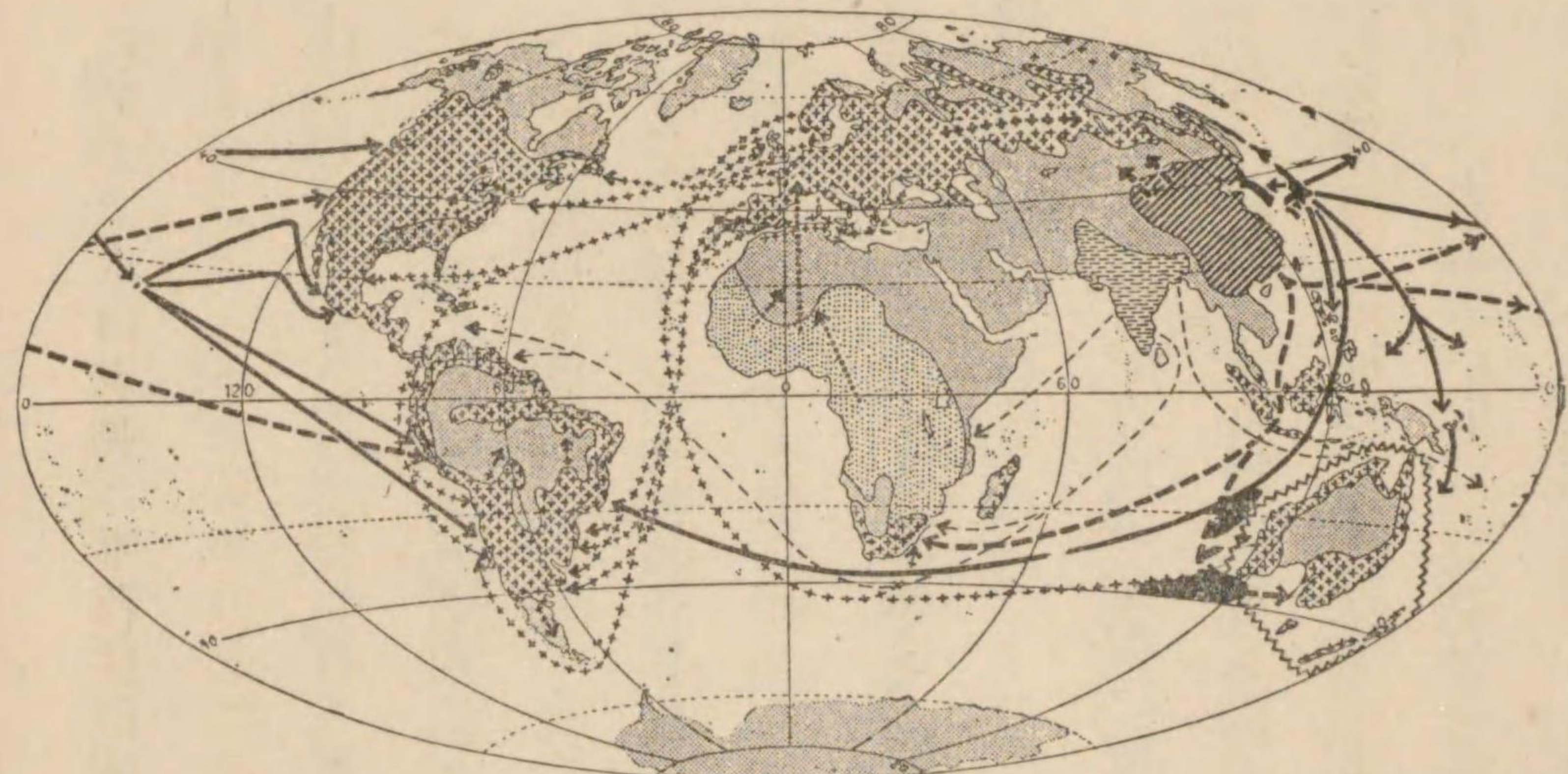
第四 人類の移動

歐羅巴に於て大規模な民族移動の活動舞臺として最も適當と思はれる廣原も、その安全性の缺乏のために利用されなかつた。ガリシヤの高原は、いつも週期的にステップから黒土帯に沿うてばつたの大群の様に群り來た民族のための通路であつた。

註 コロンブスの新大陸發見の後、歐洲の國民は西の方アメリカへ、東の方アジアへ、いづれも廣大な植民地を建てはじめた。ベンデヤミン・セミノフ・テンシヤンスキーは十五世紀の終から、十七世紀までの内にこれら兩地方への西歐移住民を計算した結果、その七十二%は新大陸へ、残りの二十八%は東方ユーラシヤ大陸の内部へ移住したさうだ。

アマゾン流域の土着民族は、河水の害を恐れて、却つて不便な谷を求めて交通路としてゐる習慣を持つてゐる。

斯かる事實が人口の分布に對して影響を與へた。そして、其の結果、其れを産んだ原因がなくなつた後も永く續いた。その爲に防禦された地域に非常に多くの人口を集めるやうになつた。山岳地方、高原地、森林地、半島部、島嶼等に人口が蝟集した。そのために、アルゼリヤ、ウクライナ及びコーカサスの北方は、常に人口移動の通路に當つたので、その歴史は侵入と不安定の連続であつた。廣濶なる平原は、その人口の幾部かを山岳部に引渡した。驚くべき程多種



→ Japaner → Chinesen → Neger → Inder für mongolische Einwanderung gesperrt

7. 現代の民族移動 (Lütgens)

人類は北半球の温帯から南半球の温帯へ流れてゆく

六〇

多様な人種の集團の砦であつたコーカサス、トランシルヴァニアの山地、バルカンの山地などは退却した人口によつて高い人口密度を得たのであつて、それは自然の資源が彼等を引寄せたのではない。

しかしやがて人類は、耕作の容易な地方を探し初めた。そして其處に定住したのであつた。しかしその周圍の地方は無視せられ、或は全く住はれなかつた。そのため、この選ばれた地域に住む原始的住民はかなりの高い人口密度に達する事が出来た。

アフリカ内地に於いても、現在この例を多數觀察する事が出来る。

かくて一地域に永く定住するやうになるとそこに適した生活習慣を續けて行く様になる。かくてその場所に於いて人口過剰を來すことになる。斯かる状態の下

に於ては人口過剰は唯移住に依つてのみ救ひ得る。過剰人口は直ぐ隣接する區域を占め様とするものではない。彼等は必然的に、彼等が捨てねばならなかつた環境と類似した環境を求めて長い距離を旅せねばならぬ。リヒトホーフェンが作った地圖によると支那の人口移動は段階的擴大と云ふよりも寧ろ系列的進行的であつた。それは例へば四川盆地が西藏人の侵入に依つて一時荒廢したけれども直ちに漢人が流れ込んで來てそのあとを充ててしまつた如くである。

稠密な人口の小さな中心地は非常に初期に現はれた。併しそれは非常に不規則に此處彼處に散在してゐた。此等の中心地の中、都合のよい條件にある物は後に世界中に擴大して大きな役割を演じた人口形成の實驗所たる役目を果した。

第五 大 聚 團

石器時代の諸道具の發見は、何處に前史時代の人口の中心地が位置してゐたかについて興味ある證據を提供してゐる。此等の聚團は獨立に、そして相互に遙か離れて形成された。そして各々の運命は相異つてゐた。あるものは擴大しあるものは滅亡した。ギリシヤ人はナイル河及びユウフラテス河の大なる人口に怪奇の感を感じた。又莫大なる人口を有する支那の發見は、

マルコポーロの同時代の歐羅巴の人々を仰天させた。此等初期の中心地の分布は、北回歸線と北緯四十度との間に制限されてゐる一帯の地に殆んど限定されてゐる。この地域に於ては氣候は溫暖なので多くの植物は速かにその成長の週期を完了し、又季節的な降雨或は河流の氾濫等の季節の合間を利用する事ができる。最初に於ける最も大きい人類の部落は季節的な降雨、從つて氾濫を繰り返した大河の低地の部分に位置されて來た。今日事實として、地球上最も稠密な人口を持つた都市は、ナイル河、黄河、ガンガ河等の大きな三角洲上にはないが、これらの河の流域は最も多くの人口を包含してゐる。

エチプト

歴史の曉に於て、夥しい人類の集團が、ナイル河に沿うた耕作に適する沖積土に集つた。この土壤はアビシニヤの火山から流れ出て、アッシアンの低い平原に運ばれた黒土の地帯が長い蛇の様に黄褐色の沙漠に横はつてゐる。前史時代にすでに非常に高い人口密度に上つてゐた事は發見物によつて知られる。此の豊かな耕土の上に農業が榮えた。農業はあらゆる産業の基礎であり、又文明の母である。さればナイル土壤を耕す人口は實にエチプト文明の支柱であつ

た。この土壤は不變の耕土價值をもつてゐるが、人口の稠密度が太古の昔から何時も變らず恒常である爲には、その土地の面積は餘りに狭小で、そして適應の條件は餘りにも人工的であつた。

エチプトに佛蘭人が遠征した時には人口は唯二百四十六萬二百人と計算された。二十三年後モハメッドアリの時は二百五十三萬六千四百人となつた。半世紀後れて人口調査が行はれた際には

一八四六年	四・四七六・四四〇人
一八八二年	六・八三一・一三一人
一八九七年	九・七三四・四〇五人
一九〇七年	一一・二八七・三五九人
一九一七年	一二・五六六・〇〇〇人

斯くて土着の農業的及び定住的種族のこの人口の増加は耕作地の増加と歩調を合せてゐるのである。耕作地の増加は又灌漑設備の増加と一致してゐる。二十五年前二萬三千平方呎の耕作地は今日三萬一千平方呎を越してゐる。尙更に工業的農作物、殊に綿は、大なる勞働力の供給

を要求する。斯る灌漑方法に依つて其の利益を受けてゐる地方に於ては、冬と夏と秋の收穫が中絶する事なく相互に相次いでゐる。此の事が古いエジプトの國に於て最近急激に人口が増加した事の理由を説明する。かく經濟的進歩が人口に影響することが甚大である。

カルデヤ

かくエジプトは古來からの人口の焦點たることを現代まで續けて來た。然るに一方他の中心地たるカルデヤは衰へてしまつた。ここに於ては自然の資源が足りなかつたといふわけではない。土壤もナイル河に比して劣らない豊土を有する石灰質を含んだ土壤がチグリス河とユウフラテス河に依つて持ち來らされた。これらは原始カルデヤの發展の基礎であつた春の洪水に於て沖積土を以て満たされるユウフラテス河は先づ古代バビロンに於てその下流の大沼澤地の排水と灌漑を行ひつゝそこに人口が集中した。かくてそこには巨大なる都市も興つた。

然し、それらは遠い昔に滅んで終つた。チグリス、ユウフラテス兩河の洪水の時期は甚だ不規則であつた。従つてそれを基礎とする農業の經營は危険であつた。従つてバビロニヤの王朝は農業の不安定の補助として工業を起し都市の人口を支へるために意を用ひた。

工業のために人口はその當時の世界の人口を集めた。今日尙ほギリシヤ人、ローマ人の經營の跡を見る事が出来る。かくて百萬と稱せられる人口を集め得たこの土地も、一度牧畜民族に占められてから、灌漑事業も工業も滅び、自然のままなる河流の氾濫に委せられてからは人口集中の基礎を失ひ、徒らに古代の繁榮の跡を舊約聖書中にしのぶのみである。

中央アジア

アジア大陸を横ぎつてゐる高いそして折り重り合つてゐる山脈の外側の傾斜地を觀るに、それらは種々の廣さの邊緣地に依つて圍まれてゐる。即ちアルメニヤ及びイランの連鎖に沿うたオスローエン、アッシリヤ、及びエラム等の如く、世界史の初めに於て有名になつた場所がある。又中央アジアの諸山脈が相會する瘤地を固んで、一方にはバクトリア及びソグヂャナがあり他方にはセリカがある。然るにヒマラヤ山脈の南は五河の國、昔のパンツチャンズ、今日のパンヂャブ地方である。農業の中心地であり又商業の中心地だつた所は常に人口の活動の舞臺であつた。支那が中央アジアと交通した歴史的進路は、ターリム盆地の北と南にある天山山系崑崙山系の大きな嶺に沿うてゐた各盆地間の自由な交通は困難だが、外側の斜面に於ては山の

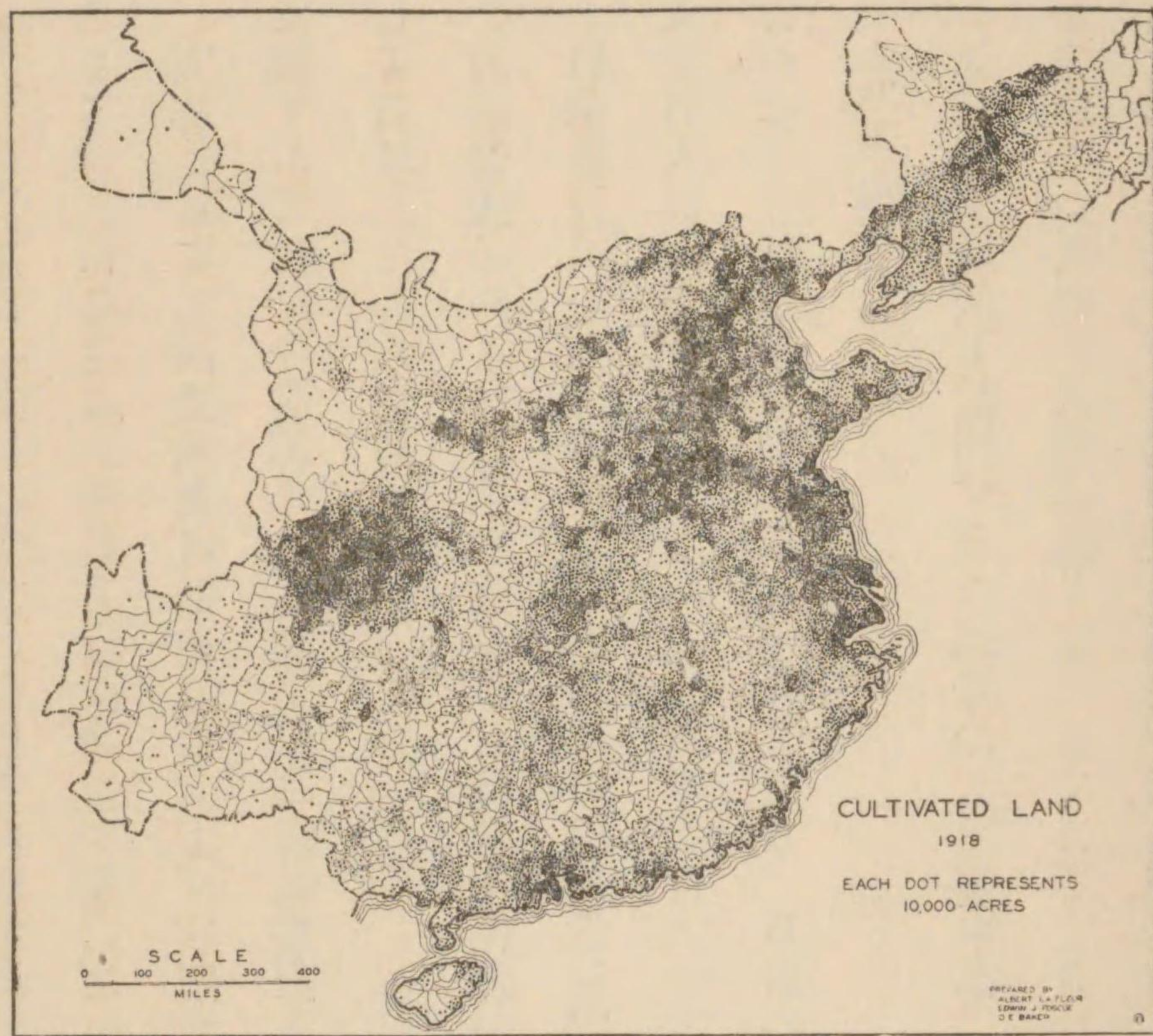
麓を裾どる線に依つて通商の路は安易に求められた。

又、かゝる地點は水流が山の隘路から逃れ出で來るところにあたり、人類の聚落にとつて都合のよい位置となつてゐる。其處では水は他の何處に於てよりも容易に用ひ得る。沖積層のおかげで水の供給はあらゆる方向から受け得、且つ灌漑水路の網目が廣く遠く展び得る程の斜面は充分にある。土地開拓の最初の位置は、常にこのやうに流水が迸り出る出口を選んだのである。メキシコに於けるインディアンに移住は、ロッキーマウンテンの東側に沿うて起つた。又ペルーのインカ族は、アンデス山脈の麓を裾どつて、南智利へ迄も其の文明を進めて行つた。

支那

黄河と揚子江との廣大な沖積層上の莫大な人口の起源は西方にあると信じられてゐる。中央アジアの山麓の北部は東方への自然の出口をもつてゐる。この交通の容易が人口移動の最も重要な事であつた。かくて次第々々に山地より丘陵の麓に沿うて、盆地から盆地に人口の足溜りをつくつて東方へ移動した。従つて黄河上流の小盆地はいづれも古代に於ては最も人口の稠密な中心地の一つであつた。西安府の如きはその最も著しいものである。こゝは當時の西と北と

南の支那の文化の相會ふところであり、**中國の花**と呼ばれた。然し黄河の下流地方に於ては流



8. 支那の開拓地 (Fleur)
一 點 一 萬 英 町

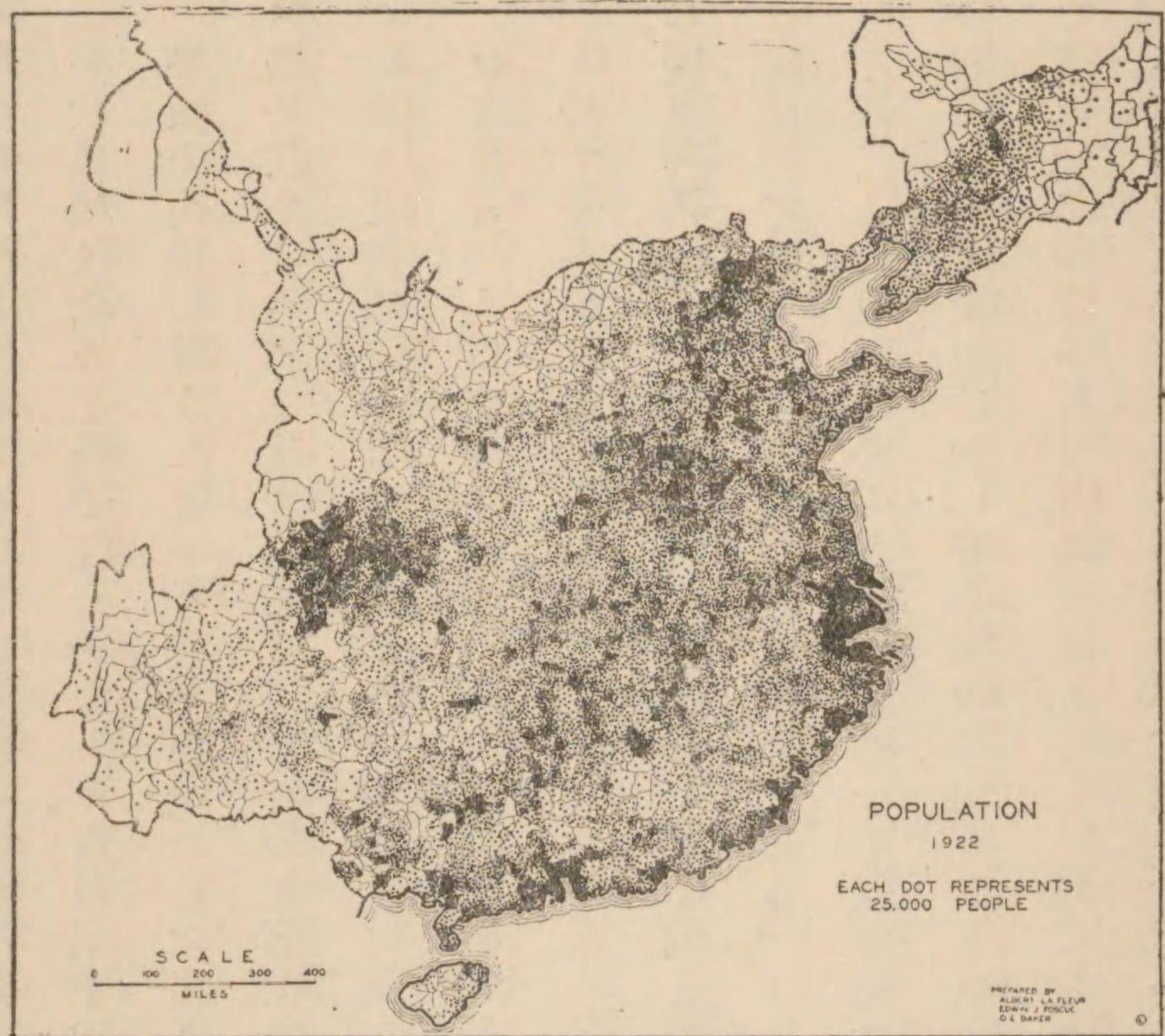
路絶えず變遷し、洪水の害甚しく人口の集中には最も大なる障害であつた。そして黄土の平原の耕作は、彼等の故郷たる中央アジアの丘陵地に生れ出た耕作法とよく類似してゐることが、彼等を東方へ導いた力であつた。即ち運河又は網目的工事に依る水流の分布術或ひは高原の耕作物を平原の耕作物と結びつける技術が人口移動の役割りを果たしたのである。かかる環境は人工的な設備をもつて障害をとり除かねばならない。即ち紀元前四八六年支那に於て始まつた大運河の掘鑿である。かく

て人口の問題は、最初は家族の責任であつたが、此れ以來國家の事業となつた。運河の整理が成ると、人口の定着が自然と行はれるやうになつた。

支那に於ては國勢調査は極めて古くよりの制度であつたと云ふにも拘らず人口の計算は甚だ困難であつた。一七四一年(乾隆六年)迄は實際上すべての人口調査の計算は納税世帯を基礎として行はれたものである。

前清帝國の終末に二個の重要な人口調査報告がある。即ち一八八五年(光緒十一年)の戸部の人口調査及び一九一〇年(宣統二年)の内務當局(民政部)の人口調査である。第一の調査に依る支那の人口(滿洲を除いて)は三億七千七百六十三萬六千人であり、第二の方によれば(滿洲を含んで)三億三千百十八萬八千人である。戸數から個人總數を算出する爲に用ひられた係數は五・五であつた。

今日吾々は最も信頼すべき記録から支那本部(東三省は今日支那本部の延長であるからこれを含む)の人口は大約四億と言はれてゐる。人口の地方的分布を観察するに吾々は直ちにその限られたる大さの一定地域へ極端に人口が集中してゐる事を知り得るであらう。最も密度の大なる地域は



9. 支那の人口分布 (1922年)
一點が二萬五千人 (Flett)

A 北支那大平原の中央部で山東省西部、河南省北東部、河北省の南東部及び安徽省の最北境を含める地域である。同じく大平原内でも他の部分は人口が多くない。この平原は地形は一様であるが、土壤の性質及び可住性の見地からは頗る多様である。恐らく三種又は四種の異つた土壤の種類が分たれ得る。

- 1 即ち黄土を混じたる沖積層。これは最も豊饒な土壤を構成してゐる。
- 2 泥土。
- 3 豊沃ならざる性質の砂地。これはその河道が屢々變更し大災害を引き起した事のある黄河及び淮水の堆積物に起因してゐる。

4 廣汎な沼澤帶地域。特に淮水周圍の排水不完全で洪水の恐れ多き地方。この人口稀薄な廣い帶狀地域は北方と揚子江三角洲との人口集中の重心地域とを隔てゝゐる。ここはその周圍の豐沃の地域が漢人によつて着々植民された後も永い間夷狄の避難地であつた。

B 揚子江の三角洲で政治的には江蘇省の南部三分の一と浙江の北方海岸地帯を含んでゐる。この地方は驚嘆すべき農業的基礎に加ふるに大なる工業的及び商業的活動性により特徴づけられてゐる。人口密度は西湖の東方及び杭州灣と揚子江の現在の河口(崇明島を含む)間の地域に於て最高限に達してゐる。

C 廣東三角洲は範圍は狭いが密度は上述の地と等しいであらう。水路に沿うた人口の集中は此處に於て最も特徴ある形で表はれてゐる。

この三つの地域に於て人口密度は一平方哩につき一千人を下る事はあるまい。

D 四川の赤色盆地は概して上述の三地方よりは確かに低い密度に在る。密度は恐らくは一平方哩に於て四百から五百の間であらう。然し支那に於て最も廣く灌漑せられたる地方なる成都平原地方に於ては遙に高く一平方哩につき一千七百人を下るまい。

E 揚子江と廣東三角洲間の海岸地帯。ここに於ては稠密な人口集中は連続した帶狀を成して居

ない。福州、厦門、汕頭の如き多くの大小中心地域に群居してゐる。そして南支那の高臺の海岸斜面の人口稀薄な地域によりて確然と境された極端に狭い地帯である。

F 中央盆地若くは湖北盆地。この地域には九江盆地及び浙江及び贛江の谷を合せ含む。後の二者は洞庭湖鄱陽湖のある盆地を通つて南方から中央盆地及び揚子江の谷に出る二大通路を含んでゐる。北西では漢水下流の谿谷が是に屬してゐる。それは武漢を中心とした頗る複雑な河流の結合點にある。

人口密度高き地方は總面積中小部分をなすに過ぎない。他にも人口稠密な谿谷があるが然し渭水の谿谷の如き可能性のあるところを除いては支那主要地域には中以上の密度を有して居る所はない。

北西支那の黄土高原は中庸を得た密度の人口を示してゐる。即ち支那の大抵の場所で見られる場合よりも遙かに均等に分布し、又他の地方の如く水路の地方に特に集中して居るといふ如き事は著しくないが然し此處に於てすら人口は谿谷に於て最も多い。谷の中では豐沃な黄土が最も厚く而して谿谷の勾配は自ら階段耕作に適してゐる。高原の風に曝された部分の耕作は砂風の蹂躪によつて妨げられる。人口は黄土盆地特に太原府のそれと汾河の谿谷に於て最高密度に達

してゐる。即ち山西省及び陝西省の人口密度は一平方哩に付き夫々百八十二及び百二十一である。

此等の地方では農業は多く井戸水にて灌漑せられてゐる。而も沙漠の砂の乾燥と侵入によつて農業地は着々と荒廢しつゝある。山西省は礦物資源の豊富なるにも拘らずその開發微々たるためそれが人口集中の原因とはならない。

黄土高原の西方に明瞭なる支那の文化の歴史的搖籃地として、且つ大なる豊沃地として渭水の谿谷が人口稠密なる小地域を構成してゐる。地方的一大都市としての西安府の東西四千平方哩の地域内に於て平均一平方哩に一の地方的都會が存在する。

南方渭水盆地の境界をなしてゐる秦嶺山脈の山麓地帯は支那に於て最も人口稀薄なる地域の一つである。

南支那高臺及び雲南高臺の谿谷は可成り人口は密であるが然しその面積は全體の極小部分をなして居るに過ぎない。而して高原に於ては極く稀薄である。雲南省には十四萬平方哩の高地と一萬平方哩の平原があるが後者は一平方哩に四百の人口があるに對し前者は僅に四十人の密度なるに過ぎぬ。谿谷に於ける比較的多くの人口と高原の稀薄なる人口との對照は支那の著し

い特徴である。而して南方及び南西地方ではこの地形による人口密度の多少は又同時に人種上の對照をなしてゐる。丘陵の住民は主として土着の或は漢族以前の住民なるに反し谿谷のそれは漢民族の農夫によつて占められてゐる。

茲に支那の人口が本質的に農村的性質を帯びてゐる事が特筆されねばならぬ。一般の計算によれば少くとも全人口の八割は農夫もしくは密接に土地に依據して生活してゐる者である。僅に全人口の六分が、五萬もしくはそれ以上の都市に居住し、他の六分は一萬から五萬の間の都市又は町に居住し、而て殘餘の八割八分が人口一萬もしくはそれ以下の土地に居住してゐる。

支那の社會的基本單位は農業村落(二百五十から二千五百の間の人口を有する)及び小村落(二百五十以下の人口のもの)とである。而して支那には少なくとも農業村落は十萬あり即ち總計二億の人口を有すると計算されてゐる。

支那の都市は十萬以下のものは村落の成長したもので農業的基礎を有する集散市場である。十萬もしくはそれ以上の大都市になると他の原因が入つて來る。揚子江三角洲と廣東三角洲にある二大都市は工業的、海運上及び商業上の要素が大きい。北方の人口稠密の中心となつてゐる山東省は性質上全く農業的であり大都市は遙かに少數である。山西省には人口十萬以上の都

市が一個すらもない。中部揚子江の南方に於ける二聯の大都市の列は廣東三角洲と中央盆地との間の二つの大なる移送分配の主路に當つて居るがためである。

支那の或地域が人口過飽和の状態にある事は眞實である。旱魃又は洪水に依つて一時的に穀物の不作な事があれば大概直ちに大規模な饑饉が驚くべき死亡者と不幸とを伴つて起り、豊作の時にすら絶えざる人口過多の傾向がある。このことは人口密度大なる各地方に同一の力を以て適用されるものではなく北方の山東省河南省に於て特にあてはまる。ここでは生存の爲の闘争は永い間激烈を極めてゐる。人口の大群が滿洲及蒙古へと流れてゆく。一部は眞の植民的移住であり、他の一部は一時的移住で幾千の人間が北方で働き其の收穫終れば歸郷する。北平の人力車苦力階級は絶えずこの平原の過剰人口の間から來てゐる。揚子江三角洲に於ては山東地方よりは良好である。それは穀物不作の機會は遙かに少ないし又遙かに多くの種類の職業がある。支那の經濟生活の工業化がその人口の上に及ぼす影響は實に甚大なものがある。

揚子江と西江との間の海岸の小地帯、殊に福建の沿岸諸都市にても亦人口稠密が著るしい。この地帯及廣東三角洲からは人口が海外に即ち海峽植民地、馬來及び暹羅東印度のある部分へ移動する。彼等は至るところに支那人部落を作り極東熱帯地方の經濟的發展の上に實に重大な

る役割を勤めてゐる。廣東三角洲の生活の標準は北支那に比して遙かに高位にあるのは穀物不作を起す事のない特殊の良好な氣候的條件がある爲である。四川の赤色盆地は北支那平野もしくは黄土平野に比して穀物不作及び饑饉の危険は比較的少ないが他方その地理的孤立のため人口の移住を妨げてゐる。そのためその人口が生存維持條件に比して過大なので生活の標準は支那の平均よりも下つて居る。

故に支那の最も富める地方では人間の過剰負擔に苦しみつゝある事は眞實である。然し若し灌漑、治水及び植林を科學的な又適應した計畫の下に行ひ、又これを繼續するとせば現在に比してより大なる人口を維持し得る事は確である。もしも黄河が組織的に統制されたら雷に破壊的な洪水が極度迄減少される許りでなく、又北支那平野の現在では殆んど荒無地となつて居る廣大なアルカリ性の土地も漸次に開拓され得るであらう。同様に植林は中支那及び南支那の多くの地域に於て生産力及び可耕面積の範圍を増加せしめるであらう。さうすれば既に必要に迫られてゐる人口の分布の更新が出來、従つてある期間は更に條件よき地方の人口過剰を救ひ得るであらう。

この地理的安定は支那の政治的安定の基礎となる。而して又政治的安定が支那の經濟的發展

を迅速ならしめ、農業上には科學の應用が恐らく極めて著しいものとなるであらう。

自然地理的に隔てられてゐる人口の中心地を統一するには交通の發達が不完全である。今日北支那平野、揚子江、三角洲及び中流盆地の三つの人口重心點は連絡してゐる。然し人口稠密なる海岸地方は尙ほ内地の生活と殆んど完全に切り離されてゐる。廣東三角洲はそれ自身特別なる利害關係を有し、而して實際上は僅に海を通じて揚子江谿谷又は北方と交通し得るに過ぎない。四川の赤色盆地は一の別世界をなして居り揚子江三角洲の住民から隔絶してゐる。

是等の大中心の隔絶は中央權力が弱まつて各分離的傾向を表はす事や、又經濟的利害關係や經濟狀態の地方的差異が政治的形態を取る事の原因となる。内地交通の改良は支那統一の先行條件である。特に廣東三角洲をして武漢及び中流盆地と直接連續せしめる粵漢鐵道の完成はこれ焦眉の急である。この連絡の樹立は恒久的な政治上の分離の機會をも減するであらう。又同様に多年計畫せられた武漢より四川に至る鐵道の建設はこの西方の省をして完全に支那の生活の一單位たらしむるに至るであらう。

支那統一の事業に中部揚子江流域をして特に中流盆地は北方、西方、東方及び南東の大中心地間の結び目及び媒介者たるべく自然により定められて居る様に見える。恐らくは世界中どの

國も支那が武漢をその中心とした中流盆地を有するが如く、かゝる驚くべき中心地域を有しない。此處に於て大なる南北の鐵道大幹線（北平、漢口、武昌、廣東間の）海洋汽船航行の起點に於て東西に渉る他に比類なき揚子江の大水路を横斷することになり、南方より浙江及び贛江、西南よりは沅江、西北よりは漢水の大谿道がこの地點に輻輳する。それは四川と支那の他の部分との接觸點である。而してこの接觸點たる事の意義は近き將來に大いに高められねばならない。その上この大なる中心地もしくは地理上の中心は殆んど幾何學上の中心に近い。

而して北平は邊境の草地との關係上平原の北部頂點に在つたので、その地理的意義は重大なものであつた。惰性の法則は不可避的に變化と闘ふものである。今日遷都の利益を失つてもなほその傳統的な感情は北平のすべての雰圍氣及び附屬物と共に大中心地たる意義を失はない。しかし又一方北平張家口の綏遠鐵道の建設により西北牧畜地方が又東三省が東蒙古に於ける近年の急激な鐵道の建設によつて東北地方が開發せられつゝあるが故に、この北平を中心とした北支那は新しい大支那の交通の中心となり新しい經濟的意義が與へられつゝある。

註 漢人の蒙地開墾に就て 清朝は漢人の蒙地占耕を禁じ、蒙古の牧地を保護する方針を執つたが、清末に

なつて露西亞南下の勢力壓迫を感じ、この方針を一變して植民實邊の政略を執り漢人の蒙地占耕を奨勵するに至つた。

漢人の蒙地占耕が何時頃から始まつたかといふに、遼史地理志(卷三十七及三十九)に、遼の太祖が天贊の初(西曆九二二年)燕薊の地を征し、漢人を虜となし、之を潢水(西遼河即ちシラムレン河)の北、遼の上京臨潢府に屬する臨潢、長泰、定霸、潞等の諸縣に散居せしめ、渤海人と雜居して耕牧に従事せしめ、又遼の聖宗が統和二十五年西曆(一〇〇七年)に中京大定府(喀喇沁右翼旗界内老哈河に臨む)を築き、漢人を移住せしめたことが記されてある。かく遼代に漢人が古北口外の蒙地を墾耕するに至つたが、それが元代まで繼續した様に思はれない。蒙古人は農耕が牧畜に害のあるとして之を好まなかつた。明には漢人が長城以内に退歩した。清に至つて熱河、歸化城、張家口の三地は漢人によつて開墾するやうになつた。乾隆の末頃には、東三省邊外の哲里木盟に屬する蒙古各旗に支那内地の人民が出かけて開墾するやうになつた。内蒙古ばかりでなく外蒙古喀爾喀にも嘉慶若くはそれ以前から漢人が侵入占耕してゐた。蒙古は牧畜を主業とするので蒙地を開墾するにもその草地は留むべきことを康熙帝も注意してゐるが、漢人の續々蒙古の土地に侵入して牧地を侵蝕することは蒙古の人民は反對するが、蒙古の札薩克、王公等は反對しないばかりか、貸下料や小作料を食ふがため漢人の流民を招墾したことが重なる原因になつてゐる。

インド

支那と同様にインドも人口移動の大波には矢張り地理的原因が作用してゐる。移動の過程は乾燥したオクサス河の流域からインダス河の上流五つの河の流域のパンヂャブへと出てゐる。甘肅省から中央アジアに流れ出て行つた漢人の様に、山脈沿ひに廣大なインド・ガンヂスの平原に移動して來たアリアン族は、東方へ行くに従つて益々豊かな植物景觀に魅せられてこゝに定着してしまつた。

數回繰返された移動によつて、この平原は多くの異つた種族の構成要素から成つてゐる。即ち、インドアリアン人、アリヨ・ドラヅイデア人、モンゴロ・ドラヅイデア人等である。その人口増加は支那に於けると同様、最近殆んどとまつてゐる。高い生殖率があるとともに、高い死亡率が存在する。地方病と飢餓と傳染病の連鎖が恰も週期の法則の如くに存在してゐる。

東南アジア

アジア大陸の南方の諸島は大きな範圍に互つてひろく分布してゐるが、その人文地理的現象はモンsoonによつて統一され結合されてゐる。無数の離島及び大陸の縁邊にあまねくひろく分布してゐる。マレイ族のひろがりにはモンsoonの勢力範圍とみるべきである。

移住の波毎に前の波は更に遠くへ、南太平洋の方へ、又は島の内地奥深くへ追ひやられたが、熱帯の密林のために最古の原始人が生き残つた。人口の密度は非常に不均等で稠密なところは島の或部分に又は群島中のある島のみに限られてゐる。ジャバは早くから米の耕作と、優れた文明の諸要素とを持つてゐた。フィリピン群島ではルソン島の中央の平野と南部の三角洲的地方が急激に増加する人口密度を有してゐるだけである。

日本列島は現在世界に比類尠いほどの高い人口密度を有してゐるが、又アジャの東南の大陸邊縁地方全體に互つて然うである様に、非常に古い人類の痕跡が存在してゐる。そして恐らくこれらの南洋諸島に於ける人口移動の波の關係を日本も同様に行つて來たのであり、たゞそれが早く完成されたのであらう。日本に於ても久しい間人口の稠密なところは内地海岸及び島嶼の縁邊であり、谷に人が住むやうになつたのはそんなに早いことではない。海が何處に於ても住民の物質的的精神的發展に重大な役割を果したのであつた。

ギリシヤの海岸多島海にもついても同様であつた。日本の場合に於ては唯單に海流のための漁獵場が早くから稠密な人口を牽きつけた故ばかりでなく（もし漁獵場が唯一の原因だつたとすると北アメリカの北方種族の人口の發達が早く靜止した原因が判らなくなる）大陸の存在に

依るので、即ち大陸に於ける自然的及び社會的影響を日本では常に受けてゐたのであつたので大陸に最も地理的に近接してゐる北九州は、人口の稠密及び移動の大きなところであつた。農業的工業的兩方面の新技術が絶えず大陸から移されて來たので、北九州は人口の増加を收容した。かくて大陸との接觸は日本列島の人口を多大にしたのである。

アジャの人口分布について注目すべきことは人口集團の限界が北緯四十五度の邊でとまつてゐることである。即ち歐羅巴に於ては人口密度が増加し始める頃の緯度に於て止つてゐる。

これは一面主要農業の限界である。アジャに於てはこの限界以外は大概原始的森林に被はれてゐるか又は農牧林の混合をなしてゐる。

以上述べたところについてみるに、アジャに於てはどこに於てもその人口分布が農業と實に密接な關係にあることがわかる。従つて水の供給即ち水流と降雨との統制による灌漑が人口分布と相伴つてゐるのである。

第六 歐羅巴聚團

境 界

四つの大きな人類の集團——印度、支那、歐羅巴及び合衆國——の中、歐羅巴の集團が現在最も重要である。分布の點から見れば歐羅巴は全世界の中心である。そして人口やその社會的及び經濟的重見な點からみれば、その他の何れの所にも立ち勝つてゐる。

しかしその卓越點はほんの近代に於て生じたのである。十九世紀の初頭に於て、歐羅巴の人口は印度或は支那の人口程大きくはなかつた。最も信頼し得る計算は約一億七千五百萬人といはれてゐる。世界戦争によつて起された損失の前には、一九一四年四億四千八百萬と計算された。即ち一世紀と僅か経つたばかりで約一五〇%の増加である。平均密度は一八〇〇年に於て約百に付き十九であつたが、過去數年の間に百に付き四十五以上にのぼつた。此の歴史的展望に依つて齎らされる更に重要な事は、一八一五年には、歐羅巴大陸の如何なる重要な地方も、ロンバルヂヤ王國の人口と比較し得る密度を、即ち一平方軒に付き九十人の人口を持つてゐなかつたと言ふ事である。農業上の富、大公共事業の古代の遺産、此れがこの王國の比較的高い人口稠密度の原因であつた。この地方の人口は、九世紀の間に著しく増加した。然し現今に於てはベルギー、ライン流域地方及びサクソニヤ、英國は勿論、總てロンバルヂヤの密度よりも大なる密度を有してゐる。

人口の總數と同様にその分布も變つて來、人口密度の中心地も置換られた。

歐羅巴大陸の人口分布の中心の境界は、今の所、北に於ては約七十度に於て引いて良い。其の緯度の北地には、其の境界線の全長に互つて大都市が相次いで竝んでゐて前哨線を形も作つてゐるが、その人口密度が最も多くても一平方軒に付き三人を超えてゐない廣大なる土地が展開してゐる。人口は僅に海岸に限られてゐるに過ぎない。ノールウエーの人口の三分の二は海岸にゐる。

東部に於ては歐羅巴大陸は、地理的重要性と共に歴史的意義をも有する境界線に依つて境されてゐる。北部の境界の如くヴォルガ河に依つて結合せられた急激に成長しつゝ、ある都市の一連鎖に依つて劃されてゐる。その區劃線の彼方、ウーフマ、オーレンベルグ、及びアストラカンの治領で少くともフランスの地域と等しい面積を有する地域と等しい面積を有する地域に互つて、平均人口密度は一平方軒に付き十二を超えてゐない。此の稀薄な人口を有した地方と、ヴォルガ河の西の急激に而も不斷の成長をなす地方とは鋭い人文的境界線をなすものである。一般に河は人文的境界線をなすことが多い。ローマ人にとつてライン河とダニューブ河とが北方人に對する防禦的境界線であつた。神聖ローマ帝國の場合にはエルベ河、ザール河、エルスター

河が境界線となり、更にドイツ人にとつてオーデル河、ウイスマツラ河、及びドニエプル河にまで擴大した。メルセブルグの後にライプチヒ、リガ及びキエフはその連鎖を劃してゐる。

出發點及び擴大の諸條件

かくて、歐羅巴の人口の三分の二以上が、殆んど一樣の高い稠密度を有してゐる、此の地域に於ても稀薄な人口を有してゐる部分があるが、それはあらゆる側から縮小されつゝあり、そして益々、高山とか森林とか沼地の様な場所に制限されてゐる。かくて人口稠密のあらゆる空隙は着々と消滅し減少しつゝある。

アジアの人口の稠密度は一つの支配的な原因即ちモンスーンの勢力影響の下につくり出され、そして成長して來た。稠密なる人口の中心地は始めは散在してゐたが次第に相互に接近して、そして遂に融合した。その人口の稠密の限界は北緯四一度の間に存在してゐる様に思はれる。他方、歐羅巴の人口聚團はアジアの人口聚團が終る所に始まつてゐる。世界人口の殆んど四分の一を歐羅巴に集めたが、その地球上に於ける位置は他の大陸に於ては人口の稀薄なところであることは人類土地住居に於て獨特の地位を占める現象である。これは古代に於ける人口聚團

の中心地たる東アジア及びエヂプトと異なるところである。

かく舊世界の半島たるヨーロッパ大陸に地球に於ける最も大なる人口の集積を導いた種々の原因の第一は他の場所に於けると同じく此處に於ても、人間の消費に適する植物の豊富と言ふ事實であるが如く思はれる。此の點については、歐羅巴殊に氷河の作用を受けなかつた地域では植物學者によれば最も豊富に營養植物の供給を有した地方、即ち印度スーダン及び支那等と殆んど同様に豊富に恵まれてゐる。最も有用な穀物の或物、例へば小麥や大麥や、又は、豆、えんどう及びリンズ豆等の多くの植物は、地中海地方に於ては、土着物であつたか然らざれば隣接地方から非常に古くからの輸入であつたと思はれる。商業は早く地中海の海岸に沿うて發展し、隣接地方に固有な植物の風土馴化を來した。歐羅巴の全部の食物の源は前史時代より次第に増加して來た。そして此等の全くとは言はぬが、最大數を以て數へ得る程、地中海に依つて供給されて來た。そして又食用植物の著しい多種多様は非常に注目すべきである。尙ほこのことは前史時代の發見物に依つても確かめられてゐる。

歐羅巴地方に於て北緯四十度の邊は、人口擴大に都合のよかつたアジア地方の部分と類似してゐる。これ等の地方はミラポールの言を假りていへば「世界最惡の政府の努力も人口の増加を

防ぎ得ぬ地方」である。事實として、ネーブルス王國や南スペインに於ては人口が常に増加して行つたと言ふ事はできないが然しながら絶えず増加の傾向を持つてゐたことは事實である。南伊及びスペインに非常に多くの浮浪人があるのも日常生活の缺乏物を自然がよく補つてくれるためである。彼等は容易にサラダ、果物、甜瓜特にビメントーを得る事が出来る。快晴のつゞく季節が始まると、職業を有する者も自分の職を去つてゆく。自然の與ふる品が彼等の必要を満すに充分であるからであると、言はれてゐる(ド・ラホート)。此の證言を略同じ程度にあるトルキスタンの豊饒地のカシユガル、ヤルカンド、ホータン等の住民の如きイラニヤ人の農業の傳說的因襲的古代方法を保存してゐるものについて比較して見るに、こゝでも夏期の間果物と甜瓜とは住民の日常生活を支へるに充分な程豊富である。かくて他の程度にある住民にとつては、その生活の重荷である生産物が實に容易に供給されてゐる。

然し乍ら、歐羅巴では地中海岸から百軒以上も離れぬうちに氣候は急變してゐる。即ちアルプス山脈バルカン山脈の障壁によつて劃然と異なる生活形態を示してゐる。

その住民は冬に對する設備が必要である。又、冬の仕事として家内工業が早くから起つたその農業は家畜牧養によつて補けられた。そして最後に科學の助力によつて、今日地球上でも重要な活動をなしてゐる人口を集め得たのであるが、その基礎をなしたのは、鐵と石炭とであつた。

註 クレプスが南ドイツに於ける人口分布を研究したのに(伯林地理學會雜誌一九二八年)よると、地形と一平方軒に就ての人口密度との關係をみるに、

平野	一二九 (但人口二萬五千人以上の都會と純工業地帯とを除いた數値)
丘陵と段丘	七九
盆地及山の周邊	一一八
階段地に於ける谷	一六五
ムッシェルカルクの地方	九八
コイパーの高地	五二
ブントルザンドスタイン地域	五二
其の他の中山地	六七
アルプス	三二

この表の中、平野、丘陵地、盆地、ムッシェルカルクの地方を一つに集め、その他のものを別に集めて計算すると、面積の比は三對一であるが、人口の比は四對一となつてゐる。これを人文地理的關係の方から觀るに

	人口密度
町及び工業地帯	三〇・八%
工業の盛な農業地帯	三・五 (二七二)
葡萄その他の果樹園地と工業地を兼ねた地方	一五・五 (一九二)
穀物生産地	二七・二 (七九)
種々の混合地	(九・五) (六八)
牧場と森林地で工業地を兼ねた地方	(一・七) (八〇)
牧場及森林地	(二〇・六) (五〇)
高山に於ける牧場及森林地	(一・一) (三二)

この數字は、工業地帯、土地の利用の高度に達した地方、森林と牧場の多い地方、果樹の栽培地方がどれほどの人口を收容するものであるかの一つの参考となる。

第七 地中海方面

空虚なる地域

地中海地方の自然的性質は、人口分布に於て實に著るしく他と異なる影響を與へた。即ち、都市を除いた人口分布上の主要原因は果樹園、葡萄園、オリヴ園などの如き木質植物の培養及

び羊、山羊の飼養に基づくものである。即ち同じく農業であつても『種子の蒔かれた土地』と『植物を植えられた土地』との差異があるのである。

イベリヤ半島とアペニン山脈、ヂナルアルプス山脈、及びピントス山脈の地方は冬期には山々は雪を以て被はれる。然し夏にはそこが良い牧場となる。平原は長い夏期の乾燥のため播種農業の植物に對して成長を阻害する。従つて簡単に或場所から次へと移し得る家畜の飼養は、地中海地方に於て特徴となつてゐる富の形態である。冬の平原と夏の山地とに交代に牧場を見出す。この地理的環境がこの地方に特有の牧場制度なる結果を生んだ。羊群は高地から低地へ又低地から高地へと季節に依つて追はれた。羊群の移動は最初は近距離の範圍内に制限せられてゐたが次第にその範圍を擴大した。斯くしてこの移動牧畜の制度が、ヂナルアルプス山脈とダルマチャ海岸との間に、ピントス山脈とテッサリヤ平原との間に又カンパニヤ平原にリオンの平原にアンダルシャ平原に確立される様になつた。そして羊飼ひと羊群の洪水が週期的に平原の上に流れ歩いては其處に於ける農業の妨害をしたのであつた。其の結果は此の制度が最も極端であつた平原では、農夫は唯二つの短かい時期即ち、十月には蒔く爲に、六月には收穫する爲にのみあらはれるやうになつた。この移動牧畜制度が地中海の周圍の人口密度が比較的大



10. 地中海地方に於ける雨量分布 (Philipsson)

三つの半島の東南部は最も雨量が少い

きくないのを説明する理由の一つである。

樹木農業の役割

又、地中海の歐羅巴側の海岸は季節的乾燥氣候に襲はれる。然し全く乾燥不毛の地方とは異つて、冬、春、秋の降雨はカルスト地方は別として下土に不斷の濕氣を貯へて置くには充分である。此等は、深い根を下した樹木の成長には何等妨げとならないのである。このやうに下土は地中海の農業にとつては頗る重要である。貧弱なる降雨量を有する地中海沿岸地方は、高價な灌漑組織を缺いてゐたが、養樹業によつて表面の乾燥せる土地をも利用することが出来たのである。この樹木農業は古代より行はれて來たが爲にかうした土地に最も適する型の植物、葡萄、無花果、オリーブ、アルモンドが、灌漑を要せぬ植物として培養せられたのである。この乾燥せる表面と濕氣ある下土を有する地方

は、最も古代の地中海型の集約的農業と、稠密なる人口が發生した所の地方である。かくて養樹農業が行はれるやうなところでは播種農業に比して勞働力を要せず、従つて過剰の勞働力を利用して他の産業が起るやうになつた。各地の産物が航海によつて交換せられ、僻遠の地も島嶼も航海によつて連絡せられて比較的人口分布の偏在を尠くしたことも注目すべきことである。

リヴィエラ地方

海上貿易と、ギリシヤ、フェニキヤの植民は、地中海沿岸を海岸より海岸へと人口分布を擴張してゆき急傾斜の海岸は階段式にして利用した。

そして西北及び北の風を避けて穏和な微風及び正確な秩序を以て吹く風が、海岸貿易と漁獵とに役立つた。このやうなところに第一にリヴィエラの地帯がある。それは一般にリヴィエラと言ふ名を以て知られてゐる。ジェノアからサンレモ迄はオクシエンタル・リヴィエラ(西リヴィエラ)、ジェノアからスペチャ迄はオリエンタル・リヴィエラ(東リヴィエラ)といふ。此處は山が海岸を抱いてゐる。海に面してゐる岸の坂の上に果樹園とオリーブの森が展けてゐる。

この坂の下には弧状をなした白砂の海濱が横はつてゐる。この南に面した階段耕作地と海濱がこの地方の特色であるが、此の二重的性質から海運業をやり乍ら農業を営むことの出来る家族協同に都合の好い生活様式が発生する。此の沿岸貿易と漁業が人口をこの地方に牽引した主なる原因である。其の原生的なモデルは、シリアル、又トリポリの南からキヤルメル山に到る海岸に探す事ができる。即ち、此處には、地中海沿岸全部に互つた植民地の養育所たる古代フェニキヤの都市が連鎖をなして、延びてゐたのだ。

かうした地中海の沿岸に特有なる生活は人口を海岸に沿うた狭い範囲内により多くの人口を集めるやうになつた。ことにリヴィエラの如きところは同じ海岸でも特に人口を集中せしめる條件をもつた地中海的集中の特長を最もよくあらはしたところである。

高地帯

地中海地方に久しく特徴的だつた事實は、稠密なる人口が果樹園の地帯が集中されてゐると云ふ事である。八百米の高地より上には、此の地方の最南地帯に近い地を除いて、聚落は珍らしい。シシリ島では大きな町が可なりの高度にある。即ち、カラスシベッタ(八七八米)とカ

ストロジオバンニイの双子町、古典的なヘンナ(九百九十七米)の町等があるが、村の人口の大多数は、三百米及び八百米の高度の間に存在してゐる。此の最も人口の多い地帯は又區分されて柑橘屬の植物の培養される地帯、灌漑水を湧泉より求める地帯とである。これらの標本的な例としてはエトナ山の東側及び南側の斜面に、又ポロニヤからテルモリ迄、アペニン山脈の外側の弧を裾どつてゐる、第三期中世の粘土質の丘の上の南伊太利などである。葡萄とオリーブは普通一緒に存在してゐる。然し乍ら現代の經濟市場の要求は、葡萄を益々平野の方へと牽きつけてゆく。今日は階段農業が次第に減少してゆくやうになつたと言ふのは、石造の段は絶えざる注意と修理とを要し、且つこの型の農業に依つて要求せられる労働力は非常に大であるからである。だから古代の耕作せられた階段の高臺は、屢々、利益の上らぬ收穫業に委せられ、今日では崩れ落ちた石の堆積を見るだけのところが多い。人口の移動には、一種の垂直的な退潮と満潮とがある。昔高處の居住は安全であり、又健康的であつた。しかし今日では、人口の牽引力は反對の方向にむいてゐる。

山の役割

山脈の雪は河を養ひ、泉をつくり、そして、夏期乾燥期には最も重要な貯水池として役立つてゐる。しかし斜面の利用としては、此等の山にはフランス方面のアルプスに於けるが如く牧畜業として發展する事のできる廣い上方の斜面が尠い。高山の人口集中に對する役割は水源地としてある。ペルシヤ、ギリシヤ其の他いづこの古代の國家の繁榮した都市の中で、豊富な水源地を有したところは後世に至るまで人口集中の中心であつた。リヂヤ、トラキヤ、マケドニヤなどの古代國家も前史時代に根をもつた歴史地方なのである。

此等の土地は、その背後の高山より供給する溢れる水の流れと共に永久的な力をもつてゐる。其れは一度び人間に採られるや、決して二度と見捨てられる事はなかつた。エトナ山の斜面の上で泉が非常に多いところに世界に於ける人口の最も異常に多い巢の一つがある。山邊全部に互つて、一平方軒に付き三五九人の平均人口を有し、東と南に於ては、六百人もの數に上つてゐる。ペロポネサスに於てもカラマータ市が、エーゲタス山(二千四百米)の麓にあつて、全體としての王國の平均數に二倍する人口稠密度を有してゐる。

地中海の周圍にある、人類の居住に好都合な地帯の平均的高度は、二百米より四百米の間である。換言すれば、不健康な低地よりも上にあつて、然も、地中海的氣候の富をなす穀物の耕作を妨げる程高くもない地點である。

アラビヤ人の影響

地中海諸國は時の経過と共に外觀を變へ、同様に人口の分布をも變へて來た。ローマ帝國の衰滅を劃した人口減少の後に、アラビヤ人の支配が南伊太利及びスペインに於て確立された時人口密度の地圖の上にも變化が生じた。又其れと共に新しい植物たる綿、甘蔗、米、柑橘屬植物など一層進歩した灌漑の助けによつて生育した熱帯地方の産物がやつて來た。地中海地方でも其の南方は眞に理想的な土地であつた。比較的長い夏の乾燥期に續いてより溫和な冬期を有してゐる。もしこの土地に灌漑水を充分に利用し得るならば、熱帯に於けると同様の産物を作り得るだらう。今日全地中海地方の果樹園とオリーブ園との繁榮は、アラビヤ人との努力に歸すべきものである。シシリー島はアラビヤ人に驚くべき實驗場を與へた。十世紀の頃この島は洪水の様な移住民を牽きつけた。そこは當時歐羅巴に於て比すべき者なかつた程繁榮し、リグリアと北部伊太利とからの移住がやつて來たのである。パレルモのコンカ・デオロは、全く今日の人口と同じ大いさと思はれる人口を有してゐた。

スペインも亦アラビヤ人によつて活潑なる繁榮を來した。アラビヤ人は乾燥地を活用する技術をもつて地中海沿岸地方を蘇らせた。スペインの東と南の海岸に沿うて、即ちヴァレンシアからマラカ迄、速生栽培の野菜類が巧みな人工設備の集約的耕作によつて、中央ヨーロッパの工業地方に比せらるゝやうな人口の聚團を作つてゐる。

註 地中海式氣候 地中海式氣候といふのは温帯で大陸の西岸に位する地域の氣候といふことである。南北回歸無風帯の北で卓越西風の吹く所にあるが、北半球では夏太陽が北に移るので、この地中海では回歸無風帯にあるから雨が降らない。然し暑氣は烈しい。然るに冬になると太陽が南に移つて、北半球の地中海では西卓越風帯になるので、西方の大洋上を吹く風ができて雨を吹らすことになる。北半球の夏は南半球の冬であるからその時は南阿の西岸に同じく雨が降るわけである。要するに太陽の移動に伴ふて温帯の南縁は氣象上に冬と夏との差が生じてゐる。冬季に限つて雨の多いのはその時期に西風卓越帯に入るからである。

第三章 地理的環境への適應

地理的環境と人類の活動との關係こそ人文地理學の主眼とするところである。而して地理的環境としてその主なる要素は氣候地形地質等であるが、就中氣候の人文現象に及ぼす影響はまことに多大なものである。

第一 氣候と人文現象

この問題についての權威はエール大學のエルスウォース・ハンチントン氏である。氣候と人文との關係について氏の著書は數多きも、その代表的著書とみるべきは、一九一五年初版の「氣候と文明」である。

氏は久しく小アジアに居つた關係から、同地方に於ける氣候がその文化の上に著しい影響を及ぼしてゐる事實を見るが多く、中央アジアの旅行の結果、一九〇五年「トルキスタン探

「險記」及び一九〇七年「アジャの脈搏」なる著書をあらはして中央アジャに於ける氣候の變化と人類生活の變化とを記載してゐる。

殊にターリム盆地の氣候は古代に於ては氣候が今日と全く異り、人口稠密、幾多の都市國家の榮えて居つたことは、唐時代の旅行記によつても詳しく知ることができるが、その後の乾燥により沙漠と化し今日尙蒸發甚しきためそれらの廢地を訪ねるには飲料水としては嚴寒の折氷片を携帶することによつてのみなし得るのである。幾多のターリム河の支流も蒸發甚しきため本流に合すことを得ぬ中に沙漠の中に末無川として消えゆき、ターリム盆地の水系を集むるロプ湖も古に比して甚だしく小さくなり、古の湖の大部分は今日鹽の沙漠と化してゐるのである。沙漠の中には幾多の乾涸した死湖がありその附近に昔さかえた村邑の址をみることが出来る。

かく歴史時代に於ける氣候の變遷が聚落の興亡の上に如實にみることが出来るのである。尙又、氣候の力が民族の能力の上にも重大な影響を及ぼすことが知られる。

ハンチントンによれば、中央アジャの民族の性質には二つのタイプがあるといふことである。一は活動的であり、興奮性に富む民族であり、二は非活動的であり、而して刺戟なき鈍重な民族である。而して彼の説明によれば、この區別は全く自然環境の然らしむるところであるといふ。

即ち、前者はターリム盆地の周邊の山地に棲み、遊牧生活をなし、羊馬牛がその主なる食糧である。従つておのづから活動的であるに反し、後者は同じターリム盆地内乍ら、荒蕪な沙漠のオアシスの中に棲み、その居住地域もまことに狭小であるので自から封鎖的生活をなさざるを得ず従つて單調なる生活をなすに至つたものである。これらはターリム盆地内に於て氣候の乾燥によつて生じた生活環境の變化が、いかにその地方の住民の生活状態ばかりでなく、性格まで變ずるかを窺ふに足るのである。

又、同一の種族であつても、その住む環境の氣候の異ると共に、その文化の程度を異にするに至ることは、アメリカ・インディアンについてこれを知ることができる。アメリカ・インディアンは南北兩大陸一五七〇萬平方哩の廣き地域に互つて分布して居り、その部族は實に一四〇〇をもつて算えられてゐるが、殆んどその文化は原始的狀態に止まつてゐる。然るに熱帶地に住むもののみが古代すでに高度の文明を有してゐたのである。

即ち、キリスト紀元の頃、ユカタン半島及びグアテマラにはマヤ族の文化が、又、メキシコの南部にはアズテック帝國の文化が、又、ペルーの山地間にはインカ帝國の文明が十六世紀の

初めスペインの侵入軍によつてその國が滅ぼさるるまで榮えたのである。その遺跡は今日これを見ることが出来るが、今日尙不思議とせらるゝほどの高度の文化を有してゐたのであつた。これらの地を觀るに、現在では雨量多く、鬱蒼たる森林が繁茂し、沼澤の地普く、マラリヤ熱病の源蟲の猖厥のため、農業もできず、ましてや高い文化の起り得やうなき土地である。然るに、マヤ族の歴史を研究してみるに、古代アメリカ・インディアンの文明の榮えたのは乾燥期の時であつて、農業可能であつたと見られてゐる。農業の榮ゆる國は文化の榮ゆる國である。何となれば、農業は常に文明の母であるからである。

人類起源の説に於ても、最初は森林の地に之を求めやうとしたが、現時の學界の輿論は却つて反對の考へ方になつてゐる。一體人類の進化は何處でも自然的食物の豊富で、之を得るために何等の努力を要せぬ所では、退化的になる。然るに森林地に於ては天與の果實が豊富である。今日熱帯及び亞熱帯の原始林地方の人種の發展が停止しようとしてゐるのはよくこの間の消息を語るものである。

然るに食物の供給の乏しい原野地方に撫育せられたものは、その生活維持の上に多大の努力を要するので自然その文化も發達してゆくのである。人類起源の地もこの考へから比較的乾燥した高地に於ける活氣に満ちた天地——蒙古高原——に之を求めた結果、一九二五年以來米國自然科學博物館が數回に亘りアンドリュース博士指導の下に蒙古方面の大探險を試み、又天津の Dr. Licent が黄河の中流オールドスの舊石器時代の遺跡から、又最近(一九二七年) Dr. Zbarsky が蒙古高原の縁邊房山縣周口店(北平西南方七〇支里)に於て古代人類の遺物及び遺骨を發見したことであつた。尙、ハンチントンによれば、平均溫度華氏六〇度位が最も職工の能率をあげ得る溫度であり、學生の精神的作業に於ても、外氣の平均溫度華氏四〇度あたりが最も適當といふ。かくて又一方世界文明分布圖をつくつてみるに、ほゞこの氣候地帯と一致してゐることである。彼は氣候が乾燥と濕潤とが週期的に來ることをカリフォルニア州の巨樹の年輪の厚さを測定したり、(彼はカーネギー研究所の後援によつて、カリフォルニア州シエラ・ネヴァタ山間に四五〇本の巨大なるセクォイアの老樹の年輪を研究した結果、かなりの正確さを以て過去三千年間の氣候を知ることが出来た)又このことは裏海及ロプ湖の湖岸線の變遷を研究した結果からも裏書してゐる。(ブリュクナーによれば裏海の水面が一三〇六年から七年に現在よりも三七呎も上昇し、ロプ湖も現在の水面よりも一二呎位上昇したと言はれてゐる。)

この氣候の變化は同時に飢饉の歴史をなしてゐる。ロシアのヴォルガ河流域の飢饉の歴史も、

又中目覺氏によれば東北の飢饉は三十六年を週期とする氣候の變化に基くといふ。

ブリュックナーは氣候の變化は三十五年毎に週期をもつてめぐり、これをブリュックナーの三十五年説といふ。世界の農作物の豊富はこの週期に支配され、従つて人口の移動も亦これに制約せられると言つてゐる。

歴史に見ゆる政治上の盛衰にもこの氣候の變化に基く農作物の豊富が影響をもつことが多大であつた。十四世紀に中央歐羅巴及びスカンディナヴィヤ半島諸國は大なる氣候の影響を蒙つた。ノールウェー王國の盛衰も政治上の失敗といふよりもむしろ連年の凶作のため、北ドイツより小麥を輸入せざるを得なくなり、かくて北獨逸の經濟的勢力が侵入し、内政に干與するやうになつた結果であり、同時に、同じ氣候の變化がスウェーデン沖の漁業に幸ひし、ノールウェー唯一の貿易品たる漁業品の輸出を減せしめることであつた。

北歐傳説に北極圏地方に國の榮えたのを見るがそれも單なる架空の國でなく、古代スカンディナヴィヤ半島の氣候が遠く北極圏の地方まで幸ひしたものだと思はれる。グリーンランドへもアイスランドからあまり氷山に惱まされることなく交通したのである。そしてグリーンランドに於ける北歐人の植民地は、寒期の襲來によつて海面氷結した結果空氣呼吸の臘肭獸が南下する

と共に、それを主食とするエスキモー族が北方から南下したために撃退せられ、アメリカ大陸に去り又は北方海賊となつて再び歐洲の天地に活躍したのであつた。

西ローマ帝國滅亡の原因の一つは氣候變動による北方蠻族の南下侵入とローマ帝國內の農業不振のため農村をすて都會に集るものが多くなつた結果とみられる。

註 人類の起源 を由來アジアに求めやうとする學者は尠くなかつたのである。然しこれがアジアの何處であるか、その精細な地點になるといつも疑問として残されて居つたのである。けれども現時の學界の輿論は恐らくは中部アジアの大高原中或はそのあたりにこれを置かうとするのである。Dr. W. D. Matlew が人類散布の中心を中央アジアに置かうとする所謂人類中央アジア起源説の如きはその代表と見るべきものである。

一體人類の進化は何處でも自然的食物の豊富で之を得るために何等の努力を要せぬ所では拘束されて退化的になる。この考へから人類の森林起源説が反對される。即ち天與の果實が豊富な熱帯及び亞熱帯地方に於ては人類の努力が個人的にせよ人種的にせよ休止してしまふからである。このことは今日の森林生活の人類がよくこれを證明してゐる。例へば南米の森林に住む土人の如きは原野に棲息するものにくらべると發達が後れてゐる。それで人類に見る最後の智力と文明とはどうしても食物の供給に乏しい原野地方に撫育されるものでなくては個人的努力と智能との力に俟たなければ發達は不可能である。

アジアに於ても乾燥した蒙古高原地方はアジアの森林低地に比し、人類の發達に對して理想的である。従

つてこの方面に人類の祖先の發見を期待されたのである。

紐育自然科學博物館が數回に亙りアンドリウス指揮の下に蒙古方面に大探検を試みたのはこの人類中央アジア起源説に出發するものであつた。一九二五年にネルソン氏が戈壁で石器を採集し、ついで巴里博物館派遣隊が鄂爾多斯の南部高原に於て舊石器時代人類の疑ふべからざる遺跡を三ヶ所までも發見した。(甘肅省の北部、寧夏の東方三〇哩 Choei-tong-keou の谷間、オルドスの東南隅 Sjara-osso-gol の沿岸、陝西省の北部で前者の南約五五哩の You-fang-teou) 而も Sjara-osso-gol からはブライストーン時代の人類の上顎門齒を發見した。

又、北平の西南方七〇支里の周口店からアンダーソン氏の發掘によつて人類の齒牙二個を發見し、ブライストーン前期のものと推せられてゐる。一九二七年十月十六日中國地質學會の發掘で同所で更に二個の齒牙を發見した。

これらの發見は人類中央アジア起源説にとつ有力な證據となるものである。(松村瞭氏、人類亞細亞起源説と化石人類の研究、東洋學藝雜誌第五百三十九號昭和三年及び同氏新に發見された支那の古人類、人類學雜誌第四十五卷第三號昭和五年)。

第二 人類の努力

然らば人類は全く自然の制約の下にあるかといへばさうではない。人類の努力は嘗つては住

み難き地をも化して、居住地たらしむることを得るのである。

アリゾナ沙漠にはアメリカ大陸横斷鐵道の驛はあるが、もとより人の棲息の許さるべき所でない。毎日水槽列車で運ばる、水によつて生活を營んでゐる。

ロスアンゼルス附近は乾燥寡雨の地であつて、到底百萬の人口を有するロ市に飲料水を供給し得ぬのであるが、百數十哩の長さ水道をもつてはるかに後方山地から水をひいて、よくロ市の繁榮を保たしめ得るのである。

インダス河下流のランノブカッチの面積六千五百平方哩の地は、土地低く、排水悪く、雨季には平原化して大小の沼澤となり、上流地方より汚物停滯し、乾季にはこれが悉く腐敗して、有名な不健康地であつたが、英國はよくそこにカラチ港を建設し得たのであつた。

ポルトガル領東アフリカのデラゴア灣頭のロレンソ・マルケス港は東方航路の商業上の要地であつたが、地方病多く、その地に移住せる白人の死亡するもの甚だ多かつたため、白人の墓地(Grave of white)として恐れられてゐたが、排水工事の結果、健康地となることを得た。今日世界の健康地と呼べる、ブラザルの首府リオデジャネイロ市は、從來 yellow fever の流行地で、二十世紀の初めまでは外交團は市を離れた山の上にあつたが、非常の英斷をもつて一舉に

悪水排除を行ひ、その結果三年の後にはこの地方病を根絶し、外交團も市内に移轉したのであつた。

ターリム盆地のタクラマカン沙漠縁邊の村落では背後の崑崙山脈天山山脈の氷河より溶け流るゝ水を遙に運河にて運び、農園をいとなんでゐる。

サハラ沙漠に於ても深き掘抜井戸によつて灌溉水を得、農園をつくつて居り、却つてその豊富なる太陽熱を利用して速成栽培をなし、地中海をへだてた本國バリーの市場よりヨーロッパの各市場に供給することが出来る。

北極圏内のユーコン河畔にも今日ではよく寒地耕作をなし、麥を植えることが出来る。

アメリカのアリゾナ、ネヴァダの地は寡雨乾燥で耕地を開拓することが出来なかつたが、アメリカ政府にて二億五千萬圓の費用を投じて、遠き背後の山地より水をひき、運河をもつて農園をつくつたが、その結果、一九二〇年一箇年のみで三億圓の收穫を得た。この地は一九一三年にはその十分の一を得たに過ぎないのであつた。

第三 適當なる環境への移動

以上に述べた如く、人類は常にその環境に適應すべく、而して生活の安定を得べく計畫し來つたのであるが、それと同時に、不適當なる土地を棄て、新に安住の地を求めて未開の地を人類の生活に適した地を探り歩いたのである。それによつて自から人類の足跡が廣まつた。

人類が移動するにあつては、もし選擇の自由が與へられてゐるならば、その前住地と同様な地理的條件を具へた土地にその新住地を求むるのが常である。従つて、一度その環境によつて得た特性は恒常性をもつやうになる。農業は遊牧民族にとつては堪え難く、純然たる漁撈民族にとつては狩獵は何の興味をも感じない。漁撈民族即ち海洋的民族はアメリカ極地に於けるエスキモアの如く、つねに長大な海岸線を求め、或ひは又、太平洋に於けるマレー人、ポリネシア人、半熱帯地の地中海に於ける古代ギリシヤ人及びフェニキヤ人は又北海の北歐人がしたやうに、その植民地を、港灣から港灣へ、島嶼から島嶼へと求めてゆく。

又、オランダ人はその國民的事業たる築堤及び灌溉術の中に育てられてゐるので、スマトラやギヤナのやうな海水浸入の海岸でも優れた技能をあらはし、海中より恢復した土地を耕作してゐる。彼のこの技能はプロシヤによつてウイストラ河流域の低地に植民され、イギリスは十七世紀オランダとの戦争で獲た捕虜をして、ケンブリッジシャー及びリンコンシャー

の沼澤地に築堤灌漑せしむるに使用したのである。

漁撈民族はその村落を擴げる時は必ず河流に沿ひ或は海岸線を求む。先史時代の漁撈民もさうであつたことは、東木龍七氏の研究の如く貝塚の分布によつて舊海岸線を求むることが出来ることによつても知られる。

山地民族は又高原地より他の高原地へと移動してゐる。アルプスの山地に住んだロンバルト人はロンバルディ及びアペニン山地のイタリヤを征服したが、しかも彼等の有した四つの公領は悉く半島内の高原地に限られてゐた。古代インカ族の征服及びその發展はアンデスの諸峽谷千八百哩の長さに及んでゐるが、それは彼らの行ふ灌漑耕作及び驛馬の牧養に適する高原地に限られてゐた。

不毛の地が弱少遁逃民族の掃き溜めであつた如く、自然資源の豊富な土地は征服民族の誘引地であつた。即ちかゝる地點は一の地理的磁石である。古代ギリシヤについて言へばテッサリヤ、ボエオティヤ、エリス、ラコニヤ等の豊饒なる諸地方は常に侵入軍を誘いたが、アテネの自然はその嵯峨たる土地、貧弱な土壤、及びギリシヤ本土とペロポネサス海峽とを通ずる路から離れてゐることに依つて幾多の侵略者の手から救はれたのであつた。ライン河峽谷の沃土こそ古來諸民族に對し強い磁石であつたが、黒森地方の不毛な山地によつて阻止されたのであつた。

第四 民族と風土順化

世界に於ける民族の分布を観察するに、民族による分布上の特異點がある。即ち、民族によつてその最も活動力を發揮し得る地域を異にしてゐるのである。

チュートン民族はその郷土たるヨーロッパ及び北米合衆國及びカナダ等に於ては、世界に於て最も優れたる能力を發揮してゐる。而も彼らは熱帯地方に廣き植民地を有してゐるにかゝはらず、その地に於ては到底土着民たることを得ない。濠洲に於て南部に於ては英人の植民が榮えてゐるが、北方の熱帯地方には及ばない。英人のインド及び東アフリカのケニヤ植民地に於ける、オランダ人の蘭領東インド諸島に於けるみな然りである。彼らは爲政者としてその地に臨むのみである。

同じくヨーロッパ人でもラテン民族は少しく異なり、熱帯地に於てもよくその地の風土氣候に順應して活動してゐる。メキシコ以南の地はラテンアメリカと言はれてゐるが加く、よくス

ペイン人、ポルトガル人の移民がその地に土着し土人とも混血して、その子孫が今日ラテンアメリカ諸國民の基礎をなしてゐるのである。

スラヴ人はその環境への適應性が強い。スラヴ人はその東方侵入に當つて、森林中の原住民者、又は極北の住民や、或は沙漠の牧民とさへも容易に混血した、アメリカに渡つたスペイン人と同じやうに、その土地のものと混血した。但し西班牙人の相手であつたアメリカインディアンのアツテック、又はインカ帝國の如きは、既に非常に高度の文明人であつたけれども、スラヴの當面したものはその文化は實に低級のものばかりであつた。

今日世界に於て最も氣候順應の力の大なる民族、即ちいかなる自然環境に於てもその母國に於けるが如くに活動力を發揮し得る民族は何れの民族であらうか。それは漢人である。漢人の世界に於ける分布をみて漢人の適應力の偉大を知ることができる。彼らは熱帯に於ても、寒帯近くに於てもよく移住し、不毛の地を開墾して沃土となして居るのである。歐洲戰爭の時、露支國境の守り衰えたる時漢人の労働者多數遠く歐洲の地に入りこんださうであるが、それらは遙にシベリヤ鐵道を徒歩で行つたものと言はれてゐる。又、同じく歐洲戰爭のとき聯合軍が西部戰線の土木工事に數萬の支那の苦力を使役したことも著名である。カリフォルニアの金

鑛、アラスカの砂金、ペルー、チリの銅山などに支那人の足跡をみざるはないが、何よりも驚嘆に堪えないのは南洋方面に於ける支那移民——華僑といはれてゐる——の活躍である。

南アメリカに於けるカリブ及びアラワク族は嚴格な熱帶的分布性を有し、ハイチ島よりアマゾン河の南方流域にまで及んでゐる。

アラビヤ族のサラセン人はその發源地は乾燥した半沙漠的な熱帶圏であるが、その分布はペルシヤ、シリヤ及び埃及に至つても猶この熱帶圏内にある。

現在南アフリカに向けて行はる、ヨーロッパよりの移民は主としてその溫帯に屬する部分即ちアルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ、南ブラジル及び南チリ等へ集中してゐる。

これに反して南米に於ける熱帶地たるヴェネズエラ及びギアナに於ては殆んど白人の移民なく全人口の八〇%以上は黒人種及び東インドよりのクローリー(苦力)である。(クローリーとは苦力と字を宛てゝゐるが、充來ヒンズー語でインドに於て英國人がその土人労働者に對して用ひたものを更に支那に於て用ひたもので、本來の意味は「雇傭」といふことであるといふ)。

ドイツ及びイタリー植民地は酷熱不健康地で不毛の熱帯に存在するために母國から移民を誘つてその國民的成長をなすことはできない。

かく熱帯地方に於ける土人の農業者はその氣候に同化し得ない白人にとつて必要缺くべからざるものである。合衆國南部の黒人種は經濟上の目的で輸入されてゐるのである。

「その地の開發をいかなる民族に委託すべきか」

吾々は地理上の理由に基く人種的分業の行はれてゐるのをみて、この問題について深く考へざるを得ないのである。

第五 民族の移動

人類の分布がかく地上に普くひろがつてゐるのはみづから移動するからである。

交通機關による移動 廣き太平洋に於ける民族の分布をみるに、數千哩をへだてた島に同じ體質と文化とを有する民族が棲んでゐる。原始的な交通機關を有するに過ぎない彼らがよくかゝる大洋を航海し得るといふことは理解し難いが、而も彼らには獨木船とは言ひながら、數十人を容れるに足る船を用ひ、彼らみづからの經驗の結果つくつた特有の海圖（波のうねりの方向を木の板で示し、貝を島に見做して枝に結びつけたもの）や星によつて方向を定めて夜間も航海することが出来る。吾が南洋委任統治領土の土人間に用ひられた石質の原料たる石灰岩は

西方のパラオ群島に産するもので、この材料を得るに遠く一千哩を距つるマーシャル群島あたりからも來るのである。而も歴史時代に於て、ポリネシア人の移動は、西はフィジー群島及びエリス群島に及んでゐた。今日では更にメラネシアのいづれの島にも彼らを跡づけ得るし、その感化の跡はオーストラリアの土語にも、又遙かに遠いアラスカ沿岸及び英領コロンビア沿岸の文化の中にさへも見出される。

陸上に於ける移動は尙頻繁に且つ複雑である。現代ヨーロッパに存在する人種上及び政治上の境界は先史時代以來の無数の移動の遺跡である。地名は何よりも有力にその事實を語つてゐる。トルコ、ブルガリヤ、イギリス、スコットランド、フランスなどの名稱さへ侵入せる民族の名稱より轉用されたものである。ことに新世界（アメリカ大陸）に於ける地名には、最初の植民たちが本國の名を紀念したものが澤山ある。例へば、ニュー・イングランド、ニュー・スコットランド、ノヴァ・スコチヤなど、又スペインに於けるガリシヤ、イタリヤのロンバルディ、フランスのブリタニー、イギリスのサセックスなどの諸州は、その名稱の中にかの民族大移動の大潮流から派出した民族の流を記録してゐる。

ラテン系の言語がポルトガルよりルーマニヤに至る地域に行はるゝことはローマ帝國擴張の

跡を物語るし、又、アリアン語系の民族が世界に廣く分布してゐるのは、彼らの世界貿易の足跡である。

トランス・コーカサス、トランス・カスピア、トランス・バイカルなどの名稱がロシアに、トランス・ヴァール、トランス・カイなどが南アフリカに存することは、その國民がどの方面から進出し來たつたかを示してゐる。(トランスとは「越」といふ意味である)

移動は平面的ばかりでなく、土地の高低に基く移動もある。侵略的優越種族は低地地方に占據し、他の驅逐された諸民族は高地に住む。それは、民族がある地に到着し、人口が多數となるに従つて次第に他へ進出し、強大なものが豊饒な地域や交通に便な峽谷や平野に侵入し、弱少なものは驅逐せられて峨々たる山岳や不毛の半島に安全地を求め、そこに自らを守るに至り、わづかに言語に又土地の名稱にその遺跡をのこしてゐるにすぎない。

いづれの國土といへども、數種族を順次に受容して今日に到つたものである。四方海によつて大陸よりへだてられたイギリスすら、ローマ人の占據から最近ロシア生れの猶太人が流入するまで數多の民族の侵略を受けたのである。かゝる侵入はひとり歴史時代ばかりでなく、先史時代に於てもその住民中に種々な分子が存在してゐたことは、「長塚」族及び「圓塚」族が考古學者

によつて發見され、イベリヤ半島及び地中海的血統の存在が人類學者によつて見出されたことなどに由つても之を證することが出来る。所謂「書かれたる歴史」なき熱帯アフリカに於ても、人類學者及び人類學者の提供する資料に従へば、そこにもまた、不斷の民族移動——増殖、擴張、征服、退嬰、驅逐、併合を存在してゐたことが證せられてゐる。

アメリカインディアンの言語的種族分布圖は彼らの「不斷の移動」を知つてのみ始めて了解され得ることである。

移動の方向及び遲速は地理的環境に支配せらるゝことが大であつた。森林は太古人類の文化が石斧又は青銅斧の使用にとゞまつてゐた時代に大なる障害であつたばかりでなく、鐵器時代の人類にとつても障害であつた。アンデスの雨量豊かな傾斜地に於けるインカ族の文明もその廣汎を森林のために阻まれたのであり、中央アフリカの黒人も僅に森林の末端に原始的農業を營むに過ぎない。古代英國の初期の植民は樹木なき地域に限局されて居り、この状態がローマ人占領の終まで人口分布はかやうな地點にのみ集中されてゐた。ローマ人占領の四世紀間に於けるローマ大道の建設された後に於てすら、開發せられた地域は森林に包圍された河谷に沿へる一線であつた。ドイツよりの侵入者の群も又樹木なき低地に占據したに留まり、森林によつ

てその進路を阻まれたのであつた。

原始民族の地理上の知識が狹隘なためその移住力を阻まれることが多い。即ち、いづこに移住するかその適確なる目的地を定め得ないのである。外部遠隔の地に關する知識が最も敏速に傳達され得る地域、例へば河川又は海濱に沿へる地方に移動が行はれる。ローマがタイバー河口を扼する地點に存在したことは、上流地方の地域に關する知識を得るに便であり、従つてその河口征服の鍵を握り得るからである。のちシーザーがゴールを占領したことは、當時の人々にとつては單に地中海から北方に於ける錫、琥珀の産地に通ずる路を占め、且又、イタリヤ國境を守護すべき地點を保持したことを意味してゐる。

戦争による移動 牧畜民族に於ては戦争は一の移住に過ぎない。水井又は牧地の供給等が乾燥期に於て缺乏を來すが如き場合には、直ちにその獲取のための競争、鬭争が惹起される。かかることは農業地方に於て見るを得ざるところであるが、遊牧民にとつては、水及び牧草の缺乏は直ちに家畜の減少を來し、ために食料の缺乏を一時補はんがために河谷へ遠征を必要とする。だから、常に缺乏勝ちな高原に於て、人口の増殖が生活資料の供給し得る範圍を越えて時には、侵入が恒常的に行はれ、それはやがてより豊穰な土地を征服するに到るやうになる。

原始時代の戦争は土地の獲取よりも、むしろ目的は奪掠と捕虜とにあつた。その結果全地域が荒廢に歸せしめられ、侵略者が引きあげた後、無人の地として打ち捨てられ、却つて第三者たる新民族の移住をみるやうになる。一六五五年エリー族がイロコイ族によつて打破された後オハイオは百五十年間殆んど無人の境となつてゐた。又北方に於けるアルゴンクインインディア人と南方に於けるアラシアン諸部族との間に行はれた長期の戦争はケンタッキー地方を事實上の無人境としてゐた。これらが白人植民の西方移動に際し都合よき空地として有したのである。

民族の遷移が征服民族によつて行はれることがある。古代ペルーに於けるインカ族がその政策として征服した諸部族を領内に於ける遠隔地に遷し、その跡へ他の地域よりの植民で長くインカ族の治下にあり多少融合されたものを布置したのであつた。紀元前七二二年アッシリヤ王サルゴンはサマリヤを征服しイスラエルの十族をチグリス河以東の地に遷し之をメヂヤの各都市に散布したのであつて、彼らは恐らくこれ等の地方民と同化したものと思はれる。そしてその遷移によつて空虚となつた地方へはバビロンその他のメソポタミヤ諸市よりの住民が移された。後、この子孫はネブカトネザル王の征服によつて再びバビロンにつれて行かれた。

この一部の民族遷移及び植民の方法はローマ人によつてさかに行はれた。被征服者をその本来の居住地から轉移することはローマ化運動を促進させると共に、被征服者から反逆の精神と實力とを弱からしむるものであつた。ローマ人はアペニン山脈の北の通路を拓かうとして山間の諸部族より甚しい反抗を受けた。故に彼等はそのリグリア族四萬七千人を遙か南方のサムニウムに遷した。又紀元前十五年アルプス地方がローマ帝國に併合された時その住民四萬人は山間地から平野に移された。

ドナウ地方には敵部族の人口が度々の戦争によつて極めて稀薄となつたので、彼等の間に僅かのローマ軍隊の植民團を駐屯せしむることによつて充分抑壓し又ローマ化せしめ得た。現在ルーマニア及び東部ハンガリーにラテン系言語は行はれてゐるのはローマ帝國時代トラヂャン帝がその地にローマ植民地を置いたためである。スペインのイベリヤ人はそのローマ化に對して強く反抗したが多數のローマ兵の駐屯でローマ化が促進された。紀元前一九六年より一六九に至る間に於ける駐屯軍の總數は十五萬人に及び、その多數は植民としてその地に留まつたのである。今日カナダのマレー灣と他の地方にフランス語使用の住民中に赤色の髮碧眼及び高原名を有してゐるのは、一七六三年以後スコットランド軍が分與地を得てフランス領カナダに滯

留したことのためである。十五世紀にトルコ人は多數の回教徒を小アジアより遷してマケドニヤ及びテッサリーに駐屯せしめ、それがためにアナトリア高地はその人口の半を失つた。この空虚に對してアジアの内部から今日に至るまで引きつゞき遊牧民が流入してゐる。

又、征服者に追はれた民族は從來ならば殆んど居住し能はぬ様な孤立的不毛の地——沙漠、沼地、マンダローグの密林、極めて高い山地、沼澤多い三角洲及び遠隔地にある不毛の島嶼——に赴かしめる。かくて遁逃民は征服民との間に障阻をおかんとするのだが、かくてこのことが地球上に於ける人類の分布を助けてゐる。

だから遁逃民が来るやうな地域は、おのづから多方面からの移住者を收容するために、多くの民族群を有する様になる。アドリヤチック海北端の沼澤性の諸島嶼は蠻族侵入當時北イタリヤ諸都市の避難民を收容した。はじめ各都市の避難民は別々の島に住んでゐたが、遂に相融合してヴェニス市を形成するに至つた。

アルプスやコーカサスは「平野よりの掃き留め」と言はれてゐる。特にヨーロッパとアジアとの境界にあるコーカサスは兩大陸人種中の凡ゆる體質的及び文化的性質の代表を有する。この狭い所程世界いづれの地よりも多種多様な民族、言語、宗教を有する所はなからう。リプレー

はコーカサスを稱して「民族言語風習及び體質の典型の墓場」だと言つてゐる。

ゲオルグ・ブッシュンの「人種學」は、コーカサスの民族を三十五に分つてゐる。

合衆國の西南部は避難區域として最も好適なものであるが、太平洋とシエラネヴァダ及びカスケード山脈の東側との間の諸峽谷に二十八個の相異なるインディアンの部族が棲む。白人侵入以來絶滅したインディアンの諸部族を言語で分つ時は二十一を數へるが、その中十五は太平洋斜面の山岳地方に居住してゐるものであることは、この地方は「弱小部群の掃き溜め」であつたことを有力に物語るものである。

通商による移動 何よりも人類の移動分布を促進せしむるものは通商である。而も出来るだけ速にその目的地に達せんとするのであるから通路が重要視される。隊商は婦人小兒を除外してゐるので、民族群の移動を阻止するやうな障壁をも越ゆる。

即ち、移民群ならば凍死又は餓死を免れ得ないカラコルム山脈も亦ヨーロッパに於て最も峻峻な障壁とされてゐるピレネー山脈も隊商又は密輸商人は古くよりその峻嶺を通過してゐた。

アルプスの峻嶺も早くよりエトラスカ族の商人に越えられてゐた。ローマがアルプスの諸部落を征服した最初の目的は、その商人達のために通路を開き、從來山地民族によつて賦課され

てゐた多額の通行税を撤廢せんがためであつた。カナダ及びシベリヤの侵略も毛皮業者がその先手であつた。バルチック海よりロシアを過ぎつて黒海に到る商路は古代の琥珀商人によつて拓かれたもので、後年幾多の民族移動に際しこの路が採られた。ニジェールよりサハラ沙漠を通つて地中海岸に出る隊商の交易は今尙重要な交通路である。

宗教上の巡禮隊 これは隊商的意義を多分に有してゐる。そして民族の分布、商路の開拓に多大の貢獻をした。ヘロドタスの記するところによれば、ダイアナ祭禮のためにエジプトよりバスチス市に集り來るものは七十萬を算し、バムビス(シリヤ)に於けるアシタロテの禮拜にはユダヤ人を除く凡てのセミチック種民族からその信者が集り來た。すでに紀元三八六年キリスト教徒の順禮でエレスサレムに赴くものは、アルメニヤ、ペルシヤ、インド、エチオピア、ゴール、ブリテンから集つた。

年々聖都メッカに來るものは七八萬の順禮者に過ぎないが、しかもその分布區域は汎く、西はアフリカの西海岸から東は支那領トルキスタン(新疆省)までの全マホメット教地域に互つて年々この人數を移動せしめて居る。アフリカ西海岸にあるものはアフリカを東に横ぎりスーダンを通つて紅海及びメッカへ移動する。これらの信者には隊商が随つてゆくを常とするが、信

者自らも亦隊商たる仕事をする。

現在世界に於けるユダヤ人の數は一千萬に達するのであるが、その中極めて僅少なものが古代に於けるその分岐中心たるパレスチナに残存するに過ぎず、八百萬餘のものはポーランド及びその隣接領域なるロシア、ポーランド、ルーマニア、オーストラリア、チェコスロヴァキヤ、ハンガリー、東プロシヤに住んで居るが、ユダヤ人は西曆紀元三世紀にライン河峽谷の商路に従つて中央ヨーロッパに入りひろく分布したのである。

亡滅せる民族 合衆國に於けるインディアン種族の言語數は五十三より三十二に減じ、而もこの三十二の中多數は單に一部族の中に、或は著しく縮少された部族の中に残存するに過ぎない。又、アフリカに於ては奴隷賣買によつて多數の小部族は全滅に歸せしめられ、ホットテントト人は周圍にあるイギリス人、オランダ人及びカヒル人の進出に對して受動的地位にあつたが、その歴史の示すところに依れば、この種族は廣汎な地域に互つて混血又は全滅の境遇に立ち到つたのである。

註一 人口減少と非國民化 現今世界は擧げて人口過剩の問題に悩んでゐるが、獨りフランスのみ異例を示してゐる。フランスは一七八九年の革命當時には人口二千六百萬を有し歐洲第一の人口を有してゐた。それ

が一八四〇年を轉機として人口増加率が減じた。一八七一年から一九一四年に至る人口増加率をみるに獨逸の六割、英國の五割に比しフランスは僅に一割である。その主要なる原因は出生數の死亡數を超過すること即ち自然増加數の甚だ少いことである。殊に一八九〇―九二年、一八九五年、一九〇七年の諸年には死亡數が出生數を超過するといふ異常を示した。

この自然増加の少い原因は何であらうか。フランスには子孫の數の制限をしてゐる夫婦が多い。一九一一年の統計によれば世帯の三分の二が二兒或ひはそれ以下を有してゐる。これはフランスの民法七四五條の遺産等分相續法、即ち男女長幼の別なく遺産を等分に相續すべしといふことがあり、フランスの如き小農國では五百萬の地主中二百萬のものは二エーカー以下の所有で、これらの小地主及農民は遺産等分相續法のために一兒以上を有することは實際に於て不可能であつて、これがフランスの殆んど定常的な人口の主なる原因である。

その外に死亡率の大なることは注意すべきでそれは結核病患者の多いことである。その高い死亡率の半分はこの病氣で、これは住宅及び下水の不完全からである。

フランスの人口の十四分の一は外國人である。その數は一九二三年に於て二百八十萬である。それでフランス國民としての量の減少より質の減少が問題であらう。(石田龍次郎氏紹介地理學評論二卷八號)

註二 人口の減少 人口は自然的原因により又社會的原因による。然し多くの場合は、この兩者が一緒になつて原因となる。自然的原因にも突發的原因と比較的久しい間に互る原因とがある。地震津波洪水火山爆發等が前者であり、旱魃による飢饉疫病は後の場合である。

吾國で記録にある地震回数だけで明治以前に二千回と算えられてゐる。それによつて失はれた人口はおびただしいものである。明治二十四年十月二十八日濃尾地震では七二七三人、明治二十九年六月十五日の大津浪には二七〇〇〇人、大正十二年九月一日の關東地震は行衛不明者と共に一四二八〇七人である。世界の地震災害をみるに八十三萬人(支那一五五六年)をはじめとして十萬人以上の死者を出したものが多い。

飢饉も一九二二年より二十二年に至るヴェルガ流域の飢饉には二千四百萬の住民が飢饉に瀕し數百萬の生民と家畜とが斃れた。

註三 タスマニヤは一八〇三年の頃には二萬人を算えてゐたが、一八二四年には三四〇人となつたのに驚き一八三一年に住民をフリンダー島に移したが却つて人口減少したのでその後諸方に移動させたが益々減少し一八五四年には十六人、一八六九年には一人となり一八七七年には全く絶滅した。永くその自然に適應して生活してゐる土人にとつては僅かの環境の變化によつて死亡率が大となる。又飲酒喫煙の風習のため健康を害し、今までなかつた病氣のために斃れるもの多く太平洋諸島の島民の人口減少が甚しい。

註四 琉球の八重山群島の石垣島は明和八年(一七七一年)には十九ヶ村の住民は二七四四〇人に達し、白保村の如きは三四〇〇人以上及び千人以上の人口を有する部落が十三を算えた。然るに同年二十四日の強震に伴つておきた大津浪はこれらの諸村を襲うて溺死者九四八八人の多きに達し一朝にして人口の三分の一以上を失つた。この天災は孤島の生活を一層困難にし饑飢疫病相ついで至り、安永五年(一七七六年)には死者三三三三人、享和二年(一八〇二年)には四二六六人、天保七年(一八三六年)の麻疹流行の際には六五五人、嘉永六年(一八五三年)の疫病には一八四三人死し、人口が顯著に減じて行つた。人口の減少を防ぐために安政

六年(一八五九年)には多子免稅の法を布いて多産を奨励するに至つた。大正六年(一九一七年)の如きは人口僅に一三四二〇人である。昔賑盛であつた白保の如きも今は人口一〇〇〇人を出ない。安良、野底等の部落も昔は五六百人の人口を有してゐたが今では遂に一人の住民もなきに到り桃里部落では今では僅かに三戸男六人女一人になり立ち並ぶ家は軒傾き壁落ち徒らに蔓草のはびこるのに委せてゐる。あの村ではもう五人になつた七人になつたといふやうな痛ましい話を聞く。(神谷尙志氏、石垣島の惨めな孤島生活とその人口減滅、地球五卷四號一九二六年)

註五 今日樺太に於ける千二百人のアイヌは適應性に乏しいため近い内に日本人に混血してしまふか絶滅するの運命をもつてゐる。(清野謙次氏、樺太アイヌ、地球五卷四號)

註六 エスキモーは今日總人口僅かに三萬五千、百年以前には四萬人と算えられてゐたが、人口が増加せず却つて減少してゐる。その原因は白人の侵入による諸種の傳染病例へば肺結核、デフテリア、流感、麻疹、性病等の移入のためだと言はれてゐる。

第四章 聚落地理

第一總論

人類が遊牧生活から農業を中心とする經濟生活に入ると共に定住生活をなすに至る。さりながら、人類個人の力は他の生物の恐威に對して、あまりに弱く且つその社交を好む性より團體をなし隣保相互扶助の生活をいとむのである。

而して人類は土地を占居するにあたり、その自然環境を利用し、又その影響をうけることが大である。聚落地理はその方面を研究する學問である。

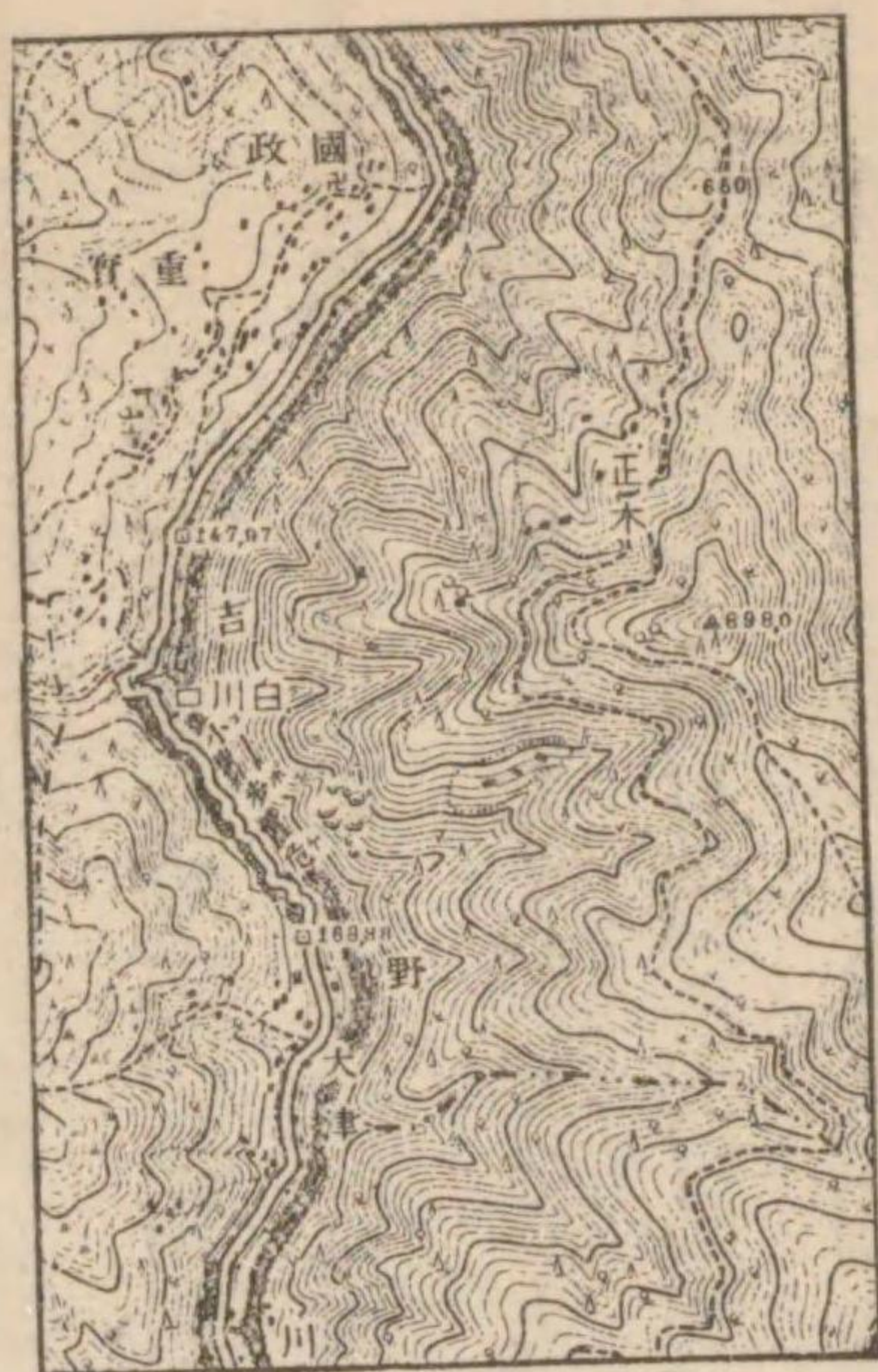
日本はその位置よりみるに、北は寒帯に近く、南は熱帯に入る廣い範圍に互つて居る。しかのみならず世界最大の大陸と最大の海洋との間に夾在し兩者の影響を蒙ること多大である。かく氣候状態の多様なると共に地形もほとんどあらゆる地形を有すると言ひ得やう。即ちこの複雑なる氣候地形の上に生活する吾國の生活状態はおのづから多種多様たらざるを得ない。即ち火山灰の上にも、高原の上にも、砂丘の上にも、海濱にも、あらゆる地形にあらゆる居住方法

をとらねばならないのである。かくの如き自然的要素に加ふるに國としての歴史古く、又種族などの人文的要素も加つて、聚落地理研究の上に、日本の如きは最もよい研究場であると思はれる。

聚落の位置 人類がその居住地を選択するにあたり、まづその條件として、太陽の光線の充分なる所、飲料水のよき所をえらぶことは、平凡なことながら何よりもこれを重要な要素とする。従つて、北に山を脊負つた南向きの土地、湧泉の地によく聚落の發達をみるは自然の理である。又いかなる地點に聚落が位置するかは地名からも察知することができる。ことに日本の特色は地名が際限もなく豊富なことである。人口の増加が土地の利用を集約ならしめると同じく區劃を細分してゆけば差別の必要が普くなるのみならず、觀察が鋭敏となつて命名法が愈々適切を加へるのは自然である。(柳田國男氏、地名考説、民族一卷四號大正十五年)

又あらゆる地形を巧みに利用したので地名にはよく地形的意味を有してゐる。河内は下流の方から命名したもので、谷の水が屢々淀んでゐる平地を指し、信州安藝ではミノチ(水内)、奥州ではカツチ(川内)といふ。或ひはカマチと呼ぶ地方がある。白河の甲子温泉、岩手釜石の奥の甲子谷(カッシ)もその地形からその意味を判することができる。タワ、タラ、トウは山峰つ

づきの中で兩側の谷の最も深く入り込んで嶺がそのために低くなつてゐる部分、従つて山越に便な鞍部、ウハノ(上野)はハナワと同じ川の兩側の高い平地、即ち河成段丘、フクラ(福良)クマ(隈)は海岸又は山中に於て水流の屈曲によつて造つた稍廣い平地で、従つて耕作居住に適した所をふくれるといふ意味から用ひ、ユラ、ユリ(由良、由利)は水の動搖によつて平坦になつた岸の平地、ユニグユルなど、いふ言葉が轉じたもの、ホキ(美濃)ホケ(三河、阿波)ホク、ホキ(鹿



11. 崖上の聚落ホケ 1:75,000
川口五萬分一地形圖(高知)

用度の進むに比例して地名が増加したのである。ノソキは野のソキ即き境上の原野、ヒヤウ(峠)は上總下總にあり、標の音から來てゐる境を意味する古い言葉でこれが音讀になつたものである。タテ(館)平地に臨んだ岡の端で邸宅のことではない。ハケは水の岸に近いところである。

地下水の露出による清水の湧出が村落の發生する重要な一條件であることは、神社の御洗水

が村落民の信仰の中心となつてゐることは小田内氏が豊前築上郡黒土村石清水八幡神社に於て又常陸笠間町石井神社に於て指摘され、又柳田國男氏が「海南小記」で琉球に於て泉に伴ふ神の傳説の多いことを記されてゐる。これは清水を戀慕ふ島人の切なる心もちのあらはれであつて水の大切な島にとつて「泉の徳」は「神の徳」であり又「王の徳」であつた。村の生活は泉を中心とし、それはまた村の親密を増す手づるでもあつたのである。内地でも何時も變らずに出る水を「弘法の水」などと言つてゐる。

沖繩島では聚落の位置の決定は飲料水に依ることが他のどこよりも強い。珊瑚石灰丘陵地の表面では地下水面が低くて井水を穿つことが容易でない。丘陵側面の崖壁では隆起珊瑚礁と第三紀層との不整合面に沿うて含水層が存在してゐる。首里の龍樋及び那覇の落平樋(オテンダジャウ)の湧泉はこの種類に屬してゐる。しかしながら一方林地の荒廢と人口増加に伴つて現在は井水の甚しい不足を來し、その使用を極度に節約しても尙天水の補助を仰がなければならぬ状態である。(武貝芳二氏、沖繩島出移民の經濟地理學的考察、地理學評論第四卷第二、三號昭和二年)

日本の鑛泉に「鹽」といふ語をもつた所が多いことは、内務省衛生局編纂の「日本鑛泉誌」について見れば明かである。これについては望月勝海君は「常磐地方の鑛泉と地名との關係」(地理

學評論第一卷)及び「關東山地北東境の地名」(地理學評論二卷)で詳しく論せられてゐる。鹽原、熱鹽をはじめ、常磐地方の鹽ノ平、鹽ノ場、鹽澤(望月君は常磐地方だけで四十一の「鹽」を伴つた地名を挙げられ尙その多くは構造線上にあることを論せられた。)甲州の鹽山、平鹽、鹽川、鹽田、鹽部あり、外國でも獨逸の鹽泉が地名となつたものに Salzdetfurth, Salzgitter, Salznüfien, Salzaach, Salzwedel, Salzmungen、奥地利に Salzburg、ブノーヴェーに Salzhemmendorf がある。

溪を出た水流が厚い扇狀地に吸収されて消え、その末端に再び泉となつてあらはれるとき同じ水系に上と下との二箇所の際落の發生をみることもある。その立地的順序は多くの場合上の位置にあるのが先であるが、交通關係で後から出來た下の方が榮え、上の方が下の方の産土神所在地として残ることが多い。

扇狀地上の聚落

扇狀地は最も居住に適した地理的位置として利用された。小田内氏の論文(日本の聚落殊に村落立地の地理學的考察 自然科學昭和四年)に述べられてある如く、山國である我が國では殊にこの場所が選ばれた。溪間を流れて來る川が谷の出口から傾斜が緩かになるにつれて、そこ



隘口村(ジュラ山脈の脊斜山梁の狭谷) (Moutier, Schweiz)

谷の出口を中心として交通路が放射狀に發達してゐる。その中心地におのづから Münster の聚落があつたのだが、後少しく平野の方へ進出した(Moutier 聚落)。もとの聚落の跡は白くみえる。



豁口村の一例(ラメエジュ山3987米の山麓のグラールバン・オアザン村落1526m)
ロマンシュ河岸に沿ふ村落は河の氾濫と山崩れとを防ぐ設備をしてゐる。聚落は密集し屋根は尖つてゐるのが特徴である。

から川下に多量の砂礫を堆積して扇状地を作り、流れは地表に於ては河道の移動と共に多くの分流をつくり、地下に於ては砂礫に滲透して地下水となり、それが泉となつて露出する。これらの水が灌漑用水として又飲料水として役立ち、又扇状地の位置が附近の土地よりもやゝ高く排水のよい事が適住地たる要素となつてゐる。そして水の得易い土地をして同時に乾いた土地が村落立地の最も重要な条件である。ことに背後の山地が花崗岩地方であれば、土砂の速かな流出によつて、著しく扇状沖積地が發達し、水質よく、排水よきため聚落の發達をみるのである。

丘陵上の聚落

丘陵上の聚落は、主として洪積層丘陵の縁邊が選ばれる。かゝる場所が多く石器時代には海岸であつたところが多く、このことは東木龍七氏の研究「地形と貝塚分布より見たる關東低地の舊海岸線」に於て知られるが、同時に又かゝる場所が石器時代に於ける好個の居住地であつたことが窺はれる。殊に谷の出口よりも奥の方が多かつた。その理由は水であつた。これと同じことが西津輕床舞附近の竪穴群についても言ひ得るこのことは現在に於いても同様で、水を

採取する難易の關係から臺地面より谷の側面に多い。

準平原上の聚落

常磐高原で谷の回春が未だ縁邊部に止る準平原上の緩い凹地に水田を開拓して田平、田代、新田、田ノ草、上君田、大荷田、大金田等の地名をもつた聚落が分布してゐる。

尙、その地方には蕨の草、廬の草、戸草、大石草、石井草、泥の草、吉野草、鹽の草、漆の草その他多數著しく眼を牽いてゐるが、吉田東伍博士によれば草とは方言山中の小部落小聚落のことであらうと言はれる。(望月勝海氏 常磐地方の鑛泉と地名との關係 地理學詳論 第一卷)

高野山町も山頂の準平原の遺物たる平夷面上にある。(飯本信之 渡邊光雨氏 日本地理大系 近畿篇)

ハナワとアクタ

扇狀地に次いで選ばれたところは河沿ひの段丘である。これは交通上河流利用に便たると共に、居住地として山近くの手頃な平坦面利用のためである。この種の聚落はハナワと呼ばれてゐる。ハナワとは河岸より高き土地との意味である故「塙」と書くが、又「花輪」と宛字をする。

ハナワ聚落ははじめ洪水の危険を避けて河成段丘上を選んだのであるが、土木の進歩で水害の危険も少くなれば、交通に、灌漑によりよく、河流を利用し得る點、かゝる地點は上流より



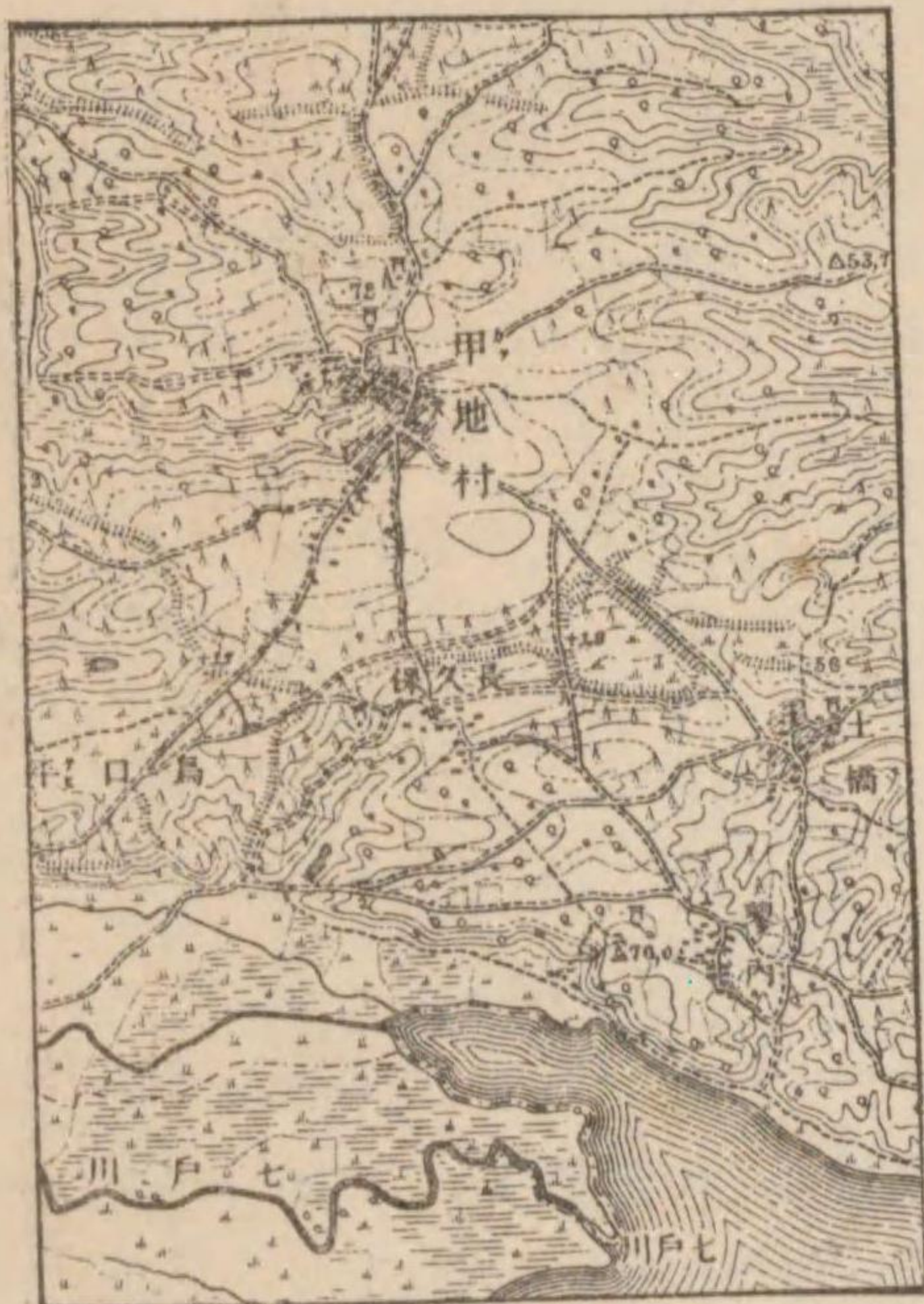
12. 塙と坪との地理的位置とその關係 1:35,000
(久松二萬五千分一地形圖(水戸近傍))

流出せる土砂の堆積した場所であるから、土壤肥沃であり農耕地として最も適してゐる。かゝる場所に聚落のさかゆるは自然である。地名も亦ハナワの如くまことによく地理的意味をもつてアクタ(タは語音變化でチ、ツ、テ、ト、と變ず)といふ。塙に對し坪と書くが又、阿久田、阿久津、明戸、惡途とも書く。アクタの眞の意味は上流より流出せるものと

いふことである。阿久津の津を港即ち河港と解し、惡途を洪水の難多きためと解するのは文字に捕はれた解釋で、一般に最初の村は高所にあり、のち交通關係などから平野にうつる。ハナワ、アクタはこのやうに、地形的意味をもつた聚落でその發生的順序も地名によつて知ることが出来る。

註 アールマンが亞熱帯伊太利に於ける人文地理學的研究によれば、亞熱帯に特有な聚落の發生的順序をみ

ると、先づ農業の發達によつて人間が定住するやうになつた時を出發點とし、少數の密集した聚落が高所に存在してゐるのは最初の時期に見る現象で、次の時期には農耕に便利な低地に聚落が移つてくる。第三の時期は聚落が分裂を始め小聚落が散在するやうになる。更にこれ伴つて農業に直接關係のない都市の形成が行はれ、第四の時期の特徴を形づくる。此の變化は農産物の量が生産者の消費量以上に達した以後に起る。(辻村太郎氏紹介地理學評論第二卷十號及三卷十一號) この聚落の位置の變化の順序はポー平野以南の伊太利全部に適用することが出来る。又諾威に於ける人口分布をみるに Mohl の調査によれば一八〇一年には海岸地域に三二・九% 峽灣地域に二四・九% 低地地域に二八・三% 山地地域に一三・九%であつたが、一八七五年には三八・六% 二七・五% 一〇・九%の割合に變じ、聚落位置の下降が見られる。



13. 沼地開拓の甲地聚落 1:75,000
小川原沼五萬分一地形圖(野邊地)

この場合最初の村は親村 (Mutterdorf 即ち母村) といひ、その村からわかれて別の土地に聚落をつくる時、これを子村 (Tochterdorf 即ち娘村) といふ。

註一 親村子村の關係は海岸近くにあつては親村を在方と言ひ、海岸の子村を濱方といふ。山地と平野とにあつては山地の親村を山方、平地の子村を里方と言ふ。

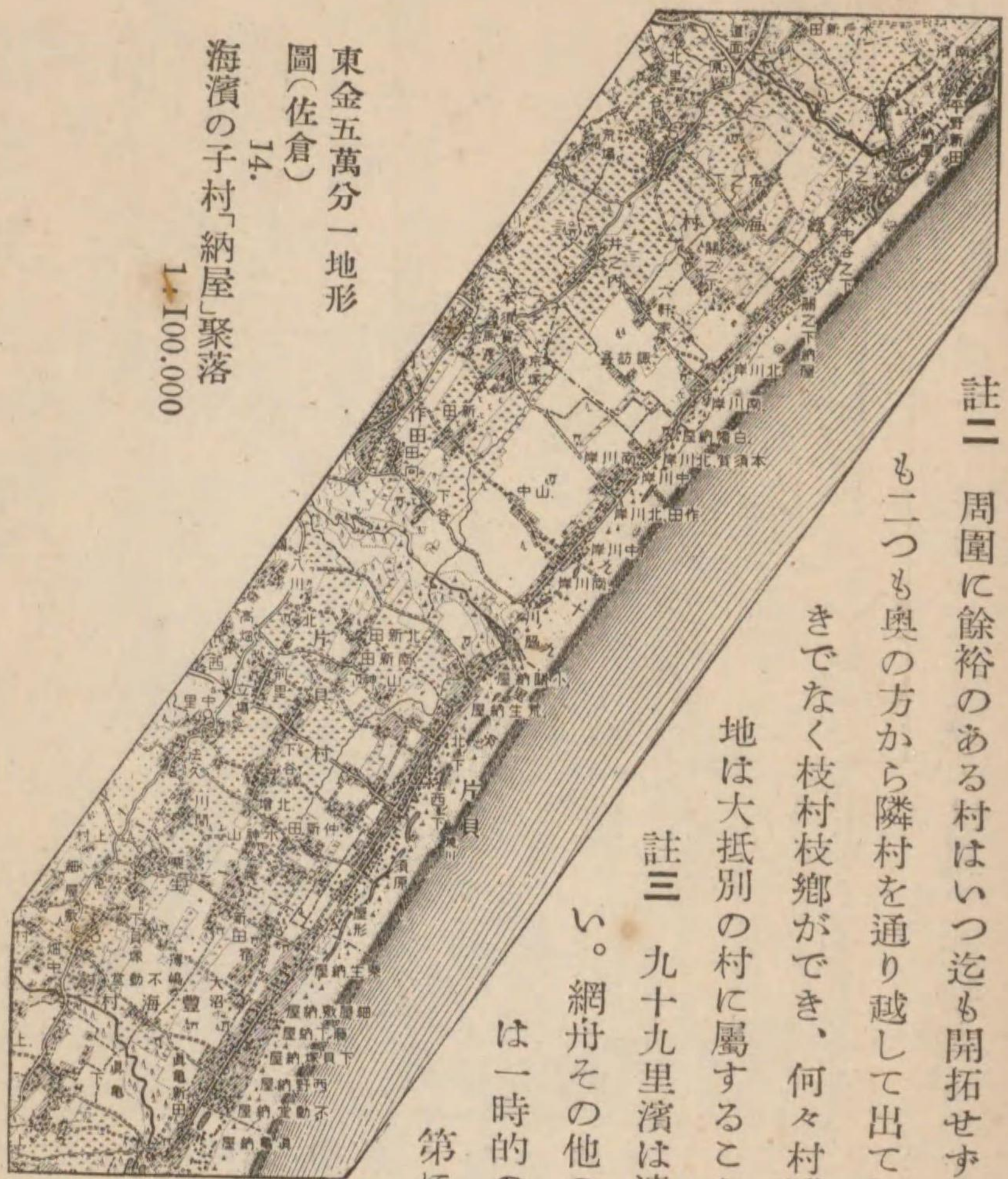
註二

周圍に餘裕のある村はいつ迄も開拓せずにおくために海濱の干潟埋立などは一つも二つも奥の方から隣村を通り越して出て行つて地先を開く。それで親村とは地続きでなく枝村枝郷ができ、何々村飛地がそここにできる。このやうな飛地は大抵別の村に屬することとなり親子の縁は切れてしまふ。

註三

九十九里濱は遠淺で地曳網に適するので鱈の漁獲が多。網舟その他の魚具を入れる所は納屋である。最初には一時的の納屋が濱に並んでゐたに相違ないが次第にそこに定着して住居を營み、遂に永久的の漁村が發達し、納屋は納屋そのものでなく漁村の名稱となつた。北

納屋、南納屋、濱宿納屋、牛込納屋、剃金納屋、八斗納屋、鷺納屋等が密着して相隣つてゐる。(田中啓爾氏、關東の人文地理、日本地理大系)



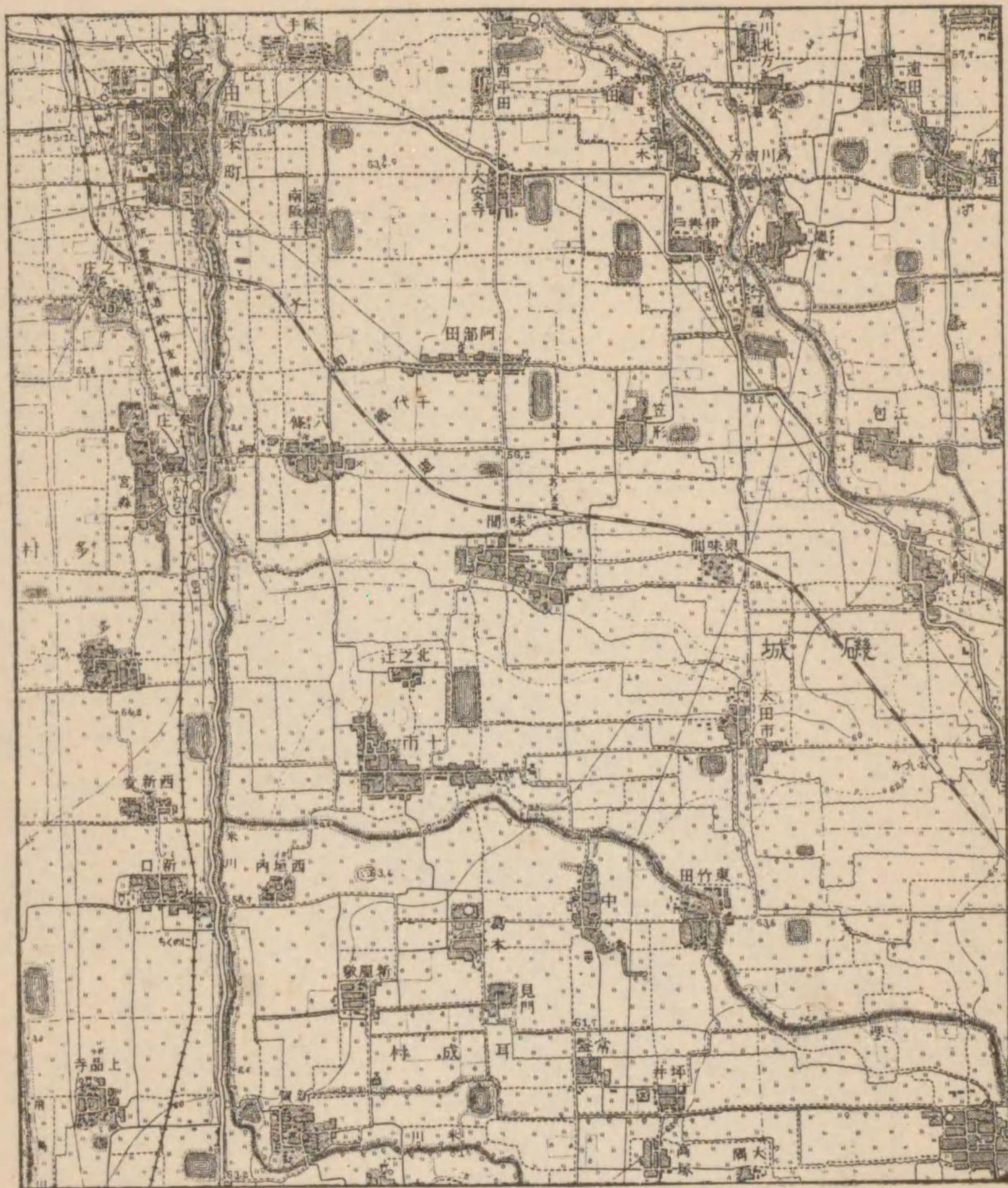
東金五萬分一地形圖(佐倉)
海濱の子村「納屋」聚落
1:100,000

聚落發生の人文的條件

一 奈良盆地にある多くの聚落は條里井然としてゐる配置をなしてゐる。これらは平城京が

支那の長安帝都に倣ひ、恭仁京が洛陽に倣つた如く、班田制度の影響をうけた當時の支那村落制に倣つたものと考へられる。小川博士は垣内式村落と呼んでゐられる。

二 又、新たに開墾した村即ち新田村には耕作の便宜から耕地と住家との距離を近からしむるため住家の周圍に耕地をつくるのでおのづから人家が孤立(散在)する。これを



15. 條里制の聚落 1:50,000
櫻井二萬五千分一地形圖(奈良近傍)

孤立家屋(Einzel Hof)と呼ぶ。小川博士は孤立莊宅と言つてゐられる。

中歐の平野にこの孤立家屋が多い。今日の農場のやうなものである。

註一 孤立家屋は聚落の形で最も簡單且つ原始的のものである。この種の家屋は孤立して存在しその周圍には自家の耕地及び草地を有し隣地と密接の關係を有してゐる。外國には林藪又は溝を以て繞らしその所有地全部は圓形若くは方形をなし稀に凸凹に富んだ歪形をなしてゐる。道路は村落共有地にあつてそれより數町又は數十町の小徑によつて各自の住宅に達することが出来る。

莊宅が大規模でその屋敷内又はその周圍に小作人の住宅を附帶してゐるものがある。北支那に於ける農村(王家莊、李家莊等の名のある地)にこれを見ることが出来る。

註二 高地の夏小屋にも種類があつて、やゝ久しい間家畜の滞在に用ふる木造の一軒屋をスタボリ式小屋 Stavoll、草刈期のみ住家で牧草の一時積み置くに用ひるものはフェニレ式小屋 Feuille、夏期作業中牧畜者の住居で協同の乳業場式はカセラ小屋 Casera と呼ぶ。(アルプス山地夏期住居とその遊牧、地學雜誌十六卷)

三 前のやうな場合に、同じく労力の節約から、村の形を細長くして家の耕地に接する面を

多くするやうにする場合がある。日本の長い村は多く交通路の兩側に發達しこれを街村 (*Strassendorf*) といふが、この場合は形態は同じでもその發生的事情は異なる。

街村にも細かい分類をすることができる。ガイスラーはその著「ドイツの聚落」で(イ)格子型(ロ)梯子型(ハ)肋骨型などに分けてゐるが、これは街道の發達の程度によつて附したものである。

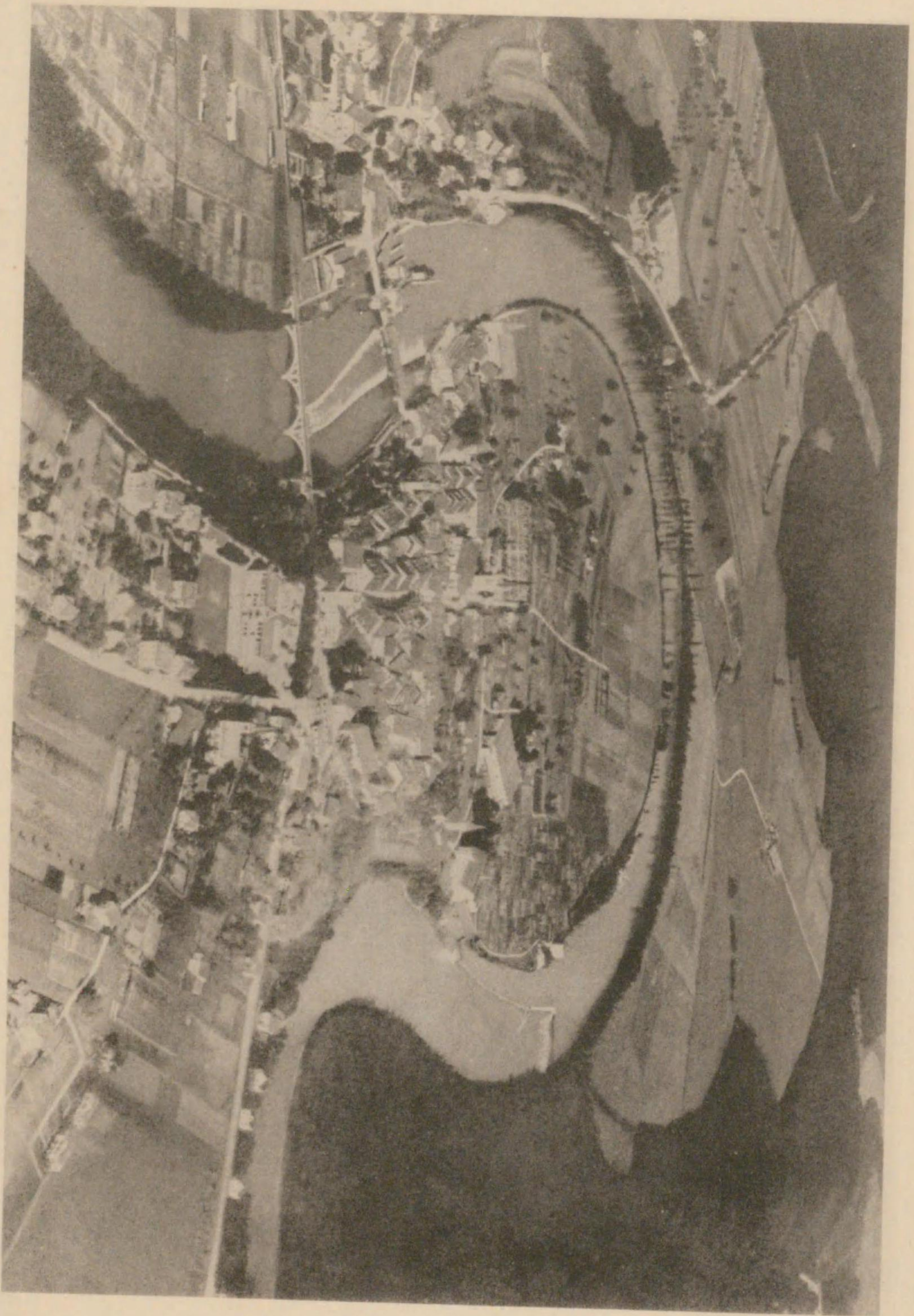
(四)街村の一つであるが、交通路に沿うて點々と間をおいて、而も連続して發達した村をその形態からみて鏈村といふ。

(五)山野の開墾に際し、地主がその小作農民の家を周圍に集めて所謂圓い村即ち環村 (*Runddorf*) をつくる場合がある。戰國時代に郎従をつれて田舎に隠れた落人の村は圓い村になつてゐたらしい。環村で有名なのがスラヴ人の村である。今日東部プロシヤ及びシレジャの地方にドイツ人の聚落に混つて島の如くスラヴ人のつくつた村がある。今日この村にはドイツ人が住んでゐてもその村の形態によつて、以前の地方にスラヴ人の住んでゐたことが判るのである。

註 大ロシア人の村の形 大ロシア人の村の形態としては道路を挟んで兩側に二列に民家の並んだ街村が一般的である。かゝる村は水利に便な川べりに發達してゐるものが多く河谷や山峽を傳つて數露里に延互する



鏈村 (Troockenental Dutzang-Bichelsee, Schweiz)



袋原の都會 (Breuningen, Schweiz)
交通路は袋原をその頸部で切つてゐる。河に守られ且交通の要衝たる聚落の位置は早くこんなところを選んでゐる。



袋原の聚落 (Reutz 河に臨める Bremgarten, Schweitz)
附近に聚落がなく袋原の頸部にだけ密集してゐることは近くでみるよりもこの圖のやうに遠くから眺めるとよく判る。

ものさへある。



16. 明治十五年の東海道の街村 1:30,000
横濱區二萬五千分一地形圖(品川及横濱近傍)

又従来ロシヤの村の特長として圓狀村落とかスラブ型の圓形の聚落などの語で言つてゐるが、村の中心には教會堂があり、そこから村道が派生して民家がその中心點をとり巻いて、信仰が村の形に影響を及ぼしてゐる。又そこに定期市が立つ。

交通路と聚落 交通路と聚落とは密接不離の關係にある。交通路の變遷は同時に聚落の變遷である。然し、徳川時代の交通政策たる「宿驛の制」によつて、街道に沿うた農村ことに宿驛附近の農村は馬匹人夫の徵發をうけたため、農村が頽廢したところもある。宿驛は附近農村の物資集散市場として發達した。

註 諸大名の公用繼飛脚の往還及び大名が參觀交代その他の人馬供給に宛つるため徳川幕府直轄東海道には百人百疋、中仙道は五十人五十匹、その他の奥羽道中、甲州道中、日光道中の三街道は二十五人二十五匹の定めであつたが、宿驛でその供給が却々困難であつたので、附近の町村の石高に引當、人馬の供給を強制し、これを助郷人馬の加従と言つた。五街道中の重なる宿々、殊に東海道の如きは何れも

一萬坪以上の地子即ち公租を免じてあつた。

河道と交通路とは殆んど一致してゐるから、河の合流點は又同時に交通路の交叉點である。かゝる地點におのづから聚落の發達をみたのである。かゝる地點におのづから聚落の發達をみたのである。殊に又河を横ぎる渡場に於てさうであることは地名に「渡」「橋」の地名を有するものが多いことから窺はれる。聚落は橋村 (Brückendorf) といふ。英國のケムブリッジはもとケム河の橋の袂に、アルプス山中のインスブルックはイン河畔橋頭の町である。フランスのポン (Pont) の地名が常に河を横ぎる所にあり、吾國では橋本、船橋、古橋など地名そのまゝ、聚落の起源を物語つてゐるのである。「渡」の方では、オックスフォードは交通上の要路にある關係から中世に於てイギリス南部に於ける重要な家畜(牛)市場たることを語り、ドイツのフランクフルトのフルト (Furt) は英語フォード (Ford) と同じく「渡」の意味である。川ではないけれども海峡でも同様、トルコのボスポラス (Bosporus) 海峡のボスは牛で、ボラスは Ford 又は Furt と同じく「渡」である。

新田聚落 我國の封建時代にはさかんに新しく土地が開拓された。ことに灌漑用水路が開鑿されると、それに沿うた野が開かれ、多くその地の草分け者の姓又は名をとつて記念とした。



河の兩側にある都會 (Olten, Schweiz)
こゝでは河が防禦としてよりも経済的にもつと重要な役割を果してゐる。この都會は河を自分の生活機能の大きな要素にとりいれてゐる。河岸をあますところなく活用してゐる。



河の一方に發達した都會 (Aarburg, Schweiz)
「橋本村」の典型的のものである。橋は河の狹隘地を占めてゐる。橋の据を中心として放射状に
街路が走つてゐる。町の生命は橋の一點に集中されてゐる。對岸は殆んど利用されてゐない。

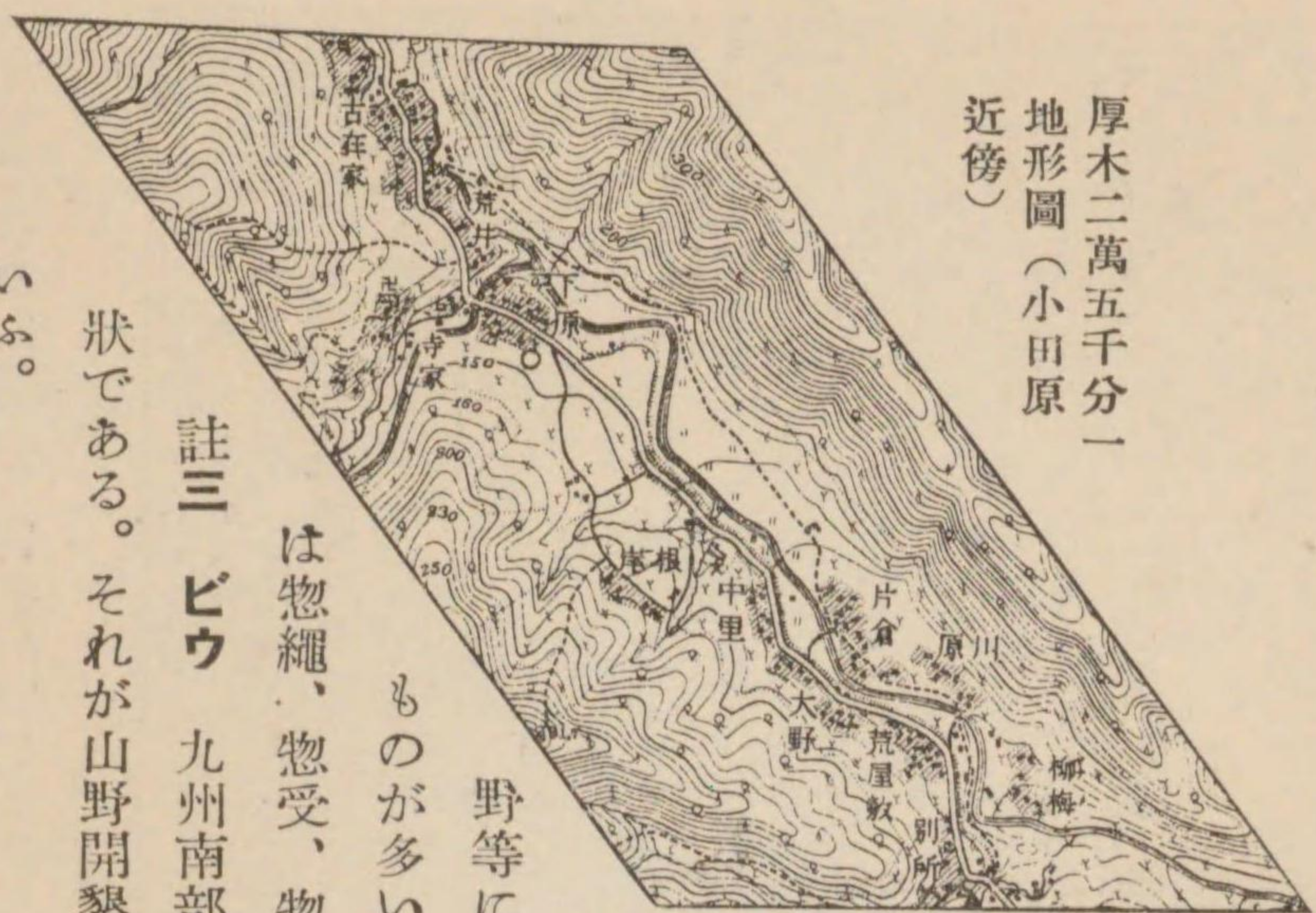
何々衛門新田とかいふ地名が数限りなく見られる。

註一 新しく開かれた土地には新(越中方面)、新地、新村、新田、新開、新畑、開墾、濱、納屋(九十九里

濱鹿島灘沿岸)、搦(有明海)等の名を伴ふ。

註二 土地の開墾に際して開墾地を割地として村民が土地を分割耕作する場合と単地として村民一團として耕作する場合とある。多くの場合作業季節が一致してゐる關係から村の一致を必要とした。労働の方法も以前では各獨立のものでなく結合して行つた。かくして開墾された土地は結、手結、田氏、田結、手子、田子(手とは雇傭労働の制度を意味する)の地名として残つてゐる。單地經營にも有力なる豪農の支配によるものがある。越後平

厚木二萬五千分一
地形圖(小田原
近傍)



野等に見らるゝ如く大地主の制をとり、地名にも個人名義の名を以つてするものが多し。又組合式で各自入費と勞力との持寄りのものがある。かういふ新田は惣繩、惣受、惣開きの新田の名をもつてゐる。

註三 ビウ 九州南部で別府、別符をビウと呼ぶ。(符とは太政官符即ち太政官の發した特許状である。それが山野開墾擴張する特許状となつた)。關東では九州のビウに當る土地を別所と

す。

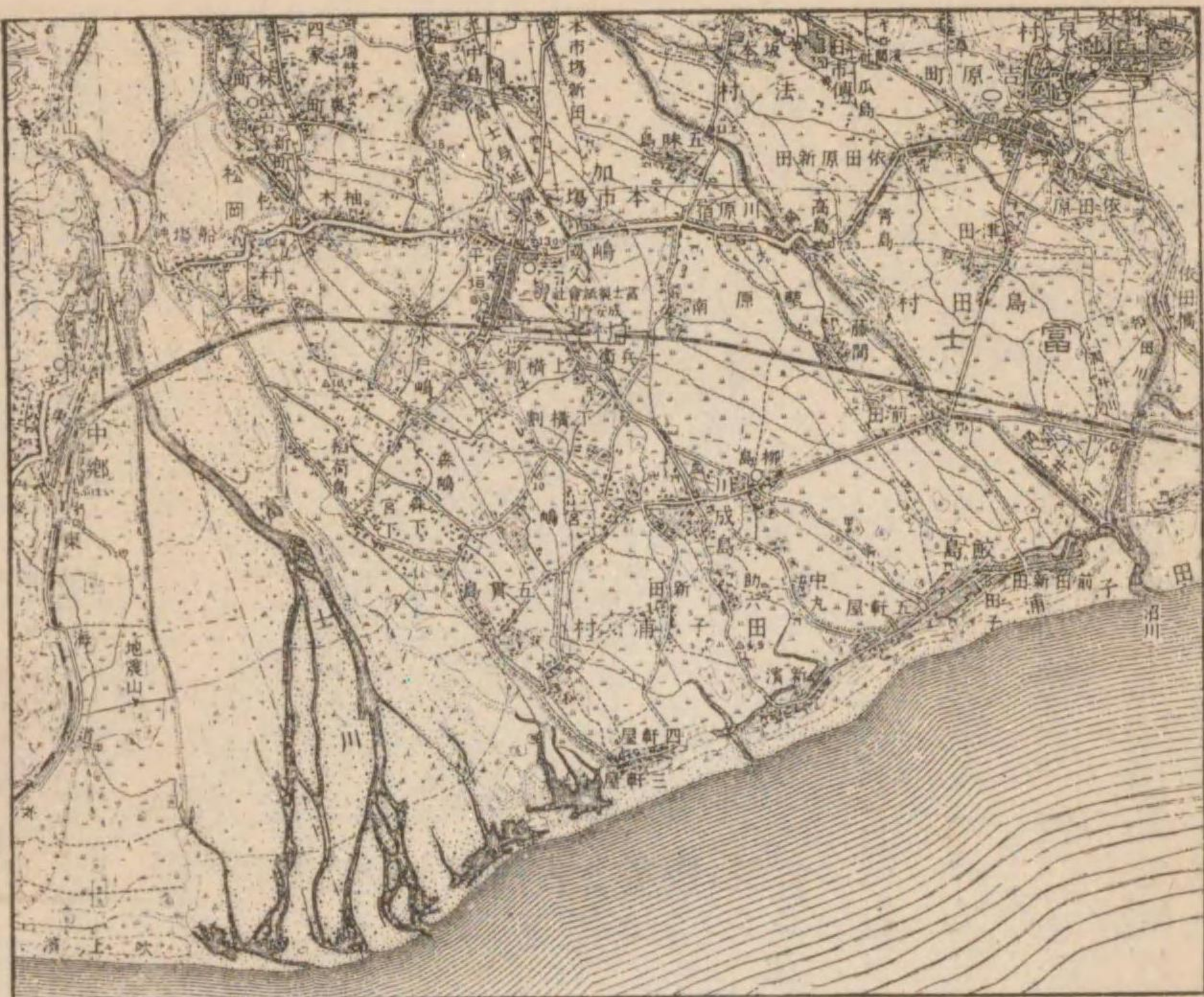
註四 越後の方では新田より一段古い新田で古新田、外新田などといふ村がある。その外越後ではこれらの

新田と併立して何々興野(ゴウヤ)といふ地名がある。これはやはり開墾地を意味する語で山形縣、秋田縣にも大字の字名に多い。宮城縣では高野(ゴウヤ)と書き、關東では幸谷といふ文字を用ひてゐるのも同じことで、

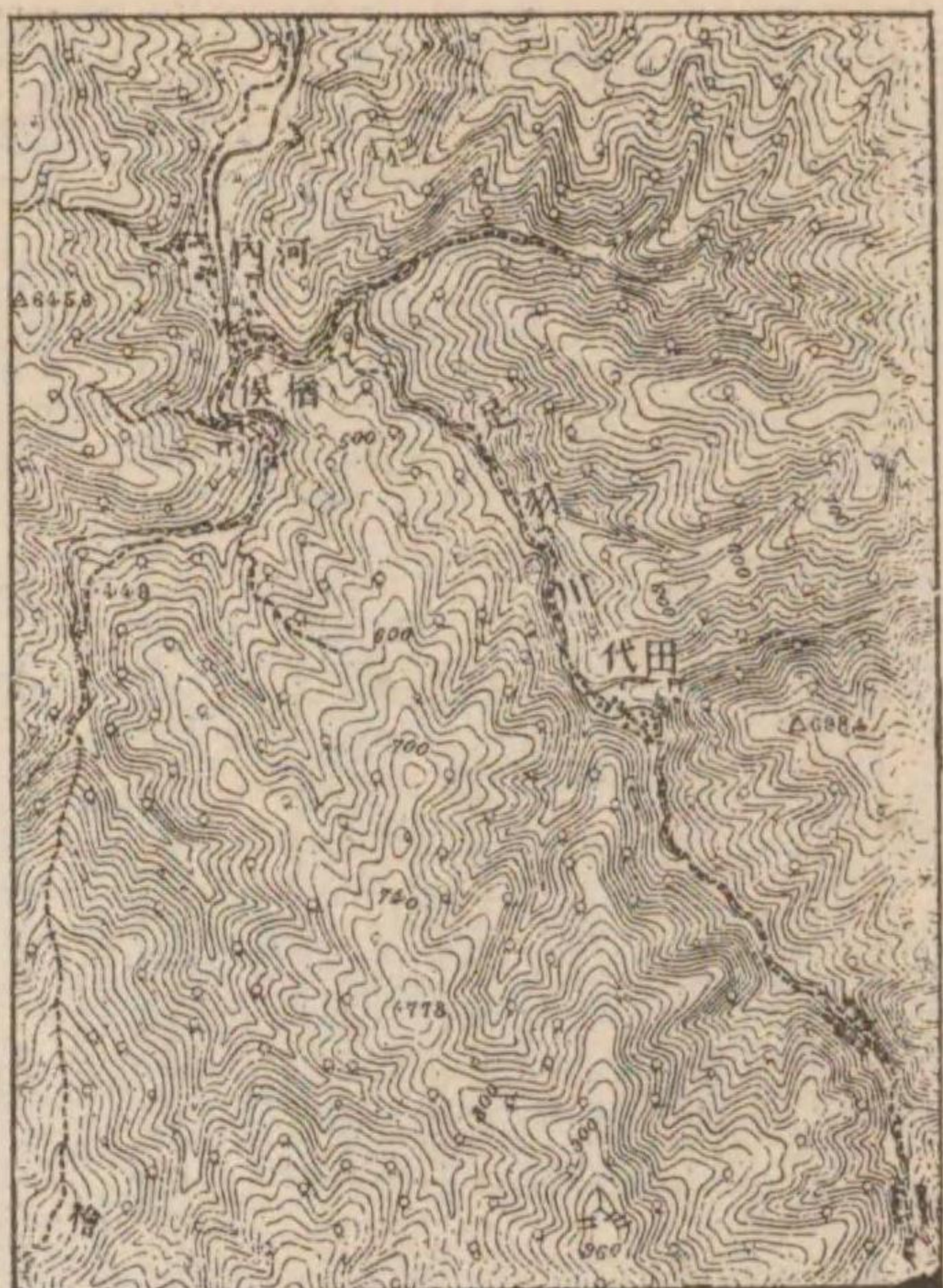
本義は荒野であつて開墾奨励のため地租をとらぬ荒野同様の取扱ひをするといふところから來てゐる。

註五 本莊に對する新莊も追加開墾地である。本莊が公田即ち國の領地である時には莊と言はずに郷又は保といふ。新郷、別保、新保などは本郷本保に對する別符である。又別名と言ふ所もある。「名」は莊園の小區劃の意味である。これらは枝郷、出郷、出村、子村(娘村)と呼ばれるものにあたるものである。註六 シマ(島、洲)シマには同音異義の二語があるが兩者ともに「島」の字をあてたので混同せられた。左に之を區別して釋く。(松岡靜雄氏日本古語大辭典)

(一)島嶼の意のシマ 磯間シマの意から轉じたものであるが、島國なる我日本は大八洲とも稱へられた。神代紀には次のシマと區別するために常に州の字を用ひた。

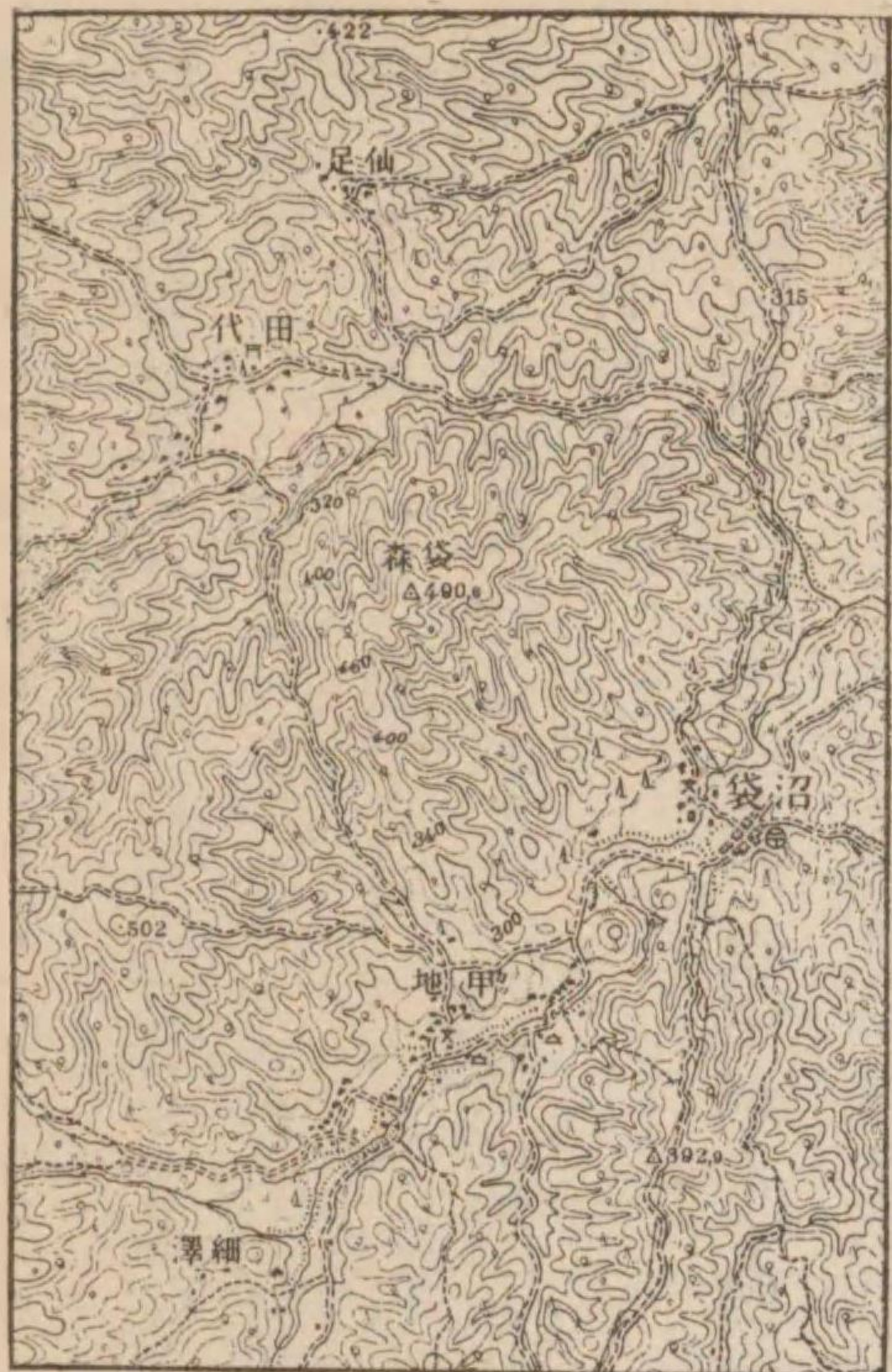


18. 氾濫原の開拓聚落「島」の分布(富士川河口) 1:100,000
吉原五萬分一地形圖(静岡)



19. 甲地と田代との地理的位置
とその關係 1:75,000
夜叉ヶ池五萬分一地形圖(岐阜)

(二)居住地を意味するシマ 原語はスマ(栖間)で須磨播磨といふ地名もあるのであるが、夙にシマと轉呼せられた。磯島、秋津島、橋の島、攝津の三島等のシマは皆之に屬するもので、沖繩では今も村落をシマと稱へる。河口、海島に於て湖沼の周圍の植出し、原野、山麓の切添、川荒れの跡地を再び島にしたところに島の名を伴へる聚落が多い。富士川の河口の氾濫原に島なる地名を伴つたものを十六ヶ所を算え得た。



20. 田代と河内との地理的位置と
その關係 1:75,000
岩泉五萬分一地形圖(盛岡)

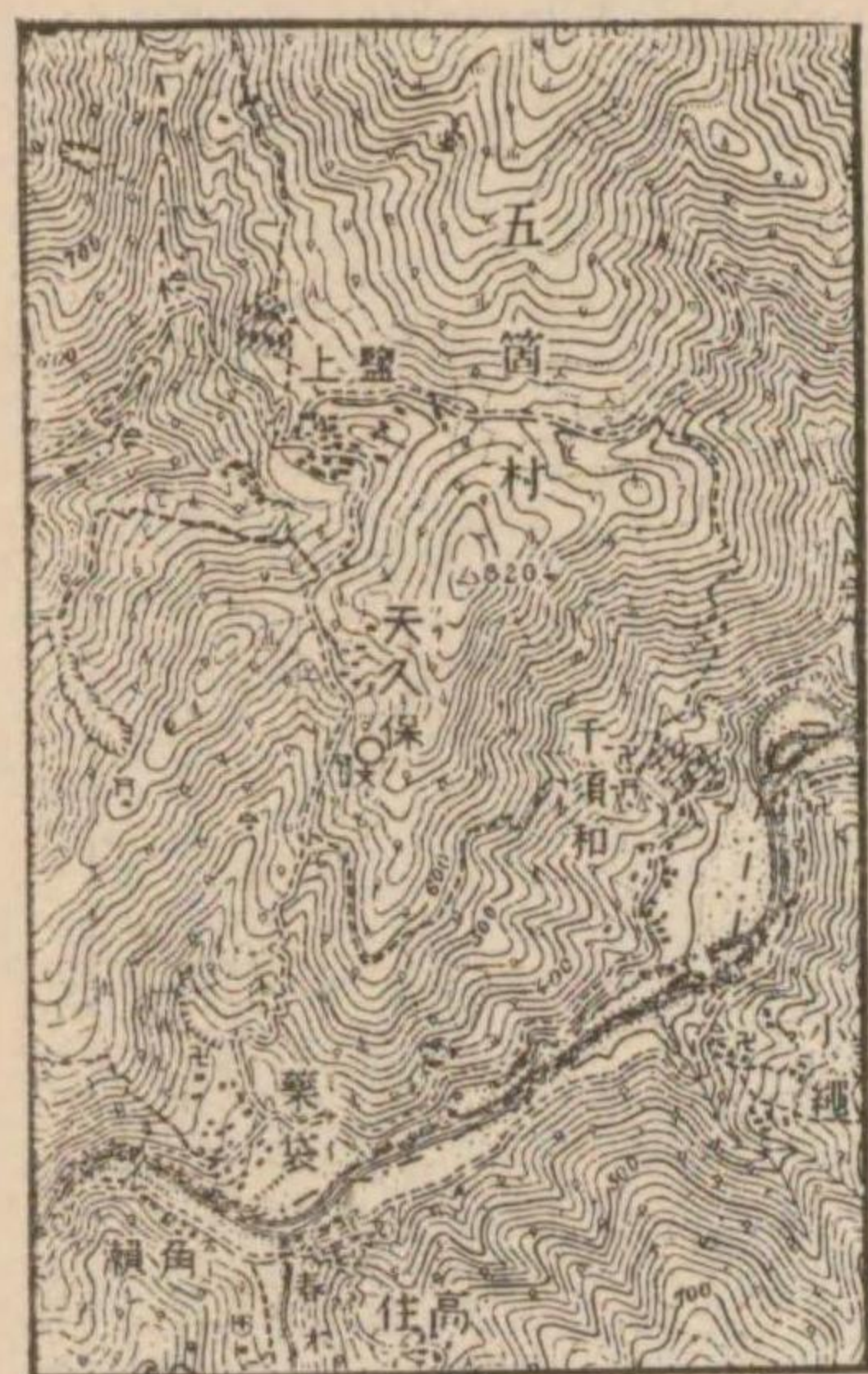
耕作地が平地から次第に谷深く入りこみ、谷の奥地の僅かばかりの平地を開いて村をつくるとその名は田代をもつて呼ばれることが多い。代たい(後には代と讀んだ)とは福田博士によれば「耕地の面積の尺度の名であるが、別に一定の地積といふ意味でなく、生計を支ふるだけの土地

の分け前」といふ意味であるといふ。

註 我國では古く代といふ語を以て地積を表示した例は甚だ多い。子代、名代といふのはさうした名をもつた土地であり、苗代といへば苗を種うる田地、御年代といへば年穀を種うる田地である。草代、倉代、桑代いづれも之に供すべき土地である。さうして本義から轉じて、その用に供するものを代と言つた。禮代といひ幣代といふが如き例をひかれて、代は「田地」といふ意味であると言はれてゐる。(藤田元春氏「尺度綜考」(地割考我國の田制「代」參照))

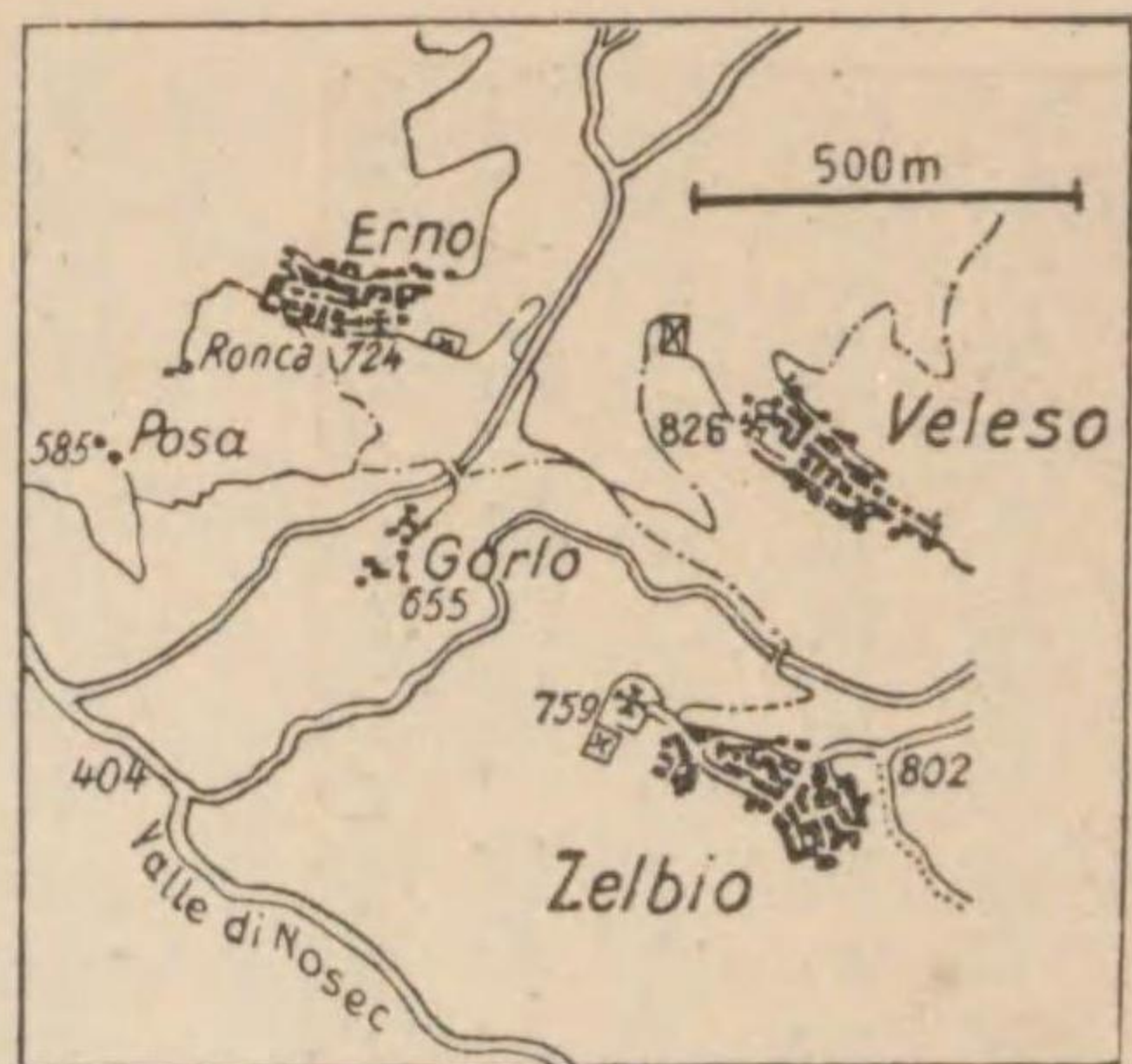
吾が國の如く山間僻地まで水田がよく開かれたところには、この田代部落が非常に多い。山近いため灌漑用水はつめた過ぎるので、用水路を迂曲して暖めなければならぬので、谷間の開拓にも制限があるやうである。(これを又ルミといつてゐる。)

註一 吾國の如く火山の多い國が火山の裾野の利用を度外視することが出来ぬ。ここには階段狀の田を作りその先端を田代と呼ぶことが多い。



21.ガカの聚落の位置
1:75,000
身延五萬分一地形
圖(甲府)

註二 日本には川の流を溯つて小さな盆地が幾つもある。古くはこれを入野と名づけ、最も落人の土着に適してゐた。こんな場所の開墾されたのが穩田である。こんな歴史のある村は山入り、山添ひの大字であつて土佐の高地の村に見るが如く城の如き石垣をもつ百姓家



22.イタリアのアルプスの山地聚落 (Enzensperger)
聚落の位置は四國祖谷地方と相似てゐる

がある。關東では武相の境にある。越前越中その他の山國にある五箇山といふ在所は出作(又は田屋)の行はれるところである。五箇は柳田國男氏によればゴアであり空閑といふ漢字の音であり誰も占有しない土地のことから出たといふ。
註三 日本に於ては大體に村は高い所から低い處へ移り、傾斜地から平坦地へ移つて行つたといふことが出来る。しかし又ある時代には川上へ川上へと進んで行つたこともあつた。これは一つは農作以外の勞働需要がなかつたといふこともあるが、主なる原因は社會勢力の統一に反對する傾向が田舎の隅々迄充滿してゐて平地が常に爭奪の土俵であつたため、世を避けて山に入るといふことはむしろ平凡人にとつて必要なことであつた。彼等は山林の自由を得んがために他方に於ては頗る忍びがたきものを忍んだのであつた。(菅沼可兒彦氏 村の年齢を知ること 郷土研究第四卷第一號大正五年)

支那の劉家屯とか張家店、又は張家口といふが如く、劉氏張氏の開拓者の名をとり、英語の地名の語尾に ham ドイツ語の heim 例へばバーミンガム Birmingham, マンハイム Mannheim といふのも英語の Home を意味してゐるので、新たに土地を開き若干の家が集り部落を作ることから出たものである。

街路の屈曲 街村といつても地形に制約されれば屈曲するが平地の街村でも屈曲することがある。それは封建時代の城下町で軍事上から町を屈曲せしめて、町の見通しを妨げ且つ防禦の便宜から人爲的に屈曲せしめたものである。又、長き街村で一本道路の單調を破るために屈曲せしめたともいふ。

註一 城下町は平城と平山城とに伴はれた。山城には城下町が起らなかつた。そして平城よりも平山城の方に多く、平山城の場合に山麓地帯の丘陵、平野内部の丘陵、孤立丘陵とが選ばれた。第一の例としては飛騨山地の西北麓、浅野川、犀川間に發達した。丘陵の先端を利用して築城された金澤城の城下町たる金澤、第二の例としては那珂川と千波沼との間に西方より延び來つた丘陵の先端に設けられた水戸城下の水戸、第三の例は紀の川南岸に近く存在する岩丘上に設けられた和歌山城下である。(西田與四郎氏、城下町の研究 地理教育七卷)

註二 要害山の下武家小路は近代の城下町又は屋敷町であり、麓(薩隅)拵(肥後)土井山下(中國四國)堀之内、堀籠、根小屋、箕輪、寄居(東國)の名を有してゐる。これらの町屋は必ずしも地形上の麓と一致してゐないで、場合によつては山を一つ野を一つ隔てゝゐることもある。

註三 鶴岡市は酒井氏の城下町として發達した都會であるが、その市街に於て市の邊境である各街道への門口に當る城廓時代の木戸即ち番所の所は、故意に小屈曲を作つて道路を直進せしめず、市内の見透しを不可能ならしめてゐる。これらは何れも藩時代の十一木戸のあつた所で、外敵防禦の軍略上の顧慮から來つたも

のである。その外十字形街路の少きに反して丁字形の街路は意外に多く、その數七十五ヶ所に達し、城下町防禦の軍事的意義を有するものと考へられる。(中島東次氏 城下町としての鶴岡市 地理教育 九卷二號)

聚落の變化 封建時代に於て耕地に比し人口過剰なる所では耕地擴張のため、又一方山林荒蕪地開拓のため、村落を平地から立退かして、山麓荒蕪の地に新聚落をつくらした。かくて收穫の増加を計つた。(作州津山藩)

註 作州津山藩では耕地からみて人口が過剰である。耕地を擴張せんため又山林荒蕪の地を拓くため平地にある村落に立ちのきを命じて山麓荒蕪地に新聚落をつくらした。そして藩の財政收入の増加を計つた。尤も移轉者は免稅した。今日この地方の山林丘陵中にはもとの村落があつたと思はるゝ遺跡が澤山にある。この一種の内地植民は相當効果をあげたといはれてゐる。(黒正巖氏 作州津山藩の村落移轉策 地球 一九二六年)

吉野川下流に於ける河道の變遷で聚落の破壊移轉したものが多し。和名抄に見ゆる郷名中現在不明のものが約三分の一ある。古代四國の聚落が多く平地に發達してゐるのは(和名抄の一七〇郷中一六六郷は百米以下の平地に位してゐる)古代に於ては農業よりも漁撈に依ることが多かつたからである。(小牧實繁氏 古代四國の聚落について 地球 四卷第三號一九二五年)

出雲風土記所載の聚落や神社の所在地、和名抄所載の郷、武内神社の所在地を現在の地名と照合し、一々これを地圖上に記入してみると、これらはいづれも山地か或は沖積地との間、或は

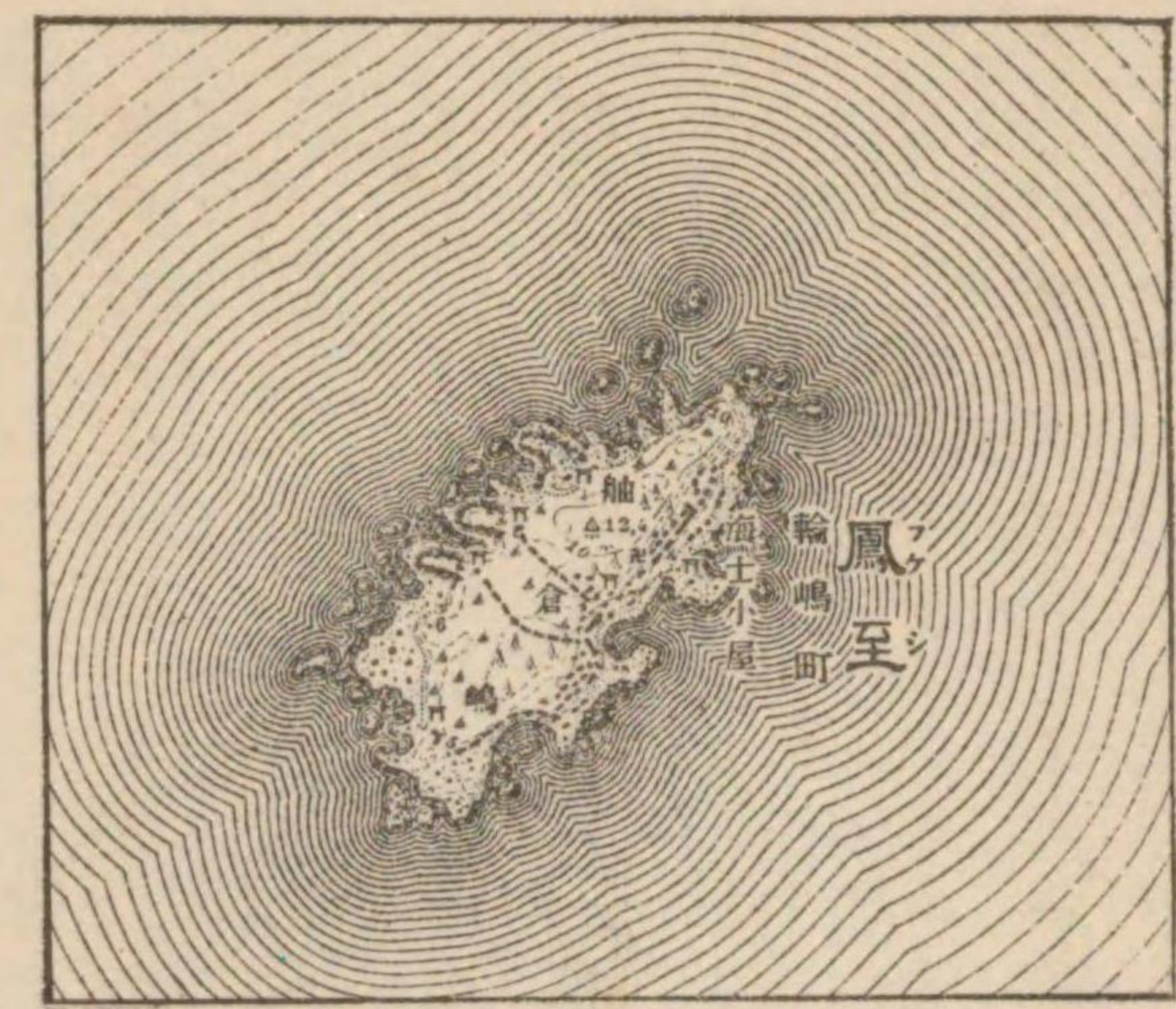
濱山砂丘の風下側たる地點に存在し瘴癘沮洳の地や洪水の難ある地を避けてゐたことが判る。

(小牧實繁氏 出雲の沖積地海岸 地球三卷一號一九二五年)

朝鮮では聚落の成立又は移轉がかなり容易に行はれてゐる。大同江の南支南江に沿うた平南

中和郡破邑の部落が洪涵地にあつたために、洪水によつて損害をうけてその後下流八町の階段地上に移つた。

(中村新太郎氏 朝鮮の人口とその分布 地球 第三卷第四號大正十四年)



23. 夏聚落の海士小屋(舩倉島) 1:75,000
舩倉島五萬分一地形圖(輪島)

大きな漁村となる。冬無人の島にも毎年繰り返へす移住のため永久的建築の家をつくつてゐる。

(石井逸太郎氏 季節と共に興廢する能登沖舩倉島の漁村 地球 五卷一九二六年)

住家の交替も屢々ある。この原因は戦争大水その地の天災によるものである。荒れたところ

が何十年か隔て、又來て開く。かく村から野となり、野が再び村になる。このやうに廢れた村が又蘇るなど一度聚落に選ばれた土地が常に聚落の位置として選ばれるところに、聚落の立地的意義がある。

家屋と聚落 民家の構造にはそれぞれその地方特有の形態がある。例へば、北陸及び東北地

方に於て冬期積雪時の交通の便宜のため家屋がガンギ又はコミセと呼ぶ屋根の出張りをつくつてゐる。

養蠶地方に於て、蠶室をつくるため、屋根裏を大きくとつてこれを利用し、又、山間僻地に於ける大家族の家では多人數の家族を收容するため大きな家屋をつくり、又同一地方でも時代によつて家屋構造の上に變化あり、古き家の形によつて聚落の歴史を知ることが出来るなど、家屋の構造が聚落地理の研究の上に、重要な参考となるものであるが、詳しくは藤田元春教授の「日本民家史」に就いてみられんことを希望する。

ルドウィヒ・メッキングの研究によれば、ドイツ、シレジャ地方では劇しい西風を避くるため村が東方に延長して居り、關東地方で西北風を避けるため家の西北側に木立をつくり江州でも冬琵琶湖からの風を防いで西北に松林を植ゑるといふ。臺灣の生蕃の聚落が敵の襲來に具へ且

つ低地に於けるマラリヤ病を避くるため高き山の中腹以上の地（ブヌン族の如きは一八二〇米にも及ぶ）にあるため、自然強風を受けざるを得ぬので、出来るだけ風のあたらぬ凹所を選んでつくつてゐる。小川博士の説によれば、越中國西部の聚落が散村をなしてゐるのは、飛驒高原からの山嵐（Foehn）が強いため火防の故なりといふ。（後節参照）

註一 北米における聚落と開拓地の高度をみるに（地理學評論二卷一號拙文）濕氣に富む海風の方向に斜に走る山脈に於ては、農業聚落は風下風上に於て高度の差がある。即ち上コロンビヤ及コオテネー河に於ける農業聚落の位置をみるに風上の側が雨量が多いので風下側より高い地點まで聚落が進出し、聚落の分布が不均齊であるのが特長である。

盆地では鑛山地を除いて聚落は全く盆地の高さに終つてゐる。だから盆地の平均の高さの増加と共に聚落の最高度も増す。この聚落形態はすべての乾燥又は半乾燥の盆地に共通であるから「盆地型」と名づけられてゐる。

鑛山聚落は鑛山の開設、廢棄、冬季の採鑛、燃料木材の伐採などが條件となつてゐるが、不確な採鑛の結果による一時的の聚落形成が多い。

太平洋海岸山脈は西側と東側との氣候に非常な差があるので氣候に恵まれた西側は東側に比して高位置にある。

鑛山地に於て風下の土地が熔鑛爐の鑛煙のため土地開墾聚落の形成が阻害されてゐることも著しい。（拙稿）

（長野縣下伊那郡小林村等）



階段耕作景の一例（長野縣下伊那郡下栗部落）
こんな急傾斜の谷も頂上近くまでよく拓かれてゐる。家屋は畑の中心にある。



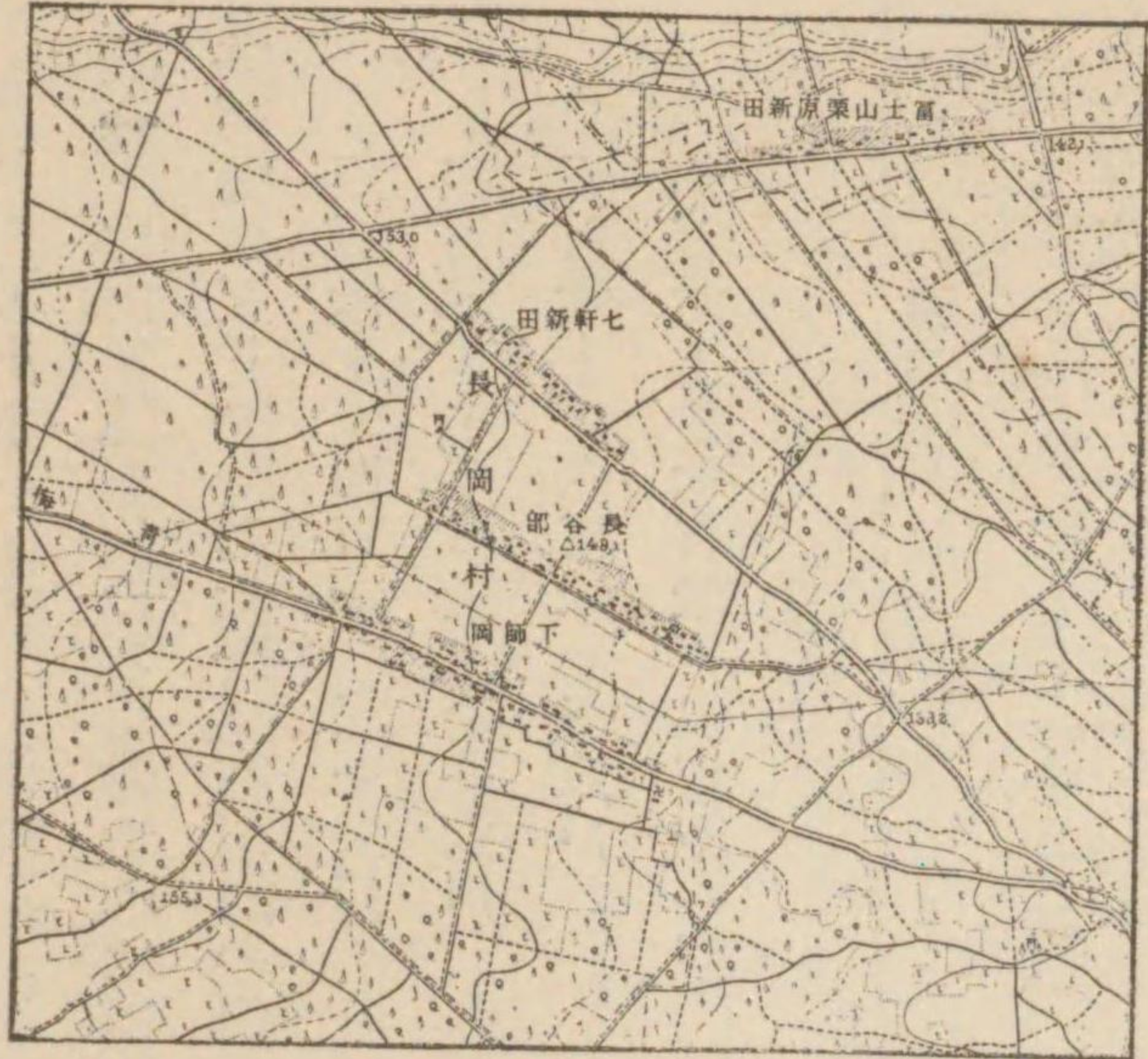
後退してゆく森林
棄落はその後を追つて山頂に迫つてゆく。(Rigi Kulm, Schweiz)

山頂に迫つてゆく森林の退却



完全に拓かれた山腹 (Amden, Schweiz)

森林はわずかに小さい谷の刻みに残されてあるに過ぎない。家屋は畑地を中心として存在しホーフとなつて居り、交通路の附近にだけ多少密集してゐる。



24. 林隙村(森林の中の島) 1:50,000
青梅二萬五千分一地形圖(八王子近傍)



25. ハルツ地方の島状開拓聚落 (Lütgens)
森林地に於ける島状開墾

下旬より十一月上旬までは山地(白山々谷、千米の高)まで孤立家屋が全傾斜地に散布し森林中に島状開墾をつくり、夏村をいとなむ。谷底の親村は日射量尠く

盆地聚落の機構に就いて 地理學評論 二卷九號)

註二 關東平野の聚落が西北卓越風を避けた方向に配列されてゐる。ドイツの西シュレスウィヒ・ホルスタインでも聚落が著しく東の方向に配置する原因も風向の故であるとルドウイヒ・メッキングが注意してゐる。

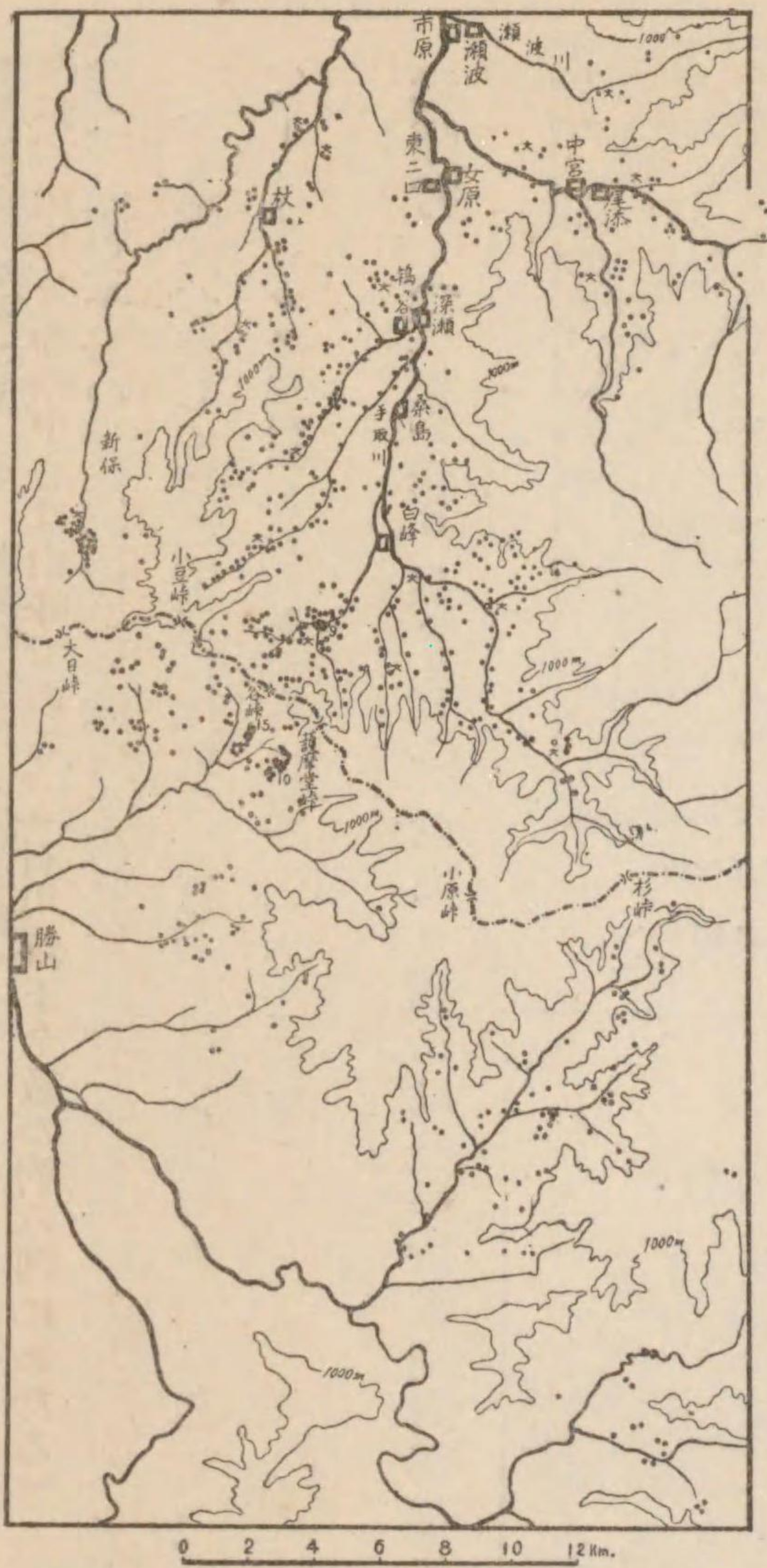
(ペータイマンズ地理學報六九卷一九二三年 一九一三頁)

林隙村 (Island-like Clearing) 白山々麓には冬季積雪期間部落に居り、その他の期間(四月

積雪も大であるに反し、傾斜地の夏村は耕作に便である。

註一 白山々麓に於ける出作地帯は田中啓爾、幸田清喜兩氏の研究によれば(地理學評論三卷四、五號)石川福井兩縣に互り能美郡大野郡石川郡の内殊に能美郡を代表的の地域として居り、その垂直分布は

三百米	四百米	三百三戸	七百米	八百米	百六十八戸
四百米	五百米	七十六戸	八百米	九百米	百二十六戸
五百米	六百米	百八戸	九百米	千米	四十五戸
六百米	七百米	二百一戸	千米	千百米	十六戸



26. 白山山麓に於ける出作分布圖 (田中・幸田氏原圖)

即ち、五百米から九百米までの間にその戸數最も多く、それより上方に進むに従ひその數を減じ三百米以下千百米以上には全くこれを見ない。
出作りの發生地は白峰で、それが峠路の關係で北と南とに擴大し

たが、出作分布の中心は白峰である。(石川縣下全數の約六割にあたる)

出作地域は手取り、九頭龍川の多くの支流によつて甚しく開析された傾斜面、崖^{テラス}、崖^{テレス}、段丘の地形面の上に存してゐる。その利用の方法は傾斜緩で所謂「平」と呼ばれてゐる様な所に住居を設けその周圍は畠とし傾斜やや急な土地は大概山腹まで又時には山頂近くまで雑畑としてゐる。そして如何なる場合に於てもその土質、日向、溪流への距離がこの傾斜面利用の上に明瞭に現はれてゐる。

註二 ヨーロッパの温帯地方の高山にあつては牧畜を主とする散村で高さ二六六五米(ローヌ川流域アンペール谷)に達するものがある。これらの住民は冬季谷底の冬村(Winter Dorf)にあつて春季融雪を待ち牧草の生ずる如く家畜と共に次第に高地に登るものであつて盛夏の候はその最高點に達し、秋季次第に下山す。故に冬村より高地牧場に至る間は數多の一時的住居の散村を見る。

註三 ギリヤーク、オロッコは生活の必要上春秋と冬とを別々の所に住居し、春秋には漁撈のために川邊に、冬は馴鹿の食物及び燃料採取のために凍地地帯を選ぶ。

アイヌ聚落は概して河岸にある。しかし近時各地に散在してゐたアイヌと聚合したため固有の生活状態を失はれつゝある。(小田内通敏氏 南樺太の村落 人類學雜誌 四十一卷の一)

註四 エスキモーは夏の部落と冬の部落とを有する。
夏の部落は彼等多年の經驗によつて危険が最も尠くて狩獵に最も都合のよい場所を選定する。海の狩獵が主であるから氷の最も早く解ける河口のデルタの上に土語のツピクスといふ海豹の皮で被ふた幕舎を建て、此處ではカヤークの呼ぶ土人の舟を曳いたり、重い海獣の死骸を引き揚げたりするに容易な上、河水が

流れてゐるから飲用にも料理にも好都合な譯である。その上濱傳ひに橋を走らす便利も得られるのである。

冬季の部落は頑丈なイグローといふ石疊であるから、夏の部落のやうに容易に移動は出来ない。従つて冬の部落が數百年間同じ場所であり得る譯である。夏の部落同様に經驗から酷寒の烈風を避け積雪の少ない陽當りの好い、狩獵に便利な隣村との交通の安全な飲料水の得易い場所が選定される。即ち灣や入江の口等が是等の條件を大抵満足させる場所となる。

註五 奥國人口の高さによる分布にはエンゲルマン (R. Engelmann) の研究がある (ウイーン地理學報六七卷一九二四年) 夏小屋に移動する人口推定は全人口の一、四五% 即ち二二〇〇〇人と計算されてゐる。

註六 小笠原群島母島に於ける夏村 甘蔗は畑から刈り取つて幾日も放つて置くわけに行かない。せいぜい三四日以内に汁を絞取り取つて直ぐ砂糖に作つてしまはなければならない。大規模に砂糖製造をやらうとするに耕地と製造場との間の交通が重大な問題になつて、母島では地形がそれを許さない。そのため畑から刈取つた儘その場所で製造を行ふといふやうになり、丁度木炭製造の場合と同様、山の耕地の掛小屋でその製造をやつてゐる。さうすると山の耕地に通ふ不便から製造場に附屬して住家を營むのが一般となつたらしい。かくてよく平分に各戸の耕地區域に密着して位置してゐて、地形と作物とに制肘された散村なのである。夏の農閑期には山の家を引きあげて住む家が海岸の港の町にある。こゝが移住當時のすべての人の根據地で、ここから漸次に耕地開拓のため山へと侵入したのである。

奈良盆地に於ける聚落の分布をみるに、聚落は平野の周圍山地に近いところに密である。そ

れは平野はその地形は極めて單調で起伏のない平野で排水悪しく卑濕の地が多いのに反し、山麓地は高燥且つ飲料水よく、又平地と山地兩方より生活物資を獲易きが故である。

註 奈良盆地の聚落は盆地の周邊地域に最も多い。(人口密度一方里中央地域一一、九九九人、中間地域一〇、七三七人、周邊地域一八、一三七人) その原因は盆地の中央が極めて單調な殆んど起伏なき平地で排水悪く卑濕な所が多い。且つ盆地中央部は古代から文化の中心で久しい以前から戸口の飽和を來してゐた。徳川時代 (正保三年) の人口と比較すると現在と殆んど同一である。これに反して山麓地帯は飲料水高燥の土地の條件に恵まれ且つ平野と山地との接觸地帯兩地帯より生活資料を得易いなど聚落構成に便である。(西田與四郎氏、奈良盆地の聚落 地球五卷)

第二 聚村と散村

聚村と散村との研究は廣く自然、社會、人口、農業等の状態に及ぼされなければならず、又歴史、民族學等の知識をも必要とする。

一九二五年カイロで開かれた萬國地理學會議の結果、又次に一九二八年ロンドンに開催される同會議の準備として萬國地理學聯盟 (L' Union géographique internationale) が組織され、その實行委員は地方聚落の問題研究に關する委員會を作つた。此の會はビアシッティ Biasutti (イタ

リー) ドマンジエオン Demangeon (フランス) フリュールア Fleure (イギリス) ミシヨット Michotte (ベルギー) 其他より成る。なほ其他の國よりも此の問題に貢献して居る人を選出して、委員の數を増加しやうとしてゐる。

聯盟委員は大體の意見を次の言葉で發表して居る。「地方聚落の問題研究、地方聚落の凝集及び散在の起原及び原因、自然條件の影響、民族的習慣の影響、財産制度及び文化の影響(農村、植民の方法等)……」此等は決して地方聚落に關する研究問題の全部を網羅するものでは無くて單に研究の方法を指示し、研究の出發點たるべきものである。

問題集

I 定義

1. 地方聚落とは如何なるものを指すかを定義する。
市町以外の人類居住地を總て此の中に包括して宜いだろうか。或は此の名稱を單に農業にのみ従事する住民の場合のみに限つて使用するを可とするか。或は又更に廣義に解釋して、凡ての地方聚落を含み、工業に従事する住民をも含めて考へる事にするだろうか。
2. 集合或は集中と稱するものの定義。



ワイラーとホーフ

殆んど抜き盡された森林地の跡の耕地がその耕作物の違ひによつて複雑した土地利用景觀を示す。聚落は耕地に制約されておのづからワイラー(小村)かホーフ(孤立家屋)となつて散在する。(Eminentaler Hügelland, Schweiz)